

国際馬術連盟

馬場馬術規程

第25版

(2014年1月1日FEI施行)
2020年1月1日更新

公益社団法人 日本馬術連盟

本規程は英文版が原本となります。
本規程の英文と和文に差異がある場合には、英文が優先されます。

目 次

序 文	4
FEI 馬スポーツ憲章（馬のウェルフェアのために）	
第 1 章 馬場馬術	7
第 401 条 馬場馬術の目的と一般原則	
第 402 条 停 止	
第 403 条 常 歩	
第 404 条 速 歩	
第 405 条 駢 歩	
第 406 条 後 退	
第 407 条 移 行	
第 408 条 ハーフホルト	
第 409 条 方向変換	
第 410 条 図 形	
第 411 条 レッグイールディング	
第 412 条 側方運動	
第 413 条 ピルーエット、ハーフピルーエット、ターン・オン・ザ・ホンチズ	
第 414 条 パッサージュ	
第 415 条 ピアッフェ	
第 416 条 インパルジョン／従順性	
第 417 条 コレクション	
第 418 条 選手の姿勢と扶助	
第 2 章 馬場馬術競技会	25
第 419 条 国際馬場馬術競技会の目的	
第 420 条 国際馬場馬術競技会のカテゴリー	
第 421 条 競技課目	
第 422 条 参加条件	
第 423 条 招待、参加申込、交代	
第 424 条 出場人馬の申告	
第 425 条 スタートイングオーダーの抽選	
第 426 条 選手の重量	
第 427 条 服 装	
第 428 条 馬 装	
第 429 条 アリーナと練習馬場（図については付則「アリーナ」を参照）	
第 430 条 競技課目の実施	
第 431 条 時 間	
第 432 条 採 点	

- 第 433 条 審査用紙
- 第 434 条 順 位
- 第 435 条 成績の計算と発表
- 第 436 条 表 彰

第 3 章 競技場審判団、JSP、獣医師代表団と獣医師代表、 スチュワード、および馬に対する虐待行為 64

- 第 437 条 競技場審判団
- 第 438 条 JUDGES SUPERVISORY PANEL (JSP)
- 第 439 条 上訴委員会
- 第 440 条 馬に対する虐待行為
- 第 441 条 獣医師代表団と FEI 獣医師代表
- 第 442 条 スチュワード

第 4 章 ホースインスペクション、獣医検査、薬物規制および馬のパスポート ... 71

- 第 443 条 ホースインスペクション、獣医検査および馬のパスポート
- 第 444 条 馬の薬物規制

第 5 章 CDIO、シニア世界選手権大会、大陸選手権大会、地域大会、 個人・団体 FEI 馬場馬術選手権大会、および大会（Games） 72

- 第 445 条 CDIO
- 第 446 条 FEI 選手権大会 - 開催運営
- 第 447 条 競技場審判団と技術代表
- 第 448 条 上訴委員会
- 第 449 条 競技参加
- 第 450 条 出場資格
- 第 451 条 経費と特典 - 選手、グルーム、チーム監督、チーム獣医師
- 第 452 条 順 位

付則 1 ユースアスリート・カテゴリー 79

第 1 章 緒 言

- 第 1 条 概 要
- 第 2 条 諸規程の優先性

第 2 章 国際競技会への出場資格

- 第 3 条 概 要
- 第 4 条 参 加

第 3 章 国際競技会

- 第 5 条 国際競技会
- 第 6 条 選手権大会

第 4 章 その他の明細事項

第7条 経費と特典

第8条 褒 賞

第9条 馬のスクーリング

第5章 大陸および地域選手権大会

第10条 参加申込

第11条 出場資格

第12条 競技と課目

第13条 団体順位と個人順位

第14条 賞と賞金

付則2 国際馬場馬術審判員88

付則3 貸与馬で行う CDI／CDIO の指針91

付則4 パ・ド・ドウ93

付則5 厩舎セキュリティ94

付則6 馬場馬術アリーナ95

付則7 国際馬場馬術競技会のカテゴリー96

付則8 名誉章 107

付則9 FEI 馬場馬術審判員規範..... 108

付則10 日当 110

付則11 装具／馬具参照例 111

序 文

馬場馬術競技会の現行規程は第 25 版であり、2014 年 1 月 1 日付けで施行。本規程には U25、ヤングライダー、ジュニア、ポニーライダー、チルドレンを対象とする馬場馬術規程も含む（「馬場馬術規程」）。

これ以前に出されている同様の内容を網羅する他のすべての規則（旧版とその他すべての公式文書）を、本規程に替える。

本規程は、国際馬術連盟（FEI）が統括する国際馬場馬術競技会の詳細な規則を定めるものであるが、定款や一般規程、獣医規程、その他すべての FEI 諸規程の併読が必要である。

この馬場馬術規程にあらゆる事態を想定して記載することは不可能である。予測し難い異例事態が発生した場合は、できる限りこの馬場馬術規程と FEI 一般規程の趣旨に沿い、スポーツマン精神に則って決定をくださのが競技場審判団、あるいは該当する人物もしくは組織の任務である。この馬場馬術規程に記載漏れがある場合には、本馬場馬術規程のその他の条項と他の FEI 諸規程と最大限整合性をとり、スポーツマン精神に則って解釈するべきである。

馬場馬術規程では、男性形の用語を使用しているが、これには女性形も含むと解釈のこと。

大文字で記載されている単語については、馬場馬術規程、FEI 一般規程、あるいは定款にその定義を示す。

FEI 馬スポーツ憲章

馬のウェルフェアのために

国際馬術連盟（FEI）は、国際的な馬スポーツに係わるすべての者が、FEI 馬スポーツ憲章を順守し、いかなる場合にも馬のウェルフェアが最優先されることに同意し、これを受け入れることを求める。馬のウェルフェアよりも、競技の勝敗または商業的な側面に重きを置くことがあってはならない。以下の要点を特に順守しなければならない。

1. ウェルフェア概要

a) 良質な管理

馬を最上の状態で管理するには厩舎設備および飼料給与が不可欠である。清潔で良質な飼葉、飼料、水が常に与えられなければならない。

b) トレーニング方法

馬は当該種目で求められる身体能力および技術に応じたトレーニングを受けるべきである。馬を虐待するような方法または恐怖を与える方法を用いてはならない。

c) 装蹄および馬装具

フットケアおよび装蹄は高い水準になければならない。馬装具は傷害や外傷のリスクを避けるようにデザインされ、つくられていなければならない。

d) 輸送

輸送中は、馬の傷害やその他の健康被害に対して十分な対策がとられていなければならない。車両は安全、良好な換気、高水準の整備、常に清潔な状態で、かつ適格なドライバーが運転しなければならない。馬を正しく扱える者が、常に馬の管理のために同行していること。

e) 移動

すべての輸送は最新の FEI ガイドラインに則って綿密に計画され、定期的に飼料および水を給与するための休憩時間をとらなくてはならない。

2. 競技参加適性

a) 競技参加への適性と能力

競技への参加は、十分な能力を備えた競技参加適性のある馬および選手に限定されなければならない。トレーニングから競技参加までの間には、馬に適当な休養期間を与えなければならない。輸送後にも休養期間を与えるべきである。

b) 健康状態

競技参加適性がないと判断された馬は、競技への参加または参加の継続をすることはできない。その馬の参加適性に疑義のある場合には獣医師のアドバイスを求めること。

c) ドーピングと薬物

ドーピング行為および薬物の不法使用またはそれらの行為を意図することは、ウェルフェアに係わる深刻な問題であり、認められていない。いかなる獣医学的な治療であっても、治療後には競技の前に完全に回復するだけの十分な時間が必要である。

d) 外科的処置

競技馬のウェルフェアあるいは他馬および／または選手の安全をおびやかすあらゆる外科的処置は認められていない。

e) 妊娠牝馬／出産直後の牝馬

妊娠 4 カ月以降または仔馬を伴っている牝馬は競技に参加させてはならない。

f) 扶助の誤用

馬に対して過剰な負担となる騎乗あるいは器具（鞭や拍車など）による過剰な扶助は認められていない。

3. 競技会が馬のウェルフェアを損なってはならない。

a) 競技場

馬は適当かつ安全な路面上で馬のトレーニングと競技を行わなければならない。すべての障害物および競技環境は馬の安全を考慮してデザインしなければならない。

b) 路面

馬の通行路や、トレーニングあるいは競技を行う馬場の路面はすべて、傷害を引き起こす要因を取り除いてデザイン、維持されていなければならない。

c) 異常な気象条件

馬のウェルフェアあるいは安全が確保できない気象条件の下では、競技を実施してはならない。競技参加後の馬のために、馬体を冷やす環境および設備を整えなければならない。

d) 競技会場の厩舎

馬房は安全かつ衛生的で、換気が良く、快適であり、馬の品種と性質に適応できるだけの十分な広さがなければならない。水の使える洗い場が常設されていなければならない。

4. 馬の人道的な扱い

a) 獣医学的治療

競技会においては常に獣医学的な専門技術が提供されるべきである。もし馬が競技中に受傷、あるいは疲弊した場合、選手は競技を中止し、獣医師の診断を受けなければならない。

b) 救急センター

必要であれば、さらなる検査および治療のために、馬は救急車で最寄りの治療施設に搬送されなければならない。受傷した馬には輸送前に最大限の手当てを施すこと。

c) 競技におけるケガ

競技中に発生した傷害については調査が行われるべきである。競技場路面の状態、競技出場の頻度、その他の危険要因について、傷害の発生を最小限に食い止めるために、注意深く調査しなければならない。

d) 安楽死

傷害が重篤なものである場合、その馬は可及的速やかに獣医師によって安楽死処置を行う必要がある。安楽死は苦痛を最小限にする人道的な方法で行われなければならない。

e) 引退

競技から引退した馬は、人道的に扱われなければならない。

5. 教育

FEI は馬術スポーツに係わるすべての者が、競技馬のケアおよび管理に関する知識について、可能な限り高いレベルの教育を受けることを推進する。

馬のウェルフェアのための馬スポーツ憲章は、あらゆる意見を受け入れて、適宜改正される。新しい研究成果に注目するとともに、FEI はウェルフェアに関する研究のための助成およびサポートをいっそう促進する。

第1章 馬場馬術

第 401 条 馬場馬術の目的と一般原則

1. 馬場馬術の目的は調和のとれた調教によって馬を幸あるアスリートに育て上げることにある。その結果として、馬は穏やかで柔軟性を示し、のびのびとフレキシブルな動きを見せるばかりでなく、自信をもち、注意深く敏捷となって選手との相互理解が完璧な域にまで達するのである。

このような資質は次のような動きで表現される：

- ペースを自由自在に変じ、かつ整正であること
- 調和がとれていて軽快であり、かつ容易な動きであること
- 旺盛なインパルジョンから生み出される前躯の軽快な振り出しと後躯のエンゲイジメント
- いかなる緊張や抵抗も見せず、従順性／透過性（Durchlässigkeit）をもって銜を受け入れていること

2. これによって、あたかも馬自身が自分の意志で要求された運動を行っているような印象を与えるのである。馬は注意深くかつ自信に満ち、おおらかに選手の指示に従って直線上ではどのような運動でも馬体を完全に真直ぐにし、曲線上を進む時には馬体をそのカーブに一致させるようベンドさせる。

3. 常歩は整正かつ自由でのびのびとしたもの。速歩は自由で、関節をよく屈伸させて、整正で闊達な歩き。駈歩は運歩にまとまりがあり、軽快で均衡のとれたもの。後躯の動きは決して不活発であったり、緩慢ではない。馬は選手の極めてわずかな扶助に反応して、馬体の隅々まで生氣と活力を行き渡らせた動きをする。

4. いかなる抵抗もなく、旺盛なインパルジョンと諸関節の良好な屈伸が生まれてくると、馬は色々な扶助に躊躇することなく自ら進んで従い、沈着かつ正確に反応し、天性のものと調教の積み重ねによる心身の調和を醸し出す。

5. 停止の時を含めて馬はいかなる運動中でも「オン・ザ・ビット」の態勢でなければならない。調教の進度に応じて、また歩幅の伸長やコレクションの度合いに応じて、馬がいくぶん頭頸を起揚させてアーチを描き、終始軽くソフトなコンタクトで従順に銜を受け入れている状態を「オン・ザ・ビット」と言う。頭は一定の位置に保たれ、原則として鼻面は僅かに垂直線よりも前に出ており、項は頸の最も高い位置にあって屈撓し、選手の要求にいかなる反抗もない。

6. ケイダンスは速歩と駈歩において現れるものであり、非常に顕著な整正さと旺盛なインパルジョン、バランスをもって馬が動いている時に示す正しい調和の結果である。ケイダンスは速歩や駈歩で行ういかなる運動においても、また速歩や駈歩のどのような歩度でも維持されなければならない。

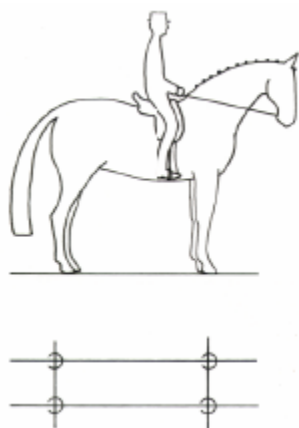
7. ペースの整正さは馬場馬術の必須条件である。

第402条 停止

1. 停止において馬は注意深く、後躯をエンゲイジメントさせて不動かつ真直ぐに立ち、体重は四肢に均等にかけていなければならない。頸は起揚して項が最も高い位置にあり、鼻梁は垂直線上よりもわずかに前に出ているべきである。馬は「オン・ザ・ビット」の状態、選手の拳と軽くソフトなコンタクトを保ちつつ静かにチューイングし、選手のわずかな扶助で直ちに運動を開始できる態勢にななければならない。停止は3秒以上示さなければならない。敬礼を行っている間は停止を示すものとする。

2. 停止とは、選手がシートと脚の扶助を適宜強め、柔らかく握った拳に向かって馬を押し出すことによって馬体重を後躯に移動させ、速やかではあるが急停止ではない定位置での停止へと導びくことによって得られるものである。停止は一連のハーフホルト（「移行」の項目を参照）で準備を行う。

3. 停止前後のペースのクオリティは採点に欠かせない要素である。



第403条 常歩

1. 常歩とはマーチングペースであり、馬の四肢は一肢ずつ等間隔で「4回」踏歩する。馬体全体に緊張がまったくない整正さが、常歩で行うすべての運動において維持されなければならない。

2. 同側の前肢と後肢がほとんど同時に動いている時には、常歩が側対になりかけていると言える。この側対歩様のような不整な歩きは著しくペースを損なうものである。

3. 常歩には中間常歩、収縮常歩、伸長常歩および自由常歩がある。オーバートラッキングの程度や態勢の違いによって、このような常歩を明確に区別して示すべきである。

3.1 中間常歩

明瞭で整正、かつ堅苦しきのない中等度に伸展させた常歩である。馬は「オン・ザ・ビット」であり、活力に富むも、ゆったりとした均等かつしっかりした常歩で進み、後肢は前肢の着地点よりも前に踏み込む。選手は馬の頭頸の自然な動きを許しつつも、馬の口と軽くソフトで静定したコンタクトを保つ。

3.2 収縮常歩

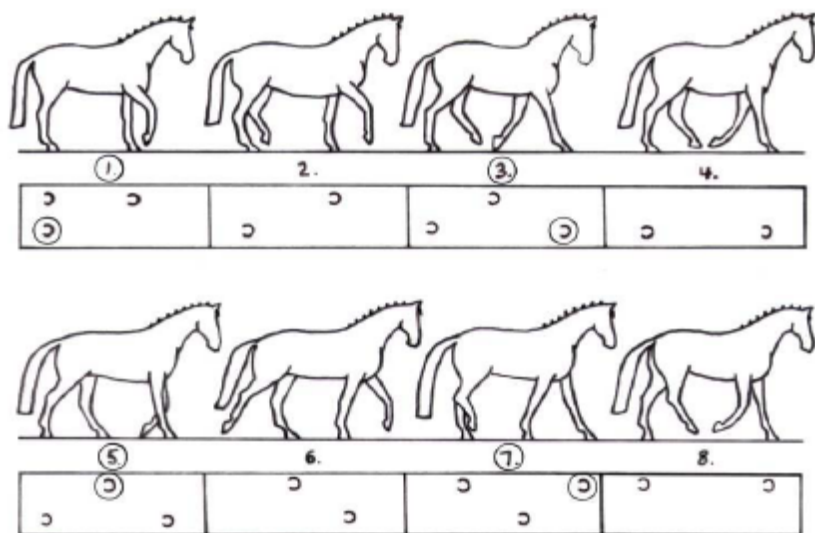
馬は「オン・ザ・ビット」であり、頸を起揚させてアーチを描き、明らかなセルフキャリッジを見せて前進する。鼻梁は垂直に近づき、選手の拳と馬の口との軽いコンタクトが維持されている。後肢は飛節の力強い動きを伴ってエンゲイジメントする。ペースは前進氣勢があり活発で、四肢は正しい順序で踏歩する。すべての関節が一層顕著に屈曲するため、歩幅は中間常歩よりも狭くなるが、肢は一段と高く上がるようになる。収縮常歩は一段と力強い歩きを示すものであるが、歩幅は中間常歩よりも狭くなる。

3.3 伸長常歩

馬は性急になることなく、また歩きの整正さを損なわずに、できる限り歩幅を伸ばした動きを見せる。後肢は明瞭に前肢の着地点よりも前に踏み込む。選手が馬の口とのコンタクトや項のコントロールを失うことなく、馬に頭頸を（前下方に）ストレッチアウトさせる。鼻梁は明らかに垂直線よりも前になければならない。

3.4 自由常歩

自由常歩はリラクゼーションのある、頭頸をストレッチアウトさせた、完全な自由を与えられたペースである。後肢が前肢の着地点よりも明瞭に前へ踏み込むグラウンドカバーとストライドの伸展は、自由常歩のクオリティには必須である。



常歩は4ビートのリズムで8段階に分かれたペースである。

<丸で囲んだ番号はビートを示す>

3.5 手綱を伸ばした状態でのストレッチ

この訓練により馬の「透過性（Durchlässigkeit）」が明瞭に印象づけられ、バランスやサブルネス、従順性、リラクゼーションが示される。この「手綱を伸ばした状態でのストレッチ」運動を正しく実施するためには、馬が頭頸を前下方へ徐々に伸ばすのにあわせて選手は手綱を伸ばす。頸を前下方へ伸展させるにつれ、馬の口はおおむね肩と水平のライン上にまで至るものとする。選手の拳とは弾性のある一定したコンタクトを保たなければならない。リズムを保ったペースでなければならず、馬は後躯を十分にエンゲイジメントさせ、肩は軽い状態であること。再び手綱をとる間、馬は口や項で抵抗することなくコンタクトを受け入れなければならない。

第404条 速歩

1. 速歩とは、空中にある一瞬時に区切られた両斜対肢（左前肢と右後肢、および右前肢と左後肢）による「2ビート」のペースである。

2. 速歩では伸びやかで活力に満ちた整正な歩きを示すべきである。

3. 速歩のクオリティは全般的な印象、即ち収縮歩度であっても伸長歩度であっても、歩きの整正さとエラスティシティー、ケイダンス、インパルジョンにより審査される。このクオリティは柔軟な背中と十分にエンゲイジメントさせた後躯に起因し、またどのような歩度の速歩でも同じリズムと自然なバランスを維持できる能力によって生まれるものである。

4. 速歩には尋常速歩、歩幅の伸展、収縮速歩、中間速歩および伸長速歩がある。

4.1 尋常速歩

これは収縮速歩と中間速歩との間であり、馬の調教が十分に進んでおらず、収縮運動のできる段階に至っていない場合のペースである。適切なバランスを示して「オン・ザ・ビット」の状態にある馬は、左右均等でエラスティックなステップと飛節の良好な動きをもって前進する。「飛節の良好な動き」という表現は、後躯の闊達な動きがもたらすインパルジョンの重要性を強調するものである。

4.2 歩幅の伸展

4歳馬用の課目では「歩幅の伸展」が求められる。これは尋常速歩と中間速歩の間の歩度であり、中間速歩を行うには馬の調教が十分に進んでいない段階のものである。

4.3 収縮速歩

馬は「オン・ザ・ビット」の状態にあり、頸を起揚させてアーチを描いて前進する。飛節は屈伸して十分なエンゲイジメントを示し、活力に富んだインパルジョンを維持しなければならない。

い。これによって両肩を一層自在に動かせるようになり、完全なセルフキャリッジが具現される。他の速歩歩度に比べて馬の歩幅は狭くなるが、エラスティシティーとケイダンスが減ずることはない。

4.4 中間速歩

中間速歩とは、伸長速歩に比べて中程度の伸展を見せるペースであるが、伸長速歩よりも「丸み」がある。急ぐことなく馬は明確に歩幅を伸ばし、後軀からのインパルジョンを受けて前進する。馬は収縮速歩や尋常速歩の時よりも頭を垂直よりもう少し前へ出し、頭頸を僅かに下げることが許される。歩きは均等であり、全体の動きはバランスがとれ、のびのびとしたものであるべきである。

4.5 伸長速歩

馬はできる限りのグラウンドカバーを見せる。急ぐことなく、馬は後軀からの力強いインパルジョンを受けて歩幅を最大限に伸ばす。選手は馬が項の位置を一定に保ちながらもフレームを伸展させ、地面をしっかりとらえて前進することを許す。前肢は進行方向の延長線上に着地しなければならない。前肢と後肢の動きは、伸長させた時に等しく前へ振り出すべきである。馬の動き全体が十分にバランスのとれたもので、収縮速歩への移行は後軀へ一層体重をかけることでスムーズに行われるべきである。

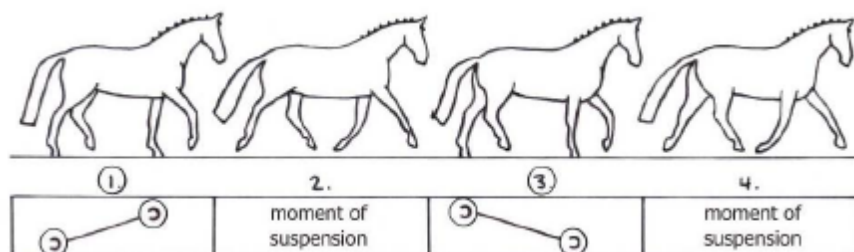
5. すべての速歩運動は、競技課目で特に指定がない限り軽速歩をとらない。

6. 手綱を伸ばした状態でのストレッチ

この練習は馬の「透過性」を明確に印象づけるものであり、バランスとサブルネス、従順性、リラクゼーションを証明するものである。「手綱を伸ばした状態でのストレッチ」練習を正しく実施するには、馬が徐々に前下方に頭頸を伸展させるのに併せて選手は手綱を伸ばさなければならない。馬の頸が前下方へ伸展するにつれ、その口はおおむね肩を通る水平線上に至る。

選手の拳とはしなやかで一定したコンタクトを維持しなければならない。ペースはそのリズムを維持し、馬は後肢をよく踏み込ませて肩は軽い状態であるものとする。手綱を再びとる間、

馬は口や項で反抗することなくコンタクトを受け入れなければならない。



速歩は2ビートのリズムで4段階に分かれたペースである。

<丸で囲んだ番号はビートを示す>

第405条 駢 歩

1. 駢歩は「3ビート」の歩法であって、例えば右手前駢歩の場合は左後肢、左斜対肢（左前肢と右後肢が同時）、右前肢の順で踏歩し、その後に四肢が一瞬空中に浮いてから次のストライドが始まる。
2. 駢歩は常に軽快でケイダンスがあり、整正なストライドで躊躇することなく前進するべきものである。
3. 駢歩のクオリティは全般的な印象、即ち柔軟な項を維持して銜を受け、活発な飛節の動きを伴った後躯のエンゲイジメントに起因するペースの整正さと軽快さ、そしてアップヒル傾向とケイダンスによって審査されるとともに、駢歩の中での移行でも同じリズムとナチュラルバランスを維持する能力によって判断される。
4. 駢歩には尋常駢歩、歩幅の伸展、収縮駢歩、中間駢歩および伸長駢歩がある。

4.1 尋常駢歩

これは収縮駢歩と中間駢歩との間のペースであり、馬の調教が十分に進んでおらず、収縮運動のできる段階に至っていないものである。馬は「オン・ザ・ビット」の状態でありながら自然なバランスのとれた動きを示し、左右均等で軽快、かつ闊達なストライドと良好な飛節の動きを伴って前進する。「良好な飛節の動き」という表現は、後躯の闊達な動きがもたらすインパルジョンの重要性を強調するものである。

4.2 歩幅の伸展

4歳馬用の課目では「歩幅の伸展」が求められる。これは尋常駢歩と中間駢歩の間のペースであり、中間駢歩を行うには馬の調教が十分に進んでいない段階のものである。

4.3 収縮駢歩

馬は「オン・ザ・ビット」の状態にあり、頸を起揚させてアーチを描く。飛節は十分にエンゲイジメントして活力に富んだインパルジョンを保ち、これによって両肩は一層自在に動かせるようになり、セルフキャリッジとアップヒル傾向を発揮することとなる。馬の歩幅は他の駢歩歩度に比べて狭くなるが、エラスティシティーとケイダンスを失うことはない。

4.4 中間駢歩

これは尋常駢歩と伸長駢歩との間のペースである。急ぐことなく、馬は後躯からのインパルジョンを受けて明瞭に歩幅を伸ばし、前進する。馬は収縮駢歩や尋常駢歩の時よりも頭を垂直よりもう少し前へ出し、頭頸を僅かに下げることが許される。ストライドはバランスがとれ、のびのびとしたものであるべきである。

4.5 伸長駢歩

馬はできる限りのグラウンドカバーを見せる。急ぐことなく、歩幅を最大限に伸ばす。後躯からの力強いインパルジョンを受けて、馬は落ち着きがあり軽快でストレイトネスを保つ。選手

は馬の項を一定に保ちながらもフレームを伸展させて地面をしっかりと捉えて前進することを許す。馬の動き全体が十分にバランスのとれたもので、収縮駢歩への移行は後躯へ一層体重をかけることでスムーズに行われるべきである。

4.6 反対駢歩

反対駢歩は、コレクションにて行われるべきバランスとストレイトネスが求められる運動である。外方前肢がリードし、このリードする側に姿勢をとりつつ正しい踏歩順序で駢歩を行う。（同側の）前肢と後肢は同一蹄跡上を踏歩するものとする。

4.7 駢歩でのシンプルチェンジ

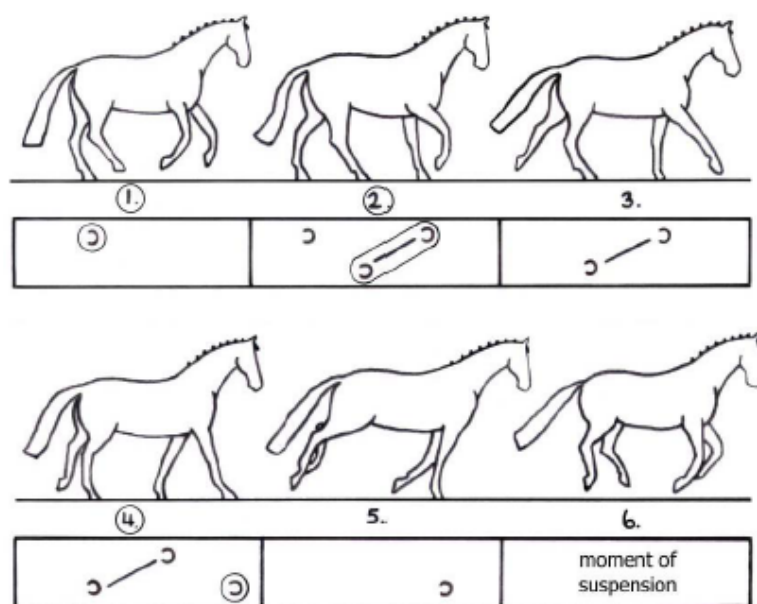
これは駢歩から速歩などを入れずに常歩へ移行し、3～5歩の明確な常歩を入れて、直ちに逆の手前の駢歩へ移行する運動項目である。

4.8 踏歩変換（フライングチェンジ）

踏歩変換は、踏歩の入れ替えを1ストライドの中で前肢と後肢同時に行うものである。リードする側の前肢および後肢の入れ替えは空中に浮揚している間に行われる。扶助は的確で目立たないものであるべきである。

踏歩変換はまた4歩毎、3歩毎、2歩毎、あるいは歩毎といった連続で行うことも可能である。連続踏歩変換においても馬は活発なインパルジョンをもって軽快、沈静かつ真直であり、一連の動きを通して同じリズムとバランスを維持する。連続踏歩変換ではその軽快さと流れ、およびグラウンドカバーを制限したり止めたりしないよう、十分なインパルジョンを維持しなければならない。

踏歩変換の目的：踏歩変換の扶助に対する馬の反応、敏感さと従順性を示すことにある。



駢歩は3ビートのリズムで6段階に分かれたペースである。

<丸で囲んだ番号はビートを示す>

第 406 条 後 退

1. 後退は 2 ビートで斜対肢を後方へ移動させる動きであるが、空中へ浮揚する瞬間はない。一対の斜対肢がもう一対の斜対肢と交互に上げ下ろしを行い、前肢は後肢と同じ蹄跡上を歩く。
2. 後退を行う間、馬は前方へ進む意欲を維持しながらも「オン・ザ・ビット」の状態にあるべきである。
3. 次の動作を予期した動きや慌しい動き、選手のコンタクトへの反抗や回避、後躯が直線上から逸脱すること、後肢が開いてしまったり、動きが緩慢になること、前肢をひきずることは重大な過失である。
4. 歩数は前肢が後ろへ移動するごとに数える。所定の歩数の後退を終えた後、馬は四肢を揃えた停止を示すか、あるいは 要求されたペースで直ちに前進するべきである。一馬身の後退が求められている課目では、3 歩か 4 歩で行うものとする。
5. シリーズで行う後退（Schaukel 後退－前進－後退）は、2 回の後退の間に常歩を入れたものである。移行では流れを損なわず、要求された歩数で行う。

第 407 条 移 行

ペースの変換や同一ペース内での歩度の変換は、指定標記地点で正確に行われるべきものである。ケイダンス（常歩以外において）は、ペースや運動が変わる時点、あるいは馬が停止する時まで維持されるべきものである。同一ペース内での移行では、その移行の間を通して同じリズムとケイダンスを維持しつつ、明瞭にその違いを示さなければならない。馬は選手の拳に対して軽く、沈静で正しい姿勢を保たなければならない。

同じことが一つの運動から他の運動への移行、例えばパッサージュからピアップエ、あるいはその反対の場合についても言える。

第 408 条 ハーフホルト

いかなる運動あるいは移行であっても、目には見えないほどのハーフホルトで準備を行うべきものである。ハーフホルトとはシートと脚、選手の拳がほぼ同時に協調した作用であり、運動の実施、あるいは下位のペースまたは上位のペースへ移行する前に馬の注意を喚起し、バランスを改善する目的がある。もう少し体重を馬の後躯へ移すことによって、後肢のエンゲイジメントと後躯のバランスが改善され、全体として前躯の軽快さと馬のバランスに資することとなる。

第 409 条 方向変換

1. 方向変換では、描くべき線に沿って馬はその体をバンドさせ、いかなる反抗も示さず、あるいはペースやリズム、速度を変えることなくサプルであり、選手の指示に従うものとする。

2. 方向変換は以下の方法で行うことができる：

- a. 隅角通過を含めて直角に回転すること（直径約6mの巻乗りの1/4）
- b. 短斜線と長斜線の使用
- c. 手前変換を伴う半巻乗りと半輪乗り
- d. ハーフピルーエットとターン・オン・ザ・ホンチズ
- e. 蛇乗り
- f. （ジグザグでの）往復手前変換*

馬は方向変換の前に一瞬、真直ぐになるべきである。

ジグザグ*：方向変換を伴う3回以上のハーフパスを入れた運動

第410条 図形

馬場馬術課目で使われる図形とは巻乗り、蛇乗り、8字乗りである。

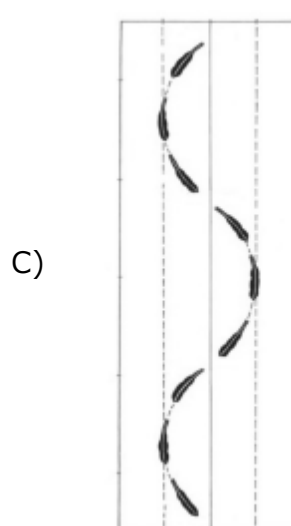
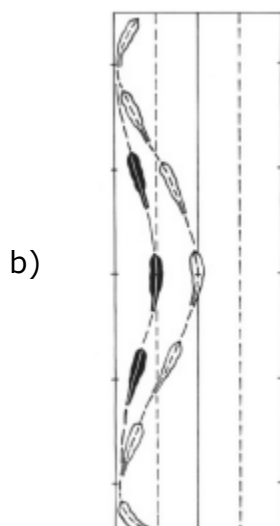
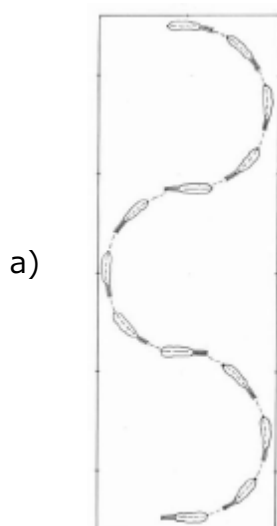
1. 巻乗り

巻乗りとは直径6m、8m、10mの円である。直径が10mを超えるものは輪乗りである。



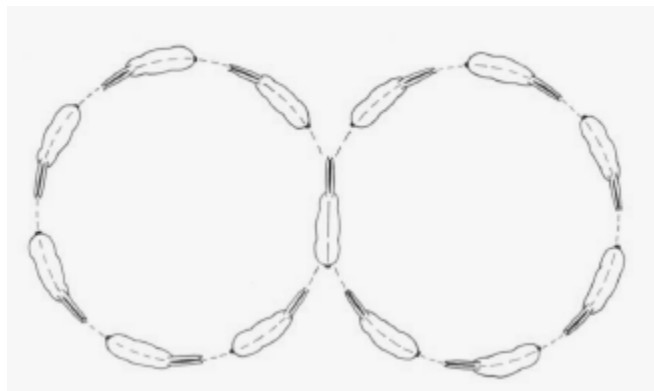
2. 蛇乗り

蛇乗りのループがアリーナの長蹄跡に接しているものは、複数の半輪乗りを直線で繋いだものと言える。中央線を横切る時に馬は短蹄跡に平行となる(a)。半輪乗りの大きさによって直線での繋ぎの長さが変わる。ループの片側だけがアリーナの長蹄跡に接する蛇乗りは、蹄跡から5mもしくは10mの範囲で行われる(b)。中央線を中心とする蛇乗りは1/4ラインの間で行われる(c)。



3. 8字乗り

この図形は、課目で指定された同等の大きさの巻乗りか輪乗りを2個、8の字を描くように中央で繋いだものである。選手は図形の中央で方向転換をする前に一瞬、馬体を真直ぐにする。



第411条 レッグイールディング

1. レッグイールディングの目的：馬のサプルネスと側方への反応を実証するため。
2. FEI競技においてレッグイールディングは尋常速歩で行われる。馬は、項の部分で進行方向とは反対側の内方へ幾分フレクションすることを除けば、ほぼ真直であり、選手からは内側の睫毛と鼻孔が僅かに見える程度である。馬の内方肢は外方肢の前を交叉する。

レッグイールディングは収縮運動の準備段階における馬のトレーニングに取り入れられるべきである。後に、より進歩した「肩を内へ」の運動と相伴って、馬を柔軟で、堅苦しさなくのびのびとさせ、ペースを自由自在に変じ伸縮性がありかつ整正で、軽快で無理がない運動のための最良の方法である。

レッグイールディングは「斜線上」で行うことができるが、その場合は馬の前躯が僅かに後躯より先行していなければならないものの、馬体はできる限りアリーナの長蹄跡に平行であるべきである。これは「壁に沿って」行うこともでき、この場合は馬体が進行方向に向かって約35度の角度となるものとする。

第412条 側方運動

1. 側方運動の主な目的は、レッグイールディングを除き、後躯のエンゲイジメントを改善してこれを高め、その結果として収縮度を高めることである。
2. すべての側方運動、即ち「肩を内へ」「腰を内へ」「腰を外へ」「ハーフパス」では、馬は僅かにベンドし、異なる蹄跡上を進む。
3. 運動のリズムや流れ、バランスを阻害しないよう、ベンドあるいは顎のフレクションを強く求め過ぎてはならない。

4. 側方運動では常に伸びやかで整正なペースを保ち、絶えずインパルジョン（推進力）を維持しつつも関節のサプルネスとケイダンスを維持し、バランスの取れた動きを示さなければならない。選手が馬体をベンドさせることと側方へ動かすことに気を取られるために、インパルジョンが失われてしまうことが多い。

5. 肩を内へ

「肩を内へ」は収縮速歩で行われる。馬は選手の内方脚を軸として僅かではあるが一様にベンドし、約30度の一定な角度にてエンゲイジメントとケイダンスを維持する。馬の内方前肢は外方前肢の前を交叉して進み、内方後肢は内方腰部を低下させつつ馬体下へ踏み込んで外方前肢と同じ蹄跡を踏歩する。馬は進行方向と反対側へベンドする。

6. 腰を内へ

「腰を内へ」は収縮速歩あるいは収縮駈歩で行われる。馬は選手の内方脚を軸として僅かにベンドするが、その度合いは「肩を内へ」よりも深い。約35度の一定な角度を示す（正面あるいは背後から見て四蹄跡となっている）。前躯は蹄跡上にあり、後躯が内側へ入る。馬の外方肢は内方肢の前を交叉する。馬は進行方向へベンドする。

「腰を内へ」に入るには、後躯が蹄跡から離れるか、あるいは隅角通過か輪乗りを行った後に蹄跡へ戻らないものとする。「腰を内へ」の終わりでは輪乗りを終える場合と同様に（項や頸が反対側に曲がってしまうことなく）後躯が蹄跡へ戻る。

「腰を内へ」の目的：一直線上での流暢な収縮速歩運動と正しいベンドを見せること。前肢および後肢は交叉し、バランスとケイダンスが維持されている。

7. 腰を外へ

「腰を外へ」は「腰を内へ」とは逆の運動である。前躯が内側へ入るかわりに、後躯は蹄跡上に残る。「腰を外へ」を終えるには、前躯を蹄跡上で後躯に揃える。その他の点では「腰を内へ」で適用した原理と条件が適用できる。

馬は選手の内方脚を軸として僅かにベンドする。馬の外方肢は内方肢の前を交叉する。馬は進行方向へベンドする。

「腰を外へ」の目的：「肩を内へ」よりも深いベンドの角度をもって一直線上で流暢な収縮速歩運動を示すこと。前肢および後肢は交叉し、バランスとケイダンスが維持される。

8. ハーフパス

ハーフパスは「腰を内へ」の変形であり、壁に沿ってではなく斜線上で行う。これは収縮速歩（および自由演技のパッセージ）、あるいは収縮駈歩で行うことができる。馬は進行方向に向かい選手の内方脚を軸にして僅かに体をベンドするべきである。馬はこの運動全体を通じて同じケイダンスとバランスを維持するべきである。肩の可動性を高めて一層自由な動きを求めるには、インパルジョンを維持し、特に内方後肢のエンゲイジメントを高めることが大変重要である。馬

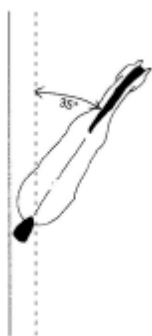
体はアリーナの長蹄跡にほぼ平行であり、前軀は僅かに後軀に先行する。

速歩では外方後肢が内方肢の前を交叉する。駢歩にてこの運動は前方／側方への一連のストライドで行われる。

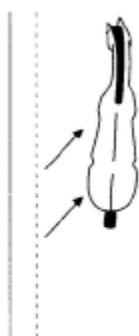
速歩ハーフパスの目的：「肩を内へ」よりも深いベンドの角度をもって斜線上で流暢な収縮速歩運動を示すこと。前肢および後肢は交叉し、バランスとケイダンスが維持される。

駢歩ハーフパスの目的：リズム、バランスあるいはベンドの柔らかさや従順性を何ら失うことなく、流暢に前方および側方に動くことで、駢歩のコレクションとサプルネスを示して発達させること。

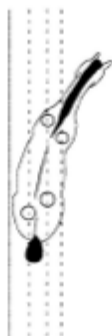
壁に沿ってのレッグイールディング



斜線上でのレッグイールディング



肩を内へ



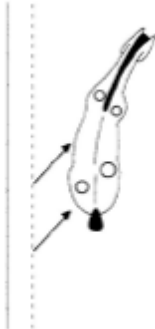
腰を内へ



腰を外へ



ハーフパス



第413条 ピルーエット、ハーフピルーエット、ターン・オン・ザ・ホンチズ

1. ピルーエット（ハーフピルーエット）は、馬体の長さ等に等しい半径で二蹄跡で行われる360度（180度）の旋回であり、前軀は後軀の周りを旋回する。

2. ピルーエット（ハーフピルーエット）は、通常、収縮常歩か収縮駢歩で行われるが、ピアフエで行うことも可能である。

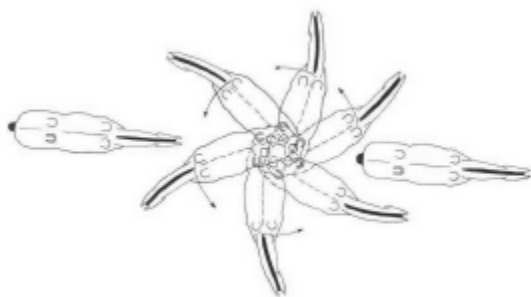
3. ピルーエット（ハーフピルーエット）では、前肢と外方後肢は、軸となる内方後肢の周りを旋回するもので、内方後肢はできる限り小さな円を描く。

4. いかなるペースのピルーエット（ハーフピルーエット）を行う場合でも、馬は旋回する側に僅かにベンドし、軽いコンタクトにより「オン・ザ・ビット」の状態、当該ペースでの正しい肢の運びとタイミングを維持しながらスムーズに旋回するべきである。この運動中、項は最も高い位置に維持される。

5. ピルーエット（ハーフピルーエット）を行っている間、馬は闊達さ（常歩も含む）を維持しており、僅かでも決して後退、あるいは横にずれることがあってはならない。

6. 駢歩ピルーエットあるいはハーフピルーエットを行う場合、選手は一層のコレクションを求めながら馬の軽快さを維持するべきである。後軀は十分にエンゲイジメントして沈下し、関節は十分な屈伸を示している。この運動の重要な点は、ピルーエットを行う前と後の駢歩ストライドのクオリティである。ピルーエットに入る前には闊達さ、ストレイトネス、コレクションの度合いを増す必要がある。ピルーエットを終える時点ではバランスを維持しなければならない。

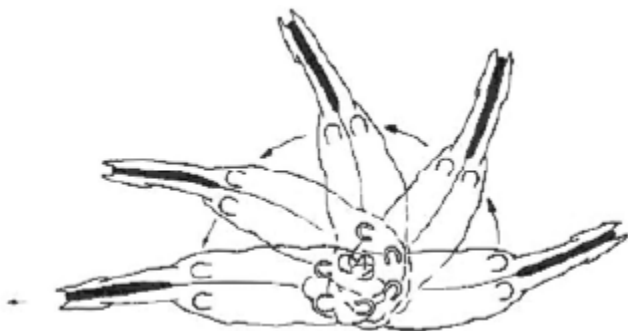
駢歩ピルーエットと駢歩ハーフピルーエットの目的：内方後肢を軸にして小さな半径で旋回し、活発さと明瞭な駢歩を維持しつつ旋回方向へ僅かにベンドし、図形の前後でのストレイトネスとバランスを保ち、明確な駢歩のストライドで旋回する馬の意欲を示すこと。駢歩でのピルーエットまたはハーフピルーエットにおいて、斜対肢－内方後肢と外方前肢－が同時には地面につかないであろうが、審判員は真の駢歩ストライドが認識できるべきである。



駢歩でのピルーエットとハーフピルーエット

7. ピルーエット（ハーフピルーエット）のクオリティは、サプルネス、軽快さ、整正、そして正確さと、始まりと終わりのスムーズさによって審査される。駢歩ピルーエット（ハーフピルーエット）は－6～8歩（フルピルーエット）－3～4歩（ハーフピルーエット）で行われるべきである。

8. 収縮常歩での常歩ハーフピルーエット（180度）は、運動を通してコレクションが維持される状態で行われる。ハーフピルーエットの終了時には馬は後肢を交叉させることなく元の蹄跡に戻る。



常歩ハーフピルーエット

9. 常歩からのターン・オン・ザ・ホンチズ

収縮常歩をまだ見せることのできないヤングホースのために、「ターン・オン・ザ・ホンチズ」が、馬のコレクション準備段階の運動としてある。「ターン・オン・ザ・ホンチズ」は中間常歩からハーフホルトによりステップを少し短縮し、後躯の関節が屈曲する能力を増し準備させる。馬は運動の前後で停止しない。「ターン・オン・ザ・ホンチズ」は常歩ピルーエットよりもより大きな半径（約1/2m）で実施することができるが、リズム、コンタクト、活発さおよびストレイトネスに関するトレーニングスケールにおいては同等のものが要求される。

10. 停止から停止までの間のターン・オン・ザ・ホンチズ（180度）

前へ出てゆこうとする動きを維持できるように、旋回の開始時には1歩か2歩の前進が容認される。常歩からのターン・オン・ザ・ホンチズと同じ尺度が適用される。

第414条 パッサージュ

1. パッサージュとは整然とした、極めて収縮し、高揚したケイダンスのある速歩である。特徴としては顕著な後躯のエンゲイジメント、膝や飛節の一層力強い屈伸、優雅なエラスティシティーのある運動があげられる。ケイダンスと長いサスペンションを伴い、各斜体肢は交互に上げ下ろしされる。

2. 原則として、地を離れた前肢の蹄先は、接地している他方の前肢の管の半ばまで引き上げられるべきである。後肢では、地を離れた蹄先が接地している他方の後肢の球節の少し上まで引き上げられるべきである。

3. 頸は起揚して優雅にアーチを描き、項部分が最も高い位置となり、鼻梁のラインは垂直に近いものである。馬はケイダンスを变じることなく、軽くソフトに「オン・ザ・ビット」の状態である。活発で際立ったインパルジョンが維持される。

4. 後肢または前肢のアンイーブンなステップや、前軀または後軀の横揺れ、前肢または後肢のぎくしゃくした動き、浮揚時の後肢の引きずり、あるいはダブルビートは重大な過失である。

パッサージュの目的は、速歩での最も高度な収縮、ケイダンスとサスペンションを見せることである。

第 415 条 ピアッフェ

1. ピアッフェは極めて収縮され、ケイダンスのある、高揚した、その場で行う印象を与える斜対運動である。馬の背はサプルでエラスティックである。後軀は沈み込む。飛節が活発に動いて後肢がよくエンゲイジメントし、その結果、肩と前肢の可動性が増し、非常に自由かつ軽快な動きとなる。斜対肢は各々、弾みと均一なケイダンスをもって交互に上げ下ろしされる。

1.1 原則として、地を離れた前肢の蹄先は、接地している他方の前肢の管の半ばまで引き上げられるべきである。後肢では、地を離れた蹄先が接地している他方の後肢の球節の少し上まで引き上げられるべきである。

1.2 頸は起揚して優雅にアーチを描き、項部分が最も高い位置となる。馬は軽く、「オン・ザ・ビット」でソフトなコンタクトの状態にあるものとする。馬体は柔軟でケイダンスある調和のとれた物腰を示すべきである。

1.3 ピアッフェはいかなる時も活発なインパルジョンによって生き生きとした動きを示し、完璧なまでにバランスの取れた姿勢を表現していなければならない。その場で運動を行っている印象を与える一方、前進氣勢が認められる場合がある。これは選手からの指示があれば速やかに前進しようとする気構えの現れである。

1.4 ほんの僅かであっても後ろへ下がること、前肢または後肢のアンイーブンなぎくしゃくした動き、斜対肢の踏歩が明瞭でないこと、前肢または後肢同士の交叉、前軀や後軀の横揺れ、後肢または前肢が開いてしまうこと、前進し過ぎること、あるいはダブルビートのリズムは重大な過失である。

ピアッフェの目的は、その場に留まっている印象を与えながら最高の収縮度を示すことである。

第 416 条 インパルジョン／従順性

1. インパルジョンとは意欲的な動きをみせる馬が、後躯で生み出された推進エネルギーを制御して、競技で求められる動きへと転換することである。この究極的なインパルジョンは柔らかくスウィングしている馬の背を通して初めて現れるものであって、選手の拳による穏やかなコンタクトで導かれる。

1.1 スピード、それ自体はインパルジョンとほとんど関係がなく、平坦な歩様となりがちである。インパルジョンはスタッカートのように断音的ではなく、音律的で流れるような歯切れ良い後肢の踏み込みによってはっきり表現される。後肢が地面を離れる瞬間、飛節は上方へ引き上げられるというよりも前方へと振り出されるべきであり、決して後方へ返してはいけない。インパルジョンの決め手は肢が地上に着いている時というよりも、空中期の「間」である。従ってインパルジョンは、空中期のあるペースでのみ現れる。

1.2 インパルジョンは、速歩と駈歩での良好なコレクションを求めるための前提条件である。インパルジョンがなければコレクションはできない。

2. 従順とは隷属ではなく、馬の動作すべてにおける絶え間のない注意力、快諾と信頼によって、また多様な運動を行った場合に示す調和、軽快さ、無理のない動きによって表される従順性を意味する。

従順性の度合いは、軽く軟らかなコンタクトと柔軟な項を保った銜の受け方でも示される。選手の拳に対する抵抗や回避は「銜突き出し（アバウブ・ザ・ビット）」や「ビハインド・ザ・ビット」となって現れ、これは従順性の欠如を示すものである。馬の口との主なコンタクトは水勒銜を通していなければならない。

2.1 舌を出したり、舌を銜の上に乗せたり、あるいは舌を深く巻き込むことは歯ぎしりや尾を激しく動かすのと同様に、ほとんどの場合は馬の神経質さや緊張、抵抗を示しており、審判員は該当する各運動項目と総合観察点でこれを考慮しなければならない。

2.2 従順性を考慮する時にまず考えなければならないのは意欲であり、即ち馬は求められていることを理解し、選手が出した扶助に対して何の恐れや緊張もなく十分に自信を持って反応している状態である。

2.3 馬にストレイトネスやアップヒル傾向、良いバランスが生まれると、選手の脚による扶助を待てる状態となり、銜を自ら求めて受け入れるようになる。これこそが調和と軽快さを描き出す源である。

馬場馬術課目での主な運動／要求項目を満たすことが、従順性の主たる評価基準である。

第417条 コレクション

馬にコレクション態勢をとらせる目的は：

- a) 選手の体重が加わることによって多少なりとも移動してしまう馬体のバランスを改善し、これを一段と高めること。
- b) 前肢の可動性と軽快性を有効にするために、後躯の低下と踏み込む能力を発達させ、これを増大させること。
- c) 馬の「イーズ・アンド・キャリッジ」に加えることにより、乗ることが一段と楽しくなるような馬にすること。

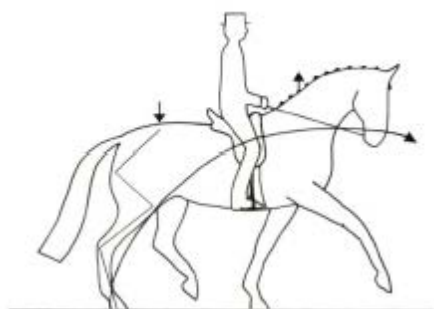
コレクションはハーフホルトを使い、また「肩を内へ」、「腰を内へ」、「腰を外へ」、「ハーフパス」といった側方運動を行うことで発達する。

コレクションは、シートと脚を使用し、それを拳で受けることによって後肢をエンゲイジメントさせて得られるのであり、また改善できる。諸関節が屈伸して柔軟になり、後肢が馬体下に踏み込む。

しかし後肢が余りにも深く馬体下へエンゲイジメントするのは望ましくない。馬体の支持底面が極端に狭くなって動きに支障がでてくる。四肢の支持底面に対して背中のラインが伸びて盛り上がってしまい、安定性が損なわれて馬は均衡のとれた正しいバランスを見つけにくくなるのである。

一方、後肢を自分の馬体下にエンゲイジメントさせようとせず、あるいはできずに支持底面が広くなり過ぎる馬は、「イーズ・アンド・キャリッジ」で特徴づけられるような好ましいコレクションに至ることはなく、後躯の闊達さに由来する活気あるインパルジョンも生み出し得ない。

収縮歩度での馬の頭頸位置は、自然とトレーニング・ステージに左右されると同時に、ある程度はその体型にも左右される。コレクションが顕著に認められる態勢とは、束縛されることなく頸を起揚させ、鬐甲から項にかけて均整のとれたカーブを描き、項は最も高い位置にあって鼻梁は僅かに額からの垂直線より前に出ている状態である。選手が瞬間的にコレクション効果を得るような扶助を使った時には、頭が多少なりとも垂直線上にくるであろう。頸のアーチはまさにコレクションの度合いに直結しているのである。



第 418 条 選手の姿勢と扶助

1. すべての運動は、選手の目立った努力が見て取れることなしに、僅かな扶助で行われるべきものである。選手は良いバランスを保ち、しなやかで、鞍の真ん中に深く座り、腰部と臀部で馬の動きを柔らかく吸収し、しなやかな太ももと共に安定して下方に踏み下げられた脚を使う。踵が最も低い位置になければならない。上半身は高く柔らかく保たれなければならない。コンタクトはシートに依存しないものであるべきである。拳は揃えて一定の位置に置かれ、親指が最も高く位置し、柔らかい肘から拳を通して馬の口までが一直線上にある。肘は体へとつけられている。これらの項目を満たすことで、選手が馬の運動にスムーズかつ自由についていくことを可能にさせる。

2. 選手の扶助の有効性が課目で要求されている運動の正確な実施を決定づける。選手と馬の間には常に調和の取れた協調性が見受けられなければならない。

3. FEI馬場馬術競技会では、両手で手綱を持つことが義務づけられている。演技を終え、手綱を伸ばして常歩でアリーナから退場する時には、任意に片手で手綱を取ってもよい。自由演技課目については、「ジャッジへの指針－FEI自由演技課目」と「自由演技課目における難度の判断に関わるガイドライン」も参照のこと。www.fei.orgにて入手可能。

3.1 FEI馬場馬術競技会において、選手は片手で両手綱を持たなければならない停止と敬礼時のほかは両手に手綱を分けて持つことが義務づけられるが、演技が良かった時や安心させるためにそっと馬の頸を「愛撫」することは、（選手が目から八工を払う必要があったり、衣服やサドルパッドなどを整えるなどの状況と同じく）許容できるものである。

しかし課目の演技中に意図的に両手綱を片手にとり、その手綱や空いた手で馬を推進したり、観客に拍手を求めるような行為は過失とみなし、運動項目の点数と総合観察点の双方に反映させる。

自由演技課目については、「ジャッジへの指針－FEI自由演技課目」と「自由演技課目における難度の判断に関わるガイドライン」も参照のこと。

4. 声や舌鼓を繰り返し使うことは過失である。第430条6.2を参照。

第2章 馬場馬術競技会

第419条 国際馬場馬術競技会の目的

FEIは予期される濫用から騎馬芸術を守ってその純正なる本質を保護し、馬場馬術の本源を損なうことなく次世代の選手へ伝えるため、1929年に国際馬場馬術競技会を創設した。

第420条 国際馬場馬術競技会のカテゴリー

1. FEI一般規程に従い、国際馬場馬術競技会はCDI1*～CDI5*、CDI-W、CDIO2*～CDIO5*、CDIU25、CDIOU25、CDIY、CDIOY、CDIJ、CDIOJ、CDICh、CDIOCh、CDIP、CDIOP、CDIYH、CDIAm、FEI選手権大会、地域大会、オリンピック大会に分類され、オリンピック大会やパラリンピック大会などの競技会規程にあらかじめ別段の記載がない限り、これ以降の条項に記載する規定に従って実施しなければならない。

2. 国内競技会（CDN） FEI一般規程を参照のこと。

本規則は、その年の一時期を開催国に居住し、開催国NFのゲストライセンスをもつ外国人選手（FEI一般規程に定める通り、国籍を有する国以外に居住する選手）には適用しない。

3. CDI-W（予選とファイナル） FEIワールドカップ™競技が行われる競技会は「W」の文字を付して示す。FEIワールドカップ™馬場馬術規程も参照のこと。

3.1 日程が重複した場合、同一リーグではCDI-W予選がCDI4*以上のCDIよりも優先される。

3.2 CDI5*以上のCDIをFEIワールドカップ™馬場馬術ファイナルと同日程で行うことは認められない。原則として、FEIワールドカップ™馬場馬術ファイナルの開催前2週間はCDI-Wを開催できない。

4. CDI／CDI-W／CDIU25／CDIY／CDIJ／CDIP／CDICh／CDIAmで非公式団体競技は認められない。公式団体競技についてはCDIOを参照のこと。

4.1 CDIY、CDIJ、CDIP、CDICh、CDIU25は、開催国の個人選手および参加国数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。

ユースカテゴリー対象のCDI期間中に団体競技を開催することはできない。

4.2 組織委員会がCDI5*を開催するには先ずCDI3/4*を開催し、良好な運営状況を示す公式FEI報告書を提出しなければならない。

5. CDIO

5.1 選手の出場資格

5.1.1 原則として、CDIOは参加国数に制限なく諸外国からの選手を対象とする（FEI一般規程も参照のこと）。

5.1.2 CDIOとしての開催には、開催国NFを入れて6チーム以上（1NFにつき1チーム）を招待し、最低3チームが出場していなければならない。ネーションズカップ競技会については、公開されているFEI馬場馬術ネーションズカップ規程を参照のこと。

5.2 優先順位 FEI一般規程に基づき、CDIO2*～CDIO5*はすべてのCDI競技会よりも優先される。同一大陸で開催するCDIO競技会の日程重複は認められない。

5.3 団体競技：

5.3.1 団体競技として認定を受けるには、公式団体競技を実施しなければならない。チーム構成は同一国籍の選手で3名以上、4名以内とする。リザーブの人馬コンビネーションは認められない。CDIO3*またはそれ以上の競技会では新規のオリンピックフォーマットを採用できる。ユースクラスの団体競技については、該当する付則に定義する。

6. FEI選手権大会 馬場馬術規程第5章を参照のこと。

7. 地域大会 これらの競技会規程はFEI総会の承認を受けなければならない。

8. オリンピック大会 FEIウェブサイトで別個に公表されるオリンピック大会の馬術競技会規程を参照のこと。

9. オリンピック大会、世界選手権大会および同一大陸での大陸選手権大会の開催前2週間は、FEIワールドカップTM馬場馬術競技、CDI／CDIO5*あるいはCDI／CDIO4*競技会を開催できない。

第421条 競技課目

競技にはそれぞれ指定の競技課目がある。公式馬場馬術課目はFEIの権限をもって発表され、決してFEIの許可なく変更したり、あるいは簡略化することはできない。競技課目は以下の通り：

1. ヤングホース対象の課目：

- 1.1 4歳馬用課目（国内競技会での使用に限定）
- 1.2 5歳馬用課目
- 1.3 6歳馬用課目
- 1.4 7歳馬用課目

2. セントジョージ賞典－中級レベルの課目

この課目は調教の中級段階を対象とする。これは古典馬術が求めるすべての運動項目において

馬の従順性を示し、無理なく調和した軽快な演技ができるような心身のバランスと上達度を現わす運動を含む。

3. インターメディエイト I – 中級の上レベルの課目

この課目の目的は馬の心身を損なうことなく、セントジョージ賞典課目を正しく実施できる段階から、要求度の高いインターメディエイト II へと漸進的に馬を導くことにある。

4. インターメディエイト A

5. インターメディエイト B

6. インターメディエイト II – 上級レベルの課目

この課目の目的はグランプリ課目を目指して馬を調教することにある。

7. グランプリ – 最上級レベルの課目

グランプリは最も高いレベルの競技であり、抵抗がまったくなく最高度にまで発展させたコレクションとインパルジョン（推進力）を特性とする、完璧な馬の軽快さを描き出すもので、これにはあらゆる調教歩法とすべての基本的運動項目が含まれる。

8. グランプリスペシャル – グランプリと同じレベルの課目

これはグランプリと同レベルの競技であり、運動項目の移行が特に重視される。

9. 自由演技課目

これはヤングライダー、ジュニア、ポニーライダー、インターメディエイト I、あるいはグランプリレベルで音楽に合わせて行われる芸術的馬術競技である。これには同レベルの課目に含まれている、あらゆる調教歩法と基本的運動項目が含まれる。しかしながら選手は自由演技のテクニカル規定に従い、指定時間内で自由に演技を構成することができる。この課目ではすべての運動と移行において、人馬の一体感と調和を明確に表現するべきである。

9.1 難度：選手権大会、大会（Games）、ファイナルおよびグランプリレベルでの WEL CDI-W では FEI 自由演技システムを採用しなければならない。このシステムは組織委員会の裁量で、CDI/CDIO のグランプリレベルの競技で採用することができる。採用する場合は FEI 承認の実施要項にて公表しなければならない。FEI ウェブサイトで公開されている FEI 自由演技システムのガイドラインを参照のこと。

10. 他の課目 FEI 馬場馬術競技会では、公式 FEI 競技課目以外の課目を使用することはできない。組織委員会が新たな課目あるいは競技フォーマットを試用したい場合は CDI 以外のショウクラスで行うことができるが、その場合も実施要項に記載する。そのような課目についてはい

ずれもFEIの承認が必要である。

11. ヤングライダー、ジュニア、ポニーライダー、チルドレンの公式馬場馬術課目は、FEIが特定の規程に記載し発表している。FEIから事前に許可を受けた場合に限り、これらの課目をシニア競技に採用することができる。その参加条件は、馬場馬術規程第422条に明記されている通りとする。FEI世界馬場馬術チャレンジ課目にもこれを適用する。

第 422 条 参加条件

1. 定義：

1.1 選手 選手は16歳の誕生日を迎える暦年からシニア国際馬場馬術競技会に出場できる。

1.2 パラ馬術選手 パラ馬術選手は、FEIパラ馬術選手マスターリストおよび標準的補助器具に定める個々の障害程度に応じた補助器具を使用し、FEI馬場馬術競技に出場することが認められる（FEIパラ馬場馬術規程を参照）。

1.3 男女別の競技は認められない。

1.4 品種を問わず、6歳以上の馬が国際馬場馬術競技会へ出場できる。ジュニア課目：6歳以上の馬；ヤングライダー／セントジョージ賞典／インターメディエイトI：7歳以上の馬；インターメディエイトIより上の課目：8歳以上の馬。またすべてのレベルにおいて、馬は蹄鉄なしの状態で鬃甲の高さが148cmを超えるものでなければならない。ただし、チルドレン競技会（CDICH）ではポニーの出場が認められる。5歳、6歳、7歳のヤングホースを対象とする特定競技／競技会の項も参照のこと。

馬の年齢は生まれた年の1月1日（南半球では8月1日）を起算日とする。出生国が不明の場合は、北半球で用いられる計算式を適用する。

A = 年齢（年表記）

C = 現行年

B = 出生年

北半球では馬の年齢を次のように計算する（標準年齢計算）：

$$A = C - B$$

南半球では（1月1日ではなく）8月1日で年齢が加算され、次のように計算する：

馬場馬術		現在の日付	
		7月31日まで	8月1日以降
生まれ	7月31日以前	$A = C - B$	$A = C - B + 1$
	8月1日以降	$A = C - B - 1$	$A = C - B$

1.5 国際馬場馬術競技会では、馬は1日につき1競技にのみ出場でき、またホースインスペクション開始時点からその競技会で最後の国際競技終了の翌日までは国内馬場馬術競技／競技会に出場することはできない。

2. 競技のレベル：

2.1 セントジョージ賞典 この競技はすべての馬に参加資格がある。

2.2 インターメディエイトI この競技はすべての馬に参加資格を与えるか、あるいはセントジョージ賞典の後にインターメディエイトIが行われる場合は、セントジョージ賞典で予選通過した上位6組以上の人馬コンビネーションに参加資格を与えなければならないが、出場の義務付けはない。

2.3 自由演技インターメディエイトI この競技は、セントジョージ賞典あるいはインターメディエイトI競技の後にのみ実施できる。自由演技インターメディエイトIには、セントジョージ賞典あるいはインターメディエイトI競技で予選通過した上位6組～15組（第15位で同点の人馬を含む）の人馬コンビネーションが出場できるが、出場の義務付けはない。自由演技課目への出場を義務づけるか否かは組織委員会の判断による。これについては実施要項へ記載しなければならない。

2.4 インターメディエイトA この競技は、すべての馬に参加資格がある。

2.5 インターメディエイトB この競技はすべての馬に参加資格を与えるか、あるいはインターメディエイトAの後にインターメディエイトBが行われる場合は、インターメディエイトAで予選通過した上位6組以上の人馬コンビネーションに参加資格を与えなければならないが、出場の義務付けはない。

2.6 自由演技インターメディエイトA／B この競技はインターメディエイトAあるいはインターメディエイトBの後にのみ実施できる。自由演技インターメディエイトA／Bには、インターメディエイトAあるいはインターメディエイトB競技で予選通過した上位6組～15組（第15位で同点の人馬を含む）の人馬コンビネーションが出場できるが、出場の義務付けはない。

2.7 インターメディエイトII この競技はすべての馬に参加資格を与えるか、あるいはインターメディエイトAあるいはBの後にインターメディエイトIIが行われる場合は、インターメディエイトAあるいはBで予選通過した上位6組以上の人馬コンビネーションに参加資格を与えなければならないが、出場の義務付けはない。

2.8 グランプリ この競技はすべての馬に参加資格がある。

2.9 グランプリスペシャル グランプリスペシャルは、グランプリ競技の後にのみ実施することができる。CDI3*以上では、グランプリスペシャルへの出場意思を申告した人馬で、グランプリ競技にて予選通過した上位6組（最低限）から15組（第15位で同率の人馬も含めた上限）までの人馬コンビネーションを対象としてグランプリスペシャルを実施しなければならない。予選を通過した人馬が6組未満だった場合は、全員が出場できる。予選のグランプリに30組以上の人馬コンビネーションが出場している場合、組織委員会はグランプリスペシャルに最低限15組の人馬を出場させなければならない。グランプリスペシャルへの出場権を得たいと意思表明した選手については、この出場資格を得た場合、これに出場しなければならない。選手は1頭の馬でのみ出場できる。CDIO、FEI選手権大会、オリンピック大会については馬場馬術規程第449条と第456条を参照のこと。予選通過した人馬コンビネーションは出場が義務づけられる。

病気などの正当な棄権理由がある場合は、グランプリ成績で次点の人馬コンビネーションが繰り上がる。

2.10 自由演技グランプリ 自由演技グランプリ課目は、グランプリ競技の後にのみ実施することができる。CDI-Wでは自由演技グランプリの実施が必須である。自由演技グランプリ競技へは、グランプリ競技にて予選通過した上位6組（最低限）から15組（第15位で同率の人馬も含めた上限）までの人馬コンビネーションが出場できる。予選を通過した人馬が6組未満だった場合は、全員が出場できる。予選のグランプリに30組以上の人馬コンビネーションが出場している場合、組織委員会は自由演技グランプリに最低限15組の人馬を出場させなければならない。自由演技グランプリへの出場権を得たいと意思表明した選手については、この出場資格を得た場合、これに出場しなければならない。選手は1頭の馬でのみ出場できる。CDIO、FEI選手権大会、オリンピック大会については馬場馬術規程第449条と第456条を参照のこと。予選通過した人馬コンビネーションは出場が義務づけられる。病気やその他予期せぬ事態などの正当な棄権理由がある場合は、グランプリ成績で次点の人馬コンビネーションが繰り上がる。

2.11 コンソレーション競技 グランプリスペシャルあるいは自由演技グランプリへの出場資格を得られなかった馬、もしくは選手が事前にグランプリ・コンソレーション競技への出場を選択した馬については、コンソレーション競技（実施予定があればインターメディエイトⅡかグランプリ）に参加できる。しかしコンソレーション競技の実施予定があっても、この成績をもってFEI世界馬場馬術ランキングリストへのランキングポイント、あるいはFEI選手権大会やオリンピック大会へのいかなる出場資格ポイントも与えられることはなく、賞金は世界馬場馬術ランキングリスト予選競技における金額よりも低くなければならない。コンソレーション競技で獲得したスコアは出場資格スコアを達成する目的ではカウントされない。

2.11.1 スモールツアーとミディアムツアーでは、コンソレーション競技を開催できる。

2.11.2 コンソレーション競技は審判員3名のみで審査を行い、実施要項と成績表にはコンソレーション競技であることを明示しなければならない。

2.12 出場が義務づけられた競技に正当な理由なく参加しない選手は、当該競技会にてそれよりも前に出場した競技での順位と賞金を失い、失格となる。

3. 競技プロトコル：

3.1 すべての自由演技課目とグランプリスペシャルへの出場資格スコア

すべてのレベルにおける自由演技あるいはグランプリスペシャル競技に出場するには、予選競技で60%以上のスコアを獲得しなければならない。

3.2

3.2.1 1競技につき選手が騎乗できる馬の頭数 すべてのCDI競技会において、各競技で選手が騎乗できる馬の頭数は組織委員会の判断に任されるが、例外として自由演技課目とグランプリスペシャルでは各選手とも1頭の馬にのみ騎乗できる。

3.2.2 この規則はCDIOにも適用されるが、例外としてグランプリでは各選手とも1頭の馬にのみ騎乗できる（馬場馬術規程第448条も参照のこと）。

3.2.3 特殊な状況として、予選競技への参加申込および実際に出場する人馬コンビネーションが15組未満であるCDIの場合、組織委員会は予選競技で2頭に騎乗する選手が自由演技競技へこの2頭で出場できるよう、FEIへ特別許可を申請することができる。これが認められれば、この2頭とも世界馬場馬術ランキングリストのポイントを獲得できる。グランプリスペシャルまたは予選競技と自由演技との間で実施予定の他の競技にもこの条件を適用する。このような特別許可は承認済み実施要項に記載されていないなければならない。

3.2.4 しかし組織委員会が競技会実施要項で各選手に2頭以上の騎乗を認める競技を設けていても、仮に申込締切日までに予想以上のノミネートエントリーがあった場合にはこの措置を取り下げることがあるとの但し書きを入れることが望ましい。

3.3 選択 ツアーで3競技が行われるCDI競技会（ユースカテゴリーを除く）では、選手は遅くともデフィニットエントリー期日までに、後にくどちらの競技への出場資格を希望するか申告しなければならない。組織委員会が認めた場合、選手は第一希望と第二希望を提出することができる。（例えば選手が自由演技グランプリを第一希望とし、グランプリスペシャルを第二希望にする。組織委員会が第一競技の成績に基づいて選手を競技に振り分けることもある。）第一競技終了後、この選手より上位の選手で2競技のいずれかの参加枠が満たされた場

合、この選手はもう片方の競技に出場できる。)しかし同一馬で参加できるのはどちらかの競技のみとし、初めに選択した競技に参加枠が残っている場合には、その選択希望を変えることはできない。

3.3.1 CDI3*において、グランプリ・コンソレーション競技が予定されている場合、選手はグランプリ競技からグランプリ・コンソレーション競技へ進むことを選択できるが、その期限はデフィニットエントリー期日とする。ヨーロッパと北米以外で行われるCDI3*およびそれ以上の競技会では、選手はグランプリクラスの3競技（グランプリ、グランプリスペシャル、自由演技グランプリ）に出場できるが、グランプリスペシャルと自由演技グランプリは、グランプリ競技で出場資格を得た上位選手／馬コンビネーションの6組（下限）～15組（第15位で同率の人馬も含めた上限）のみを対象とする。

3.4 競技を2日間に分けた開催 競技への出場選手数がほぼ40名を超える場合、組織委員会はこの競技を2日間に分けるか、あるいは別個の2つの競技に分けなければならない。出場選手が80名を超える極端な事例については、FEIがその解決法について最終決定を行う。

これに伴うタイムテーブルの変更は、いかなる場合もFEIの同意を得ることとする。

3.5 競技の選択 しかしながら、いかなる競技会でも同じ人馬コンビネーションが出場できるのは、以下に示す同一レベルの競技のみである。

スモールツアー：セントジョージ賞典 - インターメディエイト I - 自由演技インターメディエイト I

ミディアムツアー：インターメディエイトA - インターメディエイトB - インターメディエイトII；自由演技インターメディエイトA/B

ビッグツアー：インターメディエイトII - グランプリ - グランプリスペシャル - 自由演技グランプリ

3.6 馬／ポニーのスクーリング

3.6.1 FEI承認実施要項に基づく厩舎の公式開場以降、また競技会期間中を通して、選手が参加申込している馬／ポニーに選手以外の人物が騎乗することはできず、これに違反した場合は失格となる（第429条10.4を参照）。例えば、装鞍した馬にグルームが騎乗して安全な長手綱で常歩を行うことはでき、また調馬索や選手のトレーナーもしくはその代理による地上からの助言は許可されるということである。この規定に関する例外は異例な状況下においてのみ、FEIあるいは競技場審判団長による書面をもって認められることがある。

3.6.2 鞭の使用に関しては、馬場馬術規程第428条を参照のこと。公式なトレーニング用馬場以外のエリアで馬を調教することは、いかなる場合も認められない。スチュワードが監視できない場所でのスクーリングは許可されない。

3.6.3 馬の健康とウェルフェアを守るために配置された獣医師、あるいは競技会で認定されたFEI役員による許可がない限り、いかなる目的でも馬を厩舎、競技エリアあるいはスチュワード管轄エリアから退出させることはできない。

3.7 能力証明書 オリンピック大会、FEI世界選手権大会、ヨーロッパ選手権大会については、参加申込を行ったすべての人馬コンビネーションについて、CDI3*/CDI4*/CDI5*とCDIOの競技会成績に基づく所属NFからの能力確認（証明書）が必要である。グランプリレベルのFEI世界選手権大会と大陸選手権大会については、ヨーロッパと北米以外で行われたCDI2*成績が特定条件下でカウントされる場合がある。すべてのFEI世界選手権大会とヨーロッパ選手権大会、オリンピック大会については大会ごとに資格認定基準が策定され、個々にFEIが発表する。この基準については、発表をもって馬場馬術規程の一部とみなされる。その他の選手権大会と大会（Games）への能力証明書は競技会要件に従って提出を求められることがある。

3.8 シニア馬場馬術競技会における実施可能な競技組み合わせ（これに限定せず）

CDIYH：

- 5歳馬用プレリナリー馬場馬術課目 - 5歳馬用馬場馬術課目 - 決勝
- 6歳馬用プレリナリー馬場馬術課目 - 6歳馬用馬場馬術課目 - 決勝
- 7歳馬用プレリナリー馬場馬術課目 - 7歳馬用馬場馬術課目 - 決勝

スモールツアー：

- セントジョージ賞典
- セントジョージ賞典 - インターメディエイト I
- セントジョージ賞典 - 自由演技インターメディエイト I
- セントジョージ賞典 - インターメディエイト I - 自由演技インターメディエイト I
- セントジョージ賞典 - インターメディエイト I か自由演技インターメディエイト I を選択
- インターメディエイト I
- インターメディエイト I - 自由演技インターメディエイト I

ミディアムツアー：

- インターメディエイト A
- インターメディエイト B
- インターメディエイト A - インターメディエイト B
- インターメディエイト A - インターメディエイト II

- インターメディエイトB – インターメディエイトII
- インターメディエイトA – インターメディエイトB – インターメディエイトII
- さらに組織委員会の判断で、インターメディエイトA/Bおよび自由演技インターメディエイトを開催できる（最大3課目まで許可され、仮に3課目が実施される場合は選択方式も可能）

ビッグツアー：

- インターメディエイトII
- インターメディエイトII – グランプリ
- インターメディエイトII – グランプリ – 自由演技グランプリまたはグランプリスペシャル
- グランプリ
- グランプリ – グランプリスペシャルまたは自由演技グランプリを選択
- グランプリ – グランプリスペシャル
- グランプリ – 自由演技グランプリ
- グランプリ – グランプリスペシャル – 自由演技グランプリ
- CDIOにおけるネーションズカップ方式：グランプリとグランプリスペシャルまたは自由演技グランプリ
- CDIOとFEI選手権大会での選手権競技方式：グランプリ – グランプリスペシャル – 自由演技グランプリ

コンソレーション競技（ビッグツアー）：

- インターメディエイトII
- グランプリ

CDI-Am（アマチュア）：グランプリスペシャルと自由演技グランプリを除く、FEIグランプリまでのシニア課目

通常のオープン・スモールツアーも行うとの条件で、これとは別に7～9歳馬を対象とするスモールツアーを実施することができる。通常のオープン・ミディウムツアーも行うとの条件で、これとは別に8～10歳馬を対象とするミディウムツアーを実施することができる。通常のオープン・ビッグツアーも行うとの条件で、これとは別に8～10歳馬を対象とするビッグツアーを実施することができる。年齢制限を設けたビッグツアーは、世界ランキングリストにカウントされない。

3.9 互いに馬を交換して競うダービーを開催することができる。1～2つの予選競技（実施要項に明記）から上位3組の人馬コンビネーションが出場でき、またその出場が義務づけられる。鞍や勒、銜を替えることは認められない。馬には常に同じ鞍と勒、銜を用いて騎乗しなければならない。各馬に全選手が騎乗するが、まず選手は自馬に騎乗し、その後は抽選で決まった順番に他の選手が騎乗する。このクラスは世界ランキングリストにはカウントされない。選

手は、予選競技では別の選手が騎乗した馬にて出場することもできる。

4. ユース競技会にて開催可能な競技

4.1 ヤングライダー

4.1.1 ヤングライダー対象のFEI公式馬場馬術課目は以下の通り：

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| (i) プレリミナリー競技課目 | 選手全員が対象 |
| (ii) 団体競技課目 | 選手全員が対象 |
| (iii) 個人競技課目 | 選手全員が対象 |
| (iv) 自由演技ヤングライダー課目 | 個人競技から上位 6 名～18 名（最上位で同率の選手を含む） |

CDIOY と FEI 選手権大会では(ii)～(iv)の競技課目の実施が義務づけられ、またその他すべての国際ヤングライダー馬場馬術競技会でもその実施が推奨される。これらの課目ではすべて暗記して演技を行わなければならない。

4.1.2 **プレリミナリー競技課目**は任意である。プレリミナリー馬場馬術課目を実施しない場合は、団体課目が行われる前にメインアリーナで馴致できるよう、選手に時間を割り振らなければならない。

4.1.3 **団体競技課目** 団体課目は、個人競技に向けた第1次個人予選競技でもある。

4.1.4 **個人競技課目** この競技は、その前に行われる団体競技に出場して演技を終えた選手全員に出場資格がある。

4.1.5 **自由演技ヤングライダー課目** この競技への出場は、個人競技にて出場資格を得た上位6組～18組の選手／馬コンビネーション（最上位で同率の人馬を含む）に限定される。選手は1頭の馬で出場できる。

自由演技への出場を必須とするか否かは組織委員会の判断である。これは実施要項への記載が必要である。

4.1.6 **コンソレーション競技** 自由演技ヤングライダー課目への出場資格を得られなかった選手／馬は、コンソレーション課目が実施される場合はこれに出場できる。しかしコンソレーション競技（個人競技課目か自由演技ヤングライダー）を行う場合は褒賞を賞品のみとするか、あるいは賞金を予選競技課目での賞金額より低額とする。コンソレーション競技は実施要項と成績リストにその旨を明記しなければならない、審判員3名での審査とする。

4.2 ジュニア

4.2.1 ジュニア対象の馬場馬術課目は以下の通り：

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| (i) プレリミナリー競技課目 | 選手全員が対象 |
| (ii) 団体競技課目 | 選手全員が対象 |
| (iii) 個人競技課目 | 選手全員が対象 |
| (iv) 自由演技ジュニア課目 | 個人競技から上位 6 名～18 名（最上位で同率の選手を含む） |

CDIOJ と FEI 選手権大会では(ii)～(iv)の競技課目の実施が義務づけられ、またその他すべての国際ジュニア馬場馬術競技会でもその実施が推奨される。これらの課目ではすべて暗記して演技を行わなければならない。

4.2.2 プレリミナリー競技課目は任意である。プレリミナリー馬場馬術課目を実施しない場合は、団体課目が行われる前にメインアリーナで馴致できるよう、選手に時間を割り振らなければならない。

4.2.3 団体競技課目：団体課目は個人競技に向けた第 1 次個人予選競技でもある。

4.2.4 個人競技課目：この競技は団体競技に出場して演技を終えた選手全員に出場資格がある。

4.2.5 自由演技ジュニア課目 この競技への出場は、ジュニア個人競技にて出場資格を得た上位 6 組～18 組の選手／馬コンビネーション（最上位で同率の人馬を含む）に限定される。選手は 1 頭の馬で出場できる。
自由演技への出場を必須とするか否かは組織委員会の判断である。これは実施要項への記載が必要である。

4.2.6 コンソレーション競技 自由演技ジュニア課目への出場資格を得られなかった選手／馬は、コンソレーション課目（個人競技課目か自由演技ジュニア）が実施される場合はこれに出場できる。しかしコンソレーション競技を行う場合は褒賞を賞品のみとするか、あるいは賞金を予選競技課目の賞金額より低額とする。コンソレーション競技は実施要項と成績リストにその旨を明記しなければならず、審判員3名での審査とする。

4.3 チルドレン

4.3.1 チルドレン対象の馬場馬術課目は以下の通り：

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| (i) プレリミナリー競技課目 A | 選手全員が対象 |
| (ii) プレリミナリー競技課目 B | 選手全員が対象 |
| (iii) 団体競技課目 | 選手全員が対象 |
| (iv) 個人競技課目 | 団体競技から上位 6 名～18 名（最上位で同率の選手を含む） |

4.3.2 CDIOCh と FEI 選手権大会では(ii)～(iv)の競技課目の実施が義務づけられ、またその他すべての国際チルドレン馬場馬術競技会でもその実施が推奨される。これらの課目ではすべて暗記して演技を行わなければならない。

4.3.3 **プレリナリー競技課目**は任意である。プレリナリー馬場馬術課目を実施しない場合は、団体課目が行われる前にメインアリーナで馴致できるよう、選手に時間を割り振らなければならない。

4.3.4 **団体競技課目** 団体課目は、個人競技に向けた予選競技でもある。

4.3.5 **個人競技課目** この競技への出場は、団体競技にて出場資格を得た上位 6 組～18 組の選手／馬コンビネーション（最上位で同率の人馬を含む）に限定される。選手は 1 頭の馬で出場できる。

個人競技課目への出場を必須とするか否かは組織委員会の判断である。これは実施要項への記載が必要である。

4.3.6 **コンソレーション競技** チルドレン個人課目への出場資格を得られなかった選手／馬は、コンソレーション課目が実施される場合はこれに出場できる。しかしコンソレーション競技（団体競技課目か個人競技課目）を行う場合は褒賞を賞品のみとするか、あるいは賞金を予選競技課目での賞金額より低額とする。コンソレーション競技は実施要項と成績リストにその旨を明記しなければならない、審判員 3 名での審査とする。

4.4 ポニーライダー

4.4.1 ポニーライダー対象の馬場馬術課目は以下の通り：

- (i) プレリナリー競技課目（任意） 選手全員が対象
- (ii) 団体 FEI 課目 選手全員が対象
- (iii) 個人 FEI 課目 選手全員が対象
- (iv) 自由演技ポニーライダー課目 個人競技から上位 6 名～18 名（最上位で同率の選手を含む）

CDIOP と FEI 選手権大会では(ii)～(iv)の競技課目の実施が義務づけられ、またその他すべての国際ポニーライダー馬場馬術競技会でもその実施が推奨される。これらの課目はすべて暗記して演技を行わなければならない。

4.4.2 **プレリナリー競技課目**は任意である。プレリナリー馬場馬術課目を実施しない場合は、団体課目が行われる前にメインアリーナで馴致できるよう、選手に時間を割り振らなければならない。

4.4.3 団体競技課目 団体課目は個人競技に向けた第 1 次予選競技でもある。

4.4.4 個人競技課目 この競技は団体競技に出場して演技を終えた選手全員に参加資格がある。

4.4.5 自由演技ポニーライダー課目 この競技への出場は、個人競技にて出場資格を得た上位 6 組～18 組の選手／ポニーコンビネーション（最上位で同率の選手／ポニーを含む）に限定される。選手は 1 頭のポニーで出場できる。

自由演技への出場を必須とするか否かは組織委員会の判断である。これは実施要項への記載が必要である。

4.4.6 コンソレーション競技 自由演技ポニーライダー課目への出場資格を得られなかった人馬は、コンソレーション課目が実施される場合はこれに出場できる。しかしコンソレーション競技（個人競技課目か自由演技ポニーライダー課目）を行う場合は褒賞を賞品のみとするか、あるいは賞金を予選競技課目での賞金額より低額とする。コンソレーション競技は実施要項と成績リストにその旨を明記しなければならず、審判員3名での審査とする。

4.5 U25

4.5.1 U25 ライダー対象の馬場馬術課目は以下の通り：

- | | |
|---------------------|--|
| (i) インターメディエイト A | 選手全員が対象 |
| (ii) インターメディエイト B | 全選手全員が対象 |
| (iii) インターメディエイト II | 選手全員が対象 |
| (iv) グランプリ 16-25 | 選手全員が対象 |
| (v) 自由演技グランプリ | グランプリ競技から上位 6 名（下限）～15 名（第 15 位で同率の人馬も含めた上限） |

CDIOU25 と FEI 選手権大会では(iii)～(v)の競技課目の実施が義務づけられ、またその他すべての国際 U25 馬場馬術競技会でもその実施が推奨される。これらの課目ではすべて暗記して演技を行わなければならない。

4.5.2 インターメディエイト II 課目 インターメディエイト II 課目は、グランプリ 16-25（JEF 注：原文はグランプリ 16-15）競技に向けた第 1 回個人予選競技でもある。

4.5.3 グランプリ 16-25 課目 この競技は、これより前のインターメディエイト II 競技に出場して演技を終えた選手全員に参加資格がある。

4.5.4 自由演技グランプリ課目 この競技への出場は、グランプリ競技にて出場資格を得

た上位6組（下限）～15組（第15位で同率の人馬も含めた上限）の選手／馬に限定される。選手は1頭の馬で出場できる。

自由演技への上場を必須とするか否かは組織委員会の判断である。これは実施要項への記載が必要である。

4.5.5 コンソレーション競技 自由演技グランプリ課目への上場資格を得られなかった人馬は、コンソレーション課目が実施される場合はこれに出場できる。しかしコンソレーション競技（グランプリか自由演技グランプリ）を行う場合は褒賞を賞品のみとするか、あるいは賞金を予選競技課目での賞金額より低額とする。コンソレーション競技は実施要項と成績リストにその旨を明記しなければならない、審判員3名での審査とする

第423条 招待、参加申込、交代

1. 招待

1.2 招待は各々のNFを通して出さなければならない。CDI3*／CDI4*／CDI5*およびCDIO3*／CDIO4*／CDIO5*では、少なくとも各国1名の選手構成で主催国NFを含む6ヶ国以上＋リザーブとして3ヶ国、もしくは少なくとも各国選手1名で12ヶ国を招待し、競技参加を認めなければならない。選手15名までの参加とする競技会／ツアーについては、組織委員会は開催国NFを含めて4ヶ国を招待できる。

1.3 いかなる場合でも、主催者は外国人選手数よりも多く自国選手を招待することはできない。該当するNFは競技会へ派遣する選手を最終選考する。

1.4 実施要項案には当該競技会へ招待されるNFとリザーブNFのリスト、および一NFに対する招待選手数を記載し、競技会開催日の遅くとも10週間前までにFEIへ送付しなければならない。

2. 個人招待／ワイルドカード

2.1 すべてのCDIについて、組織委員会は上記に加えて個別に2名の追加選手を、各々の所属NFを通して招待する権利を有する。

2.2 すべてのCDI4*／CDI5*／CDI-Wについて、FEIは招待されたNFと選手に加えて1枚のワイルドカードを発行する権利を有する。

2.3 すべてのCDI3*競技会について、新興国のNFに所属する選手と、招待を受けていないが特定の期限内にFEI選手権大会への上場最低基準スコアの取得が必要なNF選手に対して、FEIは3枚までのワイルドカードを発行する権利がある。

組織委員会招待と組織委員会ワイルドカード これらの招待（外国人選手および／または自国選手）は他の参加者らに対する条件と同等でなければならず、また直接あるいは間接を問わず金銭的寄与があってはならない。ペイカードとアピアランスフィーは、FEI一般規程に記載されている通り厳格に禁止する。

FEIワイルドカード FEIワイルドカードの申請は、デフィニットエントリー締め切り日の2ヶ月前までに選手の所属NFを通してFEI馬場馬術部門へ提出するものとする。

3. 参加申込

1. CDI競技会の参加申込はFEI一般規程第116条に従って行わなければならない。

－ デフィニットエントリー この参加申込は遅くとも競技会開始の4日前までに行わなければならない。これは当該競技会に参加する選手と馬の最終選考となる。選手および／または馬の交代は本規則に則った場合にのみ可能である。

FEI選手権大会とFEI世界馬術選手権大会（WEG）への参加申込は、FEI一般規程第116条に従って行わなければならない。

2. デフィニットエントリー期日以降に参加を取りやめた場合、あるいは「ノーショウ」で競技会場に臨場しなかった選手には、組織委員会が被った経費損失（即ち厩舎代とホテル費用）を組織委員会へ支払う義務が生じる。「ノーショウ」について納得ゆく説明がない場合、当該選手の参加申込を行ったNFに対してFEIが罰金を科すことがある。このような事例では、この「ノーショウ」により発生したすべての経費負担を、組織委員会が当該NFに請求することができる。

4. 交代

4.1 交代：（FEI選手権大会と大会を除く）：

（組織委員会が）デフィニットエントリーを受領した後に、馬と選手を交代させることは、組織委員会の許可があった場合に限り可能である。組織委員会は、馬と選手の交代が認められる最終期日を実施要項に明記しなければならず、この期日はいかなる場合でもホースインスペクションの2時間前までとする。

4.2 FEI選手権大会とFEI大会での交代。

一般規程と特別規程を参照のこと。

第424条 出場人馬の申告

団体競技については、特定規程に別段の記載がある場合を除き、次の規則を適用する：

1. 出場人馬の申告はホースインスペクションの1時間前までに行うものとする。抽選の正確

な時刻を実施要項に明記すること。

2. 2.1 出場者として申告した選手および／または馬が病気になったり、事故に遭った場合、この選手および／または馬は当該競技開始の2時間前まで医師および／またはFEI獣医師代表からの診断書を提出のうえ競技場審判団の承認を受けて、公式に参加申込しており、また必要な場合は出場資格も取得している別の選手および／または馬と交代させることができる。出場を取り止めた選手あるいは馬は、チームメンバーとしても個人としても参加できなくなる。

交代した選手は当該競技で最初に出場するものとし、その他の選手については順次、出場時刻を調整する。

2.2 1NFにつき選手4名が出場資格を得ても3名のみが出場できるCDIOと個人自由演技グランプリ決勝競技で、出場資格を得た選手／馬のいずれかが病気であると診断された場合には、チーム内4番目の選手がその同一NFの選手と交代する。

2.3 同一競技会で先に行われた競技で予選通過すれば最大限の選手が出場できる競技の場合は、次点の選手が辞退した選手に代わる。

2.4 いかなる出場辞退、あるいは交代も組織委員会が競技場審判団長へ報告しなければならない。これを怠った場合は、イエローカードの発行対象となる。

第 425 条 スターティングオーダーの抽選

1. 抽選は競技ごとに行わなければならない。抽選は競技場審判団長および／または外国人審判員、技術代表、およびチーム監督か馬の管理責任者、および外国人選手の臨席をもって行うものとする。

可能な限り各グループとも同数の選手数となるようグループ分けし、また可能な限り1グループにつき5名とする。選手数が5で割り切れない場合は、最初のグループを少人数とする。例えば23名の選手がいる場合、第1グループに3名、第2グループに5名、第3グループに5名、第4グループに5名、第5グループに5名とする。世界馬場馬術ランキングリストで同順位の選手については同じグループ内で抽選を行い、他のグループはこれに応じて調整しなければならない。

2. 個人競技 個人競技のスターティングオーダー抽選は、国籍に関係なく行うものとする。選手が2頭以上の馬に騎乗する場合は、スターティングオーダーを調整して同選手の出場時刻に1時間以上の間隔を設けなければならない。参加者数が非常に少なくこの間隔がとれない場合、選手は自馬の出場順を決めることができる。本規定で特定していない競技については通常の抽選を行う。

2.1 CDI：グランプリ競技については主催者が次の方法から選択できる：

- a) 通常の抽選；あるいは
- b) 世界馬場馬術ランキングリストのリバースオーダー（逆順）で5名ずつのグループに分けて行う抽選。（リストに掲載されていない選手から抽選を行う。）

組織委員会が採用する抽選方法は実施要項に記載しなければならない。その競技で審判員の試験が行われる場合には、a)通常の抽選を採用しなければならない。

2.2 CDI-W：グランプリの抽選は、世界ランキングリストのリバースオーダー（逆順）で5名ずつのグループに分けて行う。

3. CDIOとFEI選手権大会 団体選手と個人選手を含む団体競技のスターティングオーダー抽選は、次の要領で行う：

3.1 各チーム監督は、チーム内におけるチームメンバーのスターティングオーダーを決定する。チーム監督はチーム内選手の出場順番を記載した書類を封筒に入れて封印し、遅くとも競技の抽選2時間前までに大会委員長へ提出しなければならない。

3.1.1 選手3名のみで構成するチームについては、最初のスターティングポジションを空きとする。

3.1.2 グランプリレベルの選手権大会およびグランプリレベルの大会については、参加しているチーム選手のFEI世界個人ランキングリストにおけるポイント平均に基づき、5名ずつのグループに分けてチームのスターティングオーダー抽選を行う。

3.2 個人選手の氏名を書いたものを容器(A)に入れる。出場選手の総数と同数の番号票を2つ目の容器(B)に入れる。

個人選手の氏名を容器Aから引き、その選手のスターティングオーダーを容器Bから引く。次の個人選手の氏名を容器Aから引き、その選手のスターティングオーダーを同様に決定し、すべての選手についてこの要領で抽選を行う。

競技が2日間にわたって行われる場合、個人選手の抽選は世界馬場馬術ランキングリストのリバースオーダーで2グループに分けて行い、最上位選手らは2日目出場の抽選を行う。競技が1日で行われる場合は2グループに分け、世界馬場馬術ランキングリストで最上位選手らは後半で抽選を行う。

3.3 出場チームの総数と同数の番号票を容器(C)に入れ、出場チームの国籍を記載したものを容器(D)に入れる。まずチーム名を引き、続いて番号票を引いて当該チームのスターティングオーダーを決定する。この要領で最後のチームのスターティングオーダー抽選まで行う。競技が2日間にわたって行われる場合は、いずれのチームも2日目に2名の選手を出場させる

3.4 抽選で決定した個人選手のスターティングオーダーをスターティングリストに書き入れる。続いてチーム選手を空欄に順次書き入れる。

3.5 CDIOとFEI選手権大会における個人競技の抽選は、以下の要領で行うものとする：

グランプリスペシャル：グランプリの成績のリバースオーダーで5名ずつのグループ

自由演技グランプリ：グランプリスペシャルの成績のリバースオーダーで5名ずつのグループ

4. グランプリスペシャル

すべてのCDI3*／CDI4*／CDI5*競技会において、グランプリスペシャルのスターティングオーダー決定には5名ずつのグループで抽選を行う。第11位から第15位までの選手グループが先ず抽選を行い、続いて第6位から第10位までの選手グループ、最後に第1位から第5位までの選手グループが抽選を行う。即ち上位5組の人馬が最後に出場することとなる。

5. 自由演技課目

すべてのCDI競技会において、自由演技課目のスターティングオーダー決定には5名ずつのグループで抽選を行う。第15位で同順位の選手を含む第11位から第15位までの選手グループで先ず抽選を行い、続いて第6位から第10位までの選手グループ、最後に第1位から第5位までのグループが抽選を行う。即ち、上位5組の人馬が最後に出場することとなる。

6. 貸与馬 貸与馬競技に関する付則を参照のこと。

7. 地域大会 団体課目については、本規程の第425条3に則した通常の抽選を適用する。個人競技については、5名ずつのグループに分けて抽選を行う。第11位から第15位までの選手グループが最初の出場となる。

8. 事前の競技で予選通過しなければ出場できないあらゆる競技のスターティングオーダーは、5名ずつのグループに分けた抽選で決定する。抽選は実施要項に明記しなければならない。スターティンググループ中に同率成績の人馬コンビネーションがいる場合は、同じグループで抽選を行い、これに応じて人数調整を行う。

9. グランプリに選手が2頭以上の馬で出場することを実施要項で認めている場合、組織委員会はいずれの馬も予選通過した時にはどの馬がグランプリスペシャルへ進み、どの馬が自由演技グランプリへ進めるかを実施要項に定めなければならない。

第427条 服 装

1. 保護用ヘッドギア*とトップハット／ポラーハット：

1.1 原則として、騎乗する際はいかなる時もすべての選手（同様にその他の人物も）は保護用ヘッドギア*を着用しなければならない、またチルドレン、ポニーライダー、ジュニア、ヤングラ

イダー、U25についてはホースインスペクションでも着用が義務づけられる。このカテゴリー以外の人物でもホースインスペクションに馬を臨場させる場合は、着用が推奨される。

1.2 この条項に違反するすべての選手（同様にその他の人物も）は、保護用ヘッドギアを適正に着用するまで、直ちに騎乗が禁止される。

1.3 以下の例外措置を適用する：26歳以上**の選手で7歳以上の馬に騎乗している場合には、保護用ヘッドギアの代わりにトップハット／ボーラーハットを着用してもよい。しかしこの例外措置は、実際の競技および競技直前のウォームアップ（時間をあけずに競技に出場する場合）に限定され、これには厩舎とウォームアップエリア間の騎乗、ウォームアップエリアでの競技馬への騎乗、厩舎へ戻る際の騎乗が含まれる。演技課目開始時点と終了時点での敬礼、表彰式における褒賞受領時とウィニングランの際には（保護用ヘッドギアではなく）トップハット／ボーラーハットをとってもよい。

1.4 しかしながら、この例外にあてはまる選手であっても、自身の安全確保のため、常時保護用ヘッドギアを着用することが望ましい。本規定で認めているか否かにかかわらず、選手が保護用ヘッドギアを外す場合は、常に選手自身がリスクを負うことになる。

1.5 トップハットのような形状をした保護用ヘッドギアは、標準的トップハットと同じ条件で着用が認められる。

注記*：2021年1月1日付けで、保護用ヘッドギアに関わるFEI一般規程第140条への修正が発効する。

注記**：保護用ヘッドギアはFEI一般規程の追記Aに定義されている。

注記***：選手は26歳になる暦年の始め（1月1日）から26歳とみなされる。

2. 民間人

すべてのCDIYH（7歳馬）/CDIY/CDIU25/CDI3*/CDI4*/CDI5*/CDI-W、CDIO、FEI選手権大会、地域大会、オリンピック大会において、以下の服装着用が必須である：黒か濃紺の燕尾服またはジャケット、あるいは国際色相・彩度値の範囲内にある暗色のもの。この色相・彩度値で32%未満の値である色については、FEIに申請することで認められる場合がある。対比色と縁飾りは許可される。

保護用ヘッドギアあるいはトップハット／ボーラーハット**：黒または燕尾服と同色

乗馬ズボン：白またはオフホワイト

ストッキングまたはタイ：白、オフホワイト、または燕尾服と同色

手袋：白、オフホワイト、または燕尾服と同色

長靴：黒または燕尾服と同色

拍車：下記4項を参照のこと

2.1 自由演技グランプリについてのみ、単色であれば何色の燕尾服またはジャケットでも許可される。ストライプ入りのものや多彩色の燕尾服またはジャケットは認められない。色相を変えた襟や控えめな縁飾り、クリスタル装飾など、品位を損なわず、かつ過度に華美でない装飾は許される。

2.2 CDI1*/CDI2*/CDIAmにおいてはすべて、黒か濃紺のジャケット（色については上記を参照）にトップハット／ボラーハット**の着用も認められる。この他の国際馬場馬術競技会でも、この服装が望ましい。CDIJ/CDIP/CDIch/CDIYH（5歳馬と6歳馬）のすべてにおいて、黒か濃紺のジャケット着用が必須である。

2.3 注記**：第427条1にて保護用ヘッドギアの着用が義務づけられていない選手のみトップハットあるいはボラーハットの着用が認められる。

2.4 悪天候の場合、競技場審判団は薄手のレインコート着用を認めることがある。非常に暑い天候の場合、競技場審判団は選手にジャケット着用なしに騎乗を認めることがある。

3. **軍人、警察官など**はすべての国際競技会において民間人と同様の服装でも、あるいは制服を着用しても構わない。制服は軍隊直属の隊員と警察官ばかりでなく、他の国営施設／軍事施設や国立牧場／学校／協会のメンバー、従業員、あるいは学生にも適用する。保護用ヘッドギアに関わる必要条件をすべて遵守しなければならない。

4. **拍車**の着用はCDIPとCDIch競技会を除いて必須であり、その材質は金属でなければならない。柄は選手の長靴に装着した時に拍車の中央背部から直ぐ後ろへ、カーブを描くか真直に出ているものでなければならない。拍車の腕は表面が滑らかであり、鋭利でないこと。輪拍の場合は輪が鋭利でなく滑らかであり（先端が鋭角でないもの）、自由に回転するものであること。丸みのある硬質プラスチック製のノブ付き金属製拍車（「インパルス」拍車）は使用が認められる。柄なしの「擬似」拍車も使用が認められる。

4.1 チルドレンとポニー競技では拍車の着用は任意であるが、使用する場合は鋭利でない金属製であり、長靴から拍車先端までの測定で3.5cm以内の拍車のみ認められる。輪拍は認められない。

5. **イヤフォン**および／または他の電子通信機器をFEI馬場馬術競技において演技中に使用することは厳格に禁止され、これに違反した場合は失権となる。しかしトレーニング中およびウォーム

アップ中のイヤフォンあるいはこれに類する機器の使用は認められる。

第428条 馬 装

以下が義務づけられている：

1. 馬場鞍は馬体に密着し、ほぼ垂直に長いあおり革と、英国式鐙あるいはセイフティ鐙を備えたものである。

1.1 鐙は閉鎖タイプのものであり、付属物があってはならない。足全体が、あるいは部分的であっても包み込まれる状態ではならず、また決して（マグネットなどで）鐙に付着させてはならない。セイフティ鐙は外側に開口部があってもよい。

1.2 サドルパッドの使用は任意であるが、その場合は白色であること。しかし単色のサドルパッドであれば使用可能とする。対比色と縁飾りは認められる。ストライプ入りや多彩色のパッドは許可されない。

1.3 サドルカバーの使用は認められない。

2. 鼻革つき頭絡

2.1 バックルや詰め物を除き、ヘッドストール（面がい）と鼻革は全体が革あるいは革様素材で作られていなければならない。頭絡に詰め物をすることは認められる。ヘッドストールの皮革部分を補強するためナイロンあるいは他の非金属素材を使うことはできるが、馬体に直接触れるようではならない。項革と頬革についてのみ、弾力性のある詰め物をするのが許可されるが、馬体や銜に直接触れるものであってはならない。

2.1.1 額革は必要であり、項革あるいはヘッドストールに接するパーツを除いては、革あるいは革に類する素材である必要はない。

2.1.2 頭絡の項革は項のすぐ後ろに位置しなければならない、項の方へ広がっていても良いが頭蓋の背後にかかってはいけない。

2.1.3 交叉鼻革あるいはミクレム頭絡が使われる場合を除き、喉革が必要である。

2.1.4 手綱は、頭絡銜から拳に至る途切れなく繋がっている革紐あるいは綱である。手綱に付属物を付けたり、延長させることは認められない。銜の両端は各々別の手綱に繋がっていないなければならない、手綱は銜にのみ取り付けることができる。手綱はロープあるいはロープ様素材であってはならない。

2.1.5 いかなるレベルの競技でも、馬を傷つけるほどに鼻革をきつく締めてはならず、スチュワードマニュアルの鼻革プロトコルに定める検査を行わなければならない。

2.2 CDI/CDIO3*/4*/5*/U25、CDI-W、選手権大会／大会（Games）（ポニー、チルドレン、ジュニア、ヤングライダーを除く）については、カブソン鼻革付き大勒頭絡、即ち小勒銜とグルメット付き大勒銜の使用が必須である。コンビ鼻革は、下の“フラッシュ”ストラップなしで使用できる。グルメットは金属製、革製あるいはその混合でもよい。グルメット留め革、およびゴム、革あるいはシープスキン製のグルメットカバーの使用は任意である。カブソン鼻革もグルメットも馬を傷つけるほどにきつく締めてはならない。

2.2.1 CDI1*と2*、CDIO2*、CDIJ、CDIOJ、CDIY、CDIOY、CDIAm、7歳馬対象のCDIYH、ジュニアとヤングライダー選手権大会では水勒頭絡あるいは大勒頭絡の使用が認められる。

2.2.2 CDIP/Ch、CDIOP/Ch、ポニー選手権大会、チルドレン選手権大会、5歳馬と6歳馬対象のCDIYHについては、審査用紙に記載があれば、水勒を使用する。

2.2.3 基本的な水勒頭絡には通常のカブソン鼻革、ドロップ鼻革、フラッシュ鼻革、交叉鼻革、コンビ鼻革あるいはミクレムの併用が必要であり、もしくはこれらに類似したデザインの頭絡使用が求められる。

3. 銜 水勒銜、小勒銜、大勒銜は滑らかな表面でなければならない。ねじり銜とワイヤー銜は禁止である。銜は金属、硬質プラスチック、あるいは耐久性のある合成素材でなければならないが、ゴム／ラテックスでカバーしてもよい。銜は舌に力学的な拘束をもたらすものであってはならない。小勒銜／水勒銜および／または大勒銜の銜身直径は馬を傷つけない程度とする。大勒銜の銜身直径は12mm以上、小勒銜は10mm以上とする。馬に使用する水勒銜の場合は直径12mm以上、ポニーについては直径10mm以上とする。銜身の直径は銜身のリングあるいはチーク付近で測る。

3.1 水勒銜 - 大勒頭絡の使用が求められない場合は水勒銜が許可される。

3.1.1 水勒銜はルースリング、D-リング、エッグバットチーク、ハンギングチークと共に使用可能である。シングルジョイントあるいはダブルジョイントの水勒銜もアッパーチークあるいはロウアーチーク、フルチークもしくはフルマーチークと共に使用可能である。ルースリングにはリング周囲にスリーブ（sleeve）を付けることができる。

3.1.2 柔軟性のあるゴム製あるいは合成素材の銜身が許可される。

3.1.3 水勒銜にはジョイントが2ヶ所までであってもよい。ダブルジョイント水勒銜の中央接続部としてバレルあるいはボールジョイントが認められるが、中央部分の表面は硬質でなければならない。ローラー以外に可動部分があってはならない。中央接続部は銜身とは異なる方

向へ傾斜していても良いが、丸みを帯びたエッジでなければならず、舌押えの作用があってはならない。

3.1.4 ダブルジョイント水勒銜あるいは回転式銜身付きの水勒銜は、舌ゆるめとなるような形状でも良い。舌ゆるめの余裕は舌の側縁下部から最大で高さ30mmとする。最も幅広の部位は銜身が舌に接する部分でなければならず、その幅は少なくとも30mm必要である。ジョイントあり／なしの水勒頭絡の銜身は、上述した寸法内でカーブしていても良い。

3.2 小勒銜 – 小勒銜は、大勒銜と併用して大勒頭絡を構成する水勒銜と定義される。

3.2.1 小勒銜はルースリングおよびエッグバットチークとの併用が可能である。

3.2.2 小勒銜には1ヶ所あるいは2ヶ所のジョイントがなければならない。ダブルジョイント小勒銜の中央接続部として、バレルあるいはボールジョイントが認められるが、中央部分の表面は硬質でなければならず、ローラー以外に可動部分があってはならない。中央接続部に舌押えの作用があってはならない。

3.2.3 銜の中央接続部にロックがかかり、ミューレンマウス水勒銜の効果がある小勒銜は許可されない。

3.2.4 柔軟性のあるゴム／合成素材の小勒銜は許可されない。

3.3 大勒銜

3.3.1 大勒銜の銜身から下のレバーアーム（銜枝）の長さは10cmまでとする。アップーチークは口ウアーチークより長くてはいけない。大勒銜に遊動式銜身がついている場合、大勒銜の銜身から下のレバーアームの長さは、銜身が一番高い位置にある時に10cmを超えてはならない。

3.3.2 大勒銜には真直ぐなチークあるいはS字形チークをつけることができる。回転式レバーアーム（銜枝）を付けても良い。

3.3.3 銜身は真直ぐであるか、あるいは舌ゆるめとなるような形状でも良い。舌ゆるめの余裕は舌の側縁下部から最大で高さ30mmとする。最も幅広の部位は銜身が舌に接する部分でなければならず、その幅は少なくとも30mm必要である。

3.3.4 グルメットは金属製か革製、あるいはその組み合わせでもよい。グルメットカバーは革、ゴム、あるいはシースキン製でもよい。グルメットのフックは固定しても、固定しなくても良い。

4. 鞭 すべての国際競技会において、アリーナでの演技中はいかなる種類の鞭も携帯することはできない。ただし練習馬場で全長が1.20mまで（ポニー競技では1.00mまで）の鞭を

1本使用することは認められる。鞭は競技用アリーナの周囲スペースへ入る前に落とさなければならず、落とさなかった場合は減点となる。馬場馬術規程第430条を参照のこと。

競技会場に到着した時点から騎乗、手綱を引いて常歩で歩かせること、引き馬、あるいは調馬索運動（調馬索用追い鞭は許可）を行う選手についてのみ、競技会場のどこにおいても鞭を1本（1.20m以内／ポニーの場合は1.00m以内）携帯することが認められる。グルームも上記のように馬を常歩で歩かせること、引き馬、調馬索運動を行うことができる。他の者は馬のトレーニングに関わりがない場合に限り、鞭の携帯が認められる。安全上の理由から、表彰式では鞭の携帯が認められる。

5. 装具 マルタンガール、胸あて、ビットガード、ブーツ、あらゆる装具（ベアリングレイン、サイドレイン、ランニングレイン、バランシングレイン、ネーザルストリップなど）、およびあらゆる形態のプリンカーもその使用は厳しく禁止され、これに違反した場合は失権となる。馬場馬術規程第430条を参照のこと。

6. その他

6.1 人工の尾／長く見せるために付ける尾は、FEIから事前に許可を得ている場合に限り使用が認められる。このような許可の申請書類は、写真と獣医師の証明書を添えてFEI馬場馬術部門へ提出すること。（ホックや紐穴を除いて）人工の尾に金属部分があってはならず、また重りを付けてもいけない。

6.2 イヤーフードはすべての競技会で使用が認められ、これにより雑音を軽減する効果も見込まれる。しかしながらイヤーフードで馬の目を覆ってはならず、また第428条6.3は例外として耳栓は許可されない。イヤーフードは控えめな色合いとデザインであること。イヤーフードを鼻革に装着することはできない。

6.3 耳栓の馬への使用は表彰式においてのみ許可される。

6.4 馬にいかなる飾りを施すことも認められない。

7. フライマスク：馬の目を覆うプリンカーとフライマスクの使用は競技用アリーナでは禁止される。

8. 馬装の点検 禁止された装備で選手がフィールドオブプレイに入ることを防止するため、最終ウォームアップ馬場を出る前にスチュワードによる目視チェックが行われることがある。目視チェックは選手をサポートする意味合いがあり、義務づけではないため選手はサポートを断ることができる。しかし、禁止された馬装で入場しない責任はすべて選手にある。スチュワード1名を選任して、各馬がアリーナを出た直後に馬装を点検させなければならない。馬装が規定にそ

ぐわない場合はC地点審判員に報告し、これが確認されれば、当該馬は即時失権となる。馬によっては口が非常に敏感なため、頭絡の点検には細心の注意を払わなければならない（FEIスチュワードマニュアルを参照）。

スチュワードは、頭絡を点検する際に使い捨ての手術用／保護用手袋を着用しなければならない（各馬につき手袋1組）。

9. ウォームアップとトレーニングエリア 前記1項～5項はウォームアップ馬場や他のトレーニングエリアにも適用されるが、これらの馬場ではカブソン鼻革や通常のドロップ鼻革、メキシコ鼻革、フラッシュ鼻革付きの水勒頭絡、ブーツ、バンデージの使用が認められる。

調馬索運動では、ロンジングカブソン、両側に1本ずつのサイドレーンあるいはダブル・スライディング式サイドレーン（トライアングル）が許可される。調馬索運動では調馬索用レーン1本のみの使用が許可され、調馬索用カブソンあるいは水勒銜／小勒銜に装着しなければならない。大勒銜に調馬索用レーンを装着して調馬索運動を行うことは認められない。

10. 個体識別番号 競技会期間を通して、各馬は選手が準備する個体識別番号を継続して使用する。スチュワードを含むどの役員でも馬の個体識別ができるよう、（到着時から競技会終了まで）実際の競技中、また練習およびスクーリングエリアで運動を行ったり、引き馬で歩かせるなど、いかなる時もこの番号を付けていることが義務づけられる。この番号の表示を怠った場合はまず警告カードが渡され、これが繰り返された場合は競技場審判団から当該選手に罰金が科せられる。個体識別番号の文字色は指定しないが、白地に控えめな記載とする。

11. ブーツとバンデージ：すべての国際競技会において、アリーナでの演技中は馬の肢にブーツおよび／またはバンデージを付けることは禁止である。ブーツおよび／またはバンデージは、競技用アリーナ周囲のスペースへ入場する前に外さなければならず、これを怠った場合は選手にペナルティが課される。馬場馬術規程第430条を参照。

第 429 条 アリーナと練習馬場（図については付則「アリーナ」を参照）

1.1 承認 オリンピック大会、地域大会、およびFEI選手権大会では、技術代表が競技用アリーナの点検を行い、これを承認しなければならない。この過程で、指名された外国人選手の意見が求められる。

1.2 その他すべての国際競技会では、外国人審判員か競技場審判団長が競技用アリーナの点検を行い、これを承認しなければならない。この過程で、指名された外国人選手の意見が求められる。

外国人選手とは、国際競技会にて組織委員会が指名した選手である。

2. アリーナの規格 アリーナは平坦で高低差がなく、長さ60m、幅20mの広さとする。対角線あるいは長蹄跡での高低差はいかなる場合も60cm以内、短蹄跡ではいかなる場合も20cm以内とする。アリーナは主として砂馬場でなければならない。上記の測定値はアリーナフェンスの内側を測定した値とし、このフェンスは観客から少なくとも10m以上の距離をおいて設置する必要がある。これについてはFEIが例外を認めることがある。競技が屋内で行われる場合、アリーナは原則として壁から2m以上離れていなければならない。アリーナそのものは高さ約30cmの低い白色フェンス（レールは硬質であってはならない）で囲うこと。A地点でのフェンスは選手を入退場させられるよう、簡単に取り外しできるものとし、選手の演技中および（選手と選手の）演技間はC地点審判員が開始の合図を出すまで閉鎖していなければならない。入場口の広さは2m以上なければならない。フェンスのレールは馬の蹄が踏み込んで抜けなくなならないよう配慮したものであること。レールの構成素材に金属が含まれていてはならない。アリーナに関する詳細は付則11と12を参照のこと。

3. 馬場馬術アリーナフェンスとジャッジボックス／テーブルへの広告表示

すべてのFEI選手権大会とFEI指定シリーズについて、馬場馬術アリーナフェンスでの広報権は唯一FEIに帰属する。これらの競技会については、組織委員会がFEIより事前に許可を得て、広告スペースを獲得することができるが、広告が一切認められない馬場馬術用地点標記とそのホルダーを除く。

広告は黒のみの印字でフェンス内側にだけ表示でき、A地点を除くアリーナ地点標記の両側は各々1.5m以上広告のないスペースとしなければならない。短蹄跡側のM地点、C地点、H地点は完全に広告のないスペースとする。B地点とE地点の両側は各々3m以上のスペースをあけること。従って、フェンスには最長44mまで広告が認められることとなる。広告は規則的に設置しなければならず、また長蹄跡での広告掲示は正確に対称な設置とする。

スポンサーの商標／ロゴを掲げる場合は高さを20cm以内としなければならない。広告は馬場馬術アリーナフェンスの上端に合わせる。広告はアリーナフェンスの内側にのみ設置できて外側は不可であり、FEIと放映局との合意に基づく条件が効力を有する時は、これを尊重しなければならない。

フェンスあるいはジャッジボックス／テーブルに掲示する広告はすべて、競技開始までに外国人審判員か外国人技術代表の承認も受ける必要がある。ジャッジボックスの正面につける広告はいかなるものも2m²までの大きさとする。

上述した広告の設置位置条件に従い、FEI承認競技会名および／またはロゴを馬場馬術アリーナフェンスに掲げることは常に許容される。

例えば：CDIOアーヘン／CDI5*カンヌ／CDI-Wロンドン

本規則に違反した組織委員会については、FEIが本規程とFEI一般規程に基づいて罰金を科すとともに／またはその競技会からCDIタイトルが外されることがある。

4. 地点標記 アリーナフェンスの外側に設置する地点標記は、フェンスから50cmほど離して明確に表示することとする。フェンス自体にも該当標記と同じ高さに印を付すことが義務づけられる。地点標記やそのホルダーに広告を施すことは認められない。地点標記は観客からも見えるように設置する。

5. 審判員の配置 3名の審判員を短蹄跡に沿って配置しなければならない、屋外競技ではアリーナから3m以上、5m以内の位置とするが、屋内競技の場合は2m以上離すことが望ましい。C地点審判員は中央線の延長線上に、またその他の2名（M地点とH地点）は長蹄跡の延長線上より内側へ2.50mの位置に配置する。サイドの審判員2名（B地点とE地点）は各々のB地点、E地点でアリーナから3m以上、5m以内の位置に配置するが、屋内競技では2m以上離すことが望ましい。審判員が3名の場合は、1名が長蹄跡側に座るべきである。馬場馬術規程第437条を参照のこと。審判員7名の場合は、追加の2名がC地点審判員の向かい側短蹄跡に、長蹄跡の延長線上より5m内側に位置する。これに関わる例外にはFEIの承認が必要である。

6. ジャッジボックス 各審判員に個別のジャッジボックスか台座を用意しなければならない。高さは地上より50cm（自由演技課目ではもう少し高い方がよい）以上とし、アリーナがよく見えるようにする。ジャッジボックスは4名を収容できるよう十分な広さがなくてはならない。ジャッジボックスはアリーナ全体を良く見渡せる状態にする。グランプリレベルでのFEI選手権大会と大会（Games）では、各ジャッジボックスにジャッジ・シグナリング・システムに接続したボタンを設置し、出血や破行、経路違反あるいは馬装の誤りなどの場合に各審判員がC地点審判員へ内密に通報できるようにしなければならない。ジャッジ・シグナリング・ボタンの設置は他の競技会では任意である。

6.1 ジャッジボックスへは、（昇格要件を満たすための役員を含む）審判業務に関わる者のみ入ることができる。いかなる例外も競技場審判団長の事前承認が必要であり、FEIへの外国人審判員報告書に記載しなければならない。メディアあるいは記録機器をジャッジボックスへ入れることは認められない。

7. 小休止 6～10名の選手が演技を終える毎に10分間程度の休憩を入れ、馬場表面を整備しなければならない。

馬場馬術競技の実施中に設ける小休止あるいは休憩は、いかなる場合も2時間（昼食など）を限度とし、また他の競技をその間に入れてはならない。

しかし1競技の出場選手数が約40名を超える場合には、組織委員会はこの競技を2日間に分け

て実施しなければならない。

8. アリーナへの入場 アリーナへの入場前に外周を騎乗することが実質的に困難な競技については、ベルの合図前に、選手はアリーナへ入ることが認められる。ベルの合図後、選手はアリーナから外へ出ずに演技を開始する。

アリーナ外周を騎乗できる競技の場合、選手はベルの合図前にこのアリーナ周辺スペースへ入ることが認められるが、アリーナへはベルの合図があってから入ることができる。

C地点審判員はベルと時計／時間に責任を有する。

9. アリーナでのトレーニング 選手／馬は競技で演技を行う場合か、あるいは組織委員会の裁量によりメインアリーナがトレーニング用に開放される場合を除き、いかなる場合も競技用アリーナを使用してはならず、これに違反した場合は失格となる（下記参照）。いかなる例外も技術代表または競技場審判団長の承認が必要である。

10. 練習馬場 望ましくは競技会の第1競技開催の2日以上前から、選手が自由に使用できる広さ60m×20mの練習馬場を少なくとも1つは設置しなければならない。可能であればこの馬場は競技用アリーナと同じフットイングで準備する。

60m×20m の練習馬場を提供できない場合は、選手に競技用アリーナでの練習を許可しなければならない。競技用アリーナをトレーニング目的に使用できる時間帯を定めて予定に組み、実施要項へ明記すること。競技用アリーナでのトレーニングを認める場合は、競技用アリーナを実際の競技仕様のセットアップにできるだけ類似させて最終ウォームアップ用に準備することが望ましい。

「テンミニッツアリーナ」は、競技用アリーナへ入場する前の最終練習馬場である。オリンピック大会と FEI 選手権大会では「テンミニッツアリーナ」の設置が義務づけられ、その他すべての CDI／CDIO では推奨される。

10.1 テンミニッツアリーナは、メインアリーナと同じフットイングでなければならない。

10.2 選手は、前の選手がメインアリーナへ入場するためにこの馬場から出た後にテンミニッツアリーナへ入ることができる。技術代表あるいは外国人審判員が別段の判断をくだした場合を除き、「テンミニッツアリーナ」へ入ることができるのは1選手のみである。

10.3 この「テンミニッツアリーナ」の使用は、選手に義務づけられるものではない。

10.4 スチュワードは、厩舎の公式開放時刻から常時臨場して、すべてのトレーニング／ウォームアップを監視しなければならない、当該競技会が公式に開始となる前でも諸規定を執行することができる。

10.5 馬装の調整を行うことは認められ、通常範囲内での馬の手入れが許可される。

11. **中断** 競技が妨げられるような技術面での不備があった場合は、C地点審判員がベルを鳴らす。明らかに外的要因で競技が妨げられた場合にも、同様の手順を適用することが推奨される。異常な気象条件あるいはその他の極限状況では、C地点審判員がベルを鳴らして演技を中断させることができる。技術代表／組織委員会も、競技を止めるようC地点審判員に提案できる。これにより影響を受けた選手は、競技再開が可能になった段階で演技を再開し、完結させることとする。

自由演技課目の最中に選手の曲が途切れてしまい、バックアップ態勢がない場合、選手はC地点審判員の許可を得てアリーナを出ることができる。他の選手の出場時刻にはできるだけ影響を与えないように配慮する。当該選手は予定されていた競技の休憩時間帯か競技の最後に戻って演技を終了させるか、あるいは演技を初めからやり直す。C地点審判員は当該選手と話し合い、演技再開の時刻を決める。初めから演技をやり直すか、あるいは音楽が中断したところから再開するかは当該選手の判断に任される。いずれにしても、既に与えられた点数は変更しない。

演技に影響を及ぼすと思われる異物がアリーナ内に入った場合には演技を中断させなければならない、その物体が除去された時点で選手は演技を継続することができる。

規定課目で選手が演技を再開しなければならない場合、選手は課目の最初から始めるか、あるいは中断した箇所から始めるかを選択できる。中断前に与えられた点数はそのまま残る。

第 430 条 競技課目の実施

FEI公式課目はすべて暗記して演技を行い、課目に定められた順序ですべての運動項目を演技しなければならない。

1. **ベルによる合図** ベルによる合図の後、選手は45秒以内にA地点よりアリーナへ入らなければならない。自由演技課目の場合、選手は音楽スタートの合図をするまでに45秒が与えられ、音楽のスタートから30秒以内にアリーナへ入らなければならない。

自由演技課目の最中に技術的な不備があったり、音楽の鳴り出しが遅かった場合には、C地点審判員が計時を止めて問題の解消後に計時を再開させることができる。C地点審判員はベルと時計／時間について責任を負う。可能な限り45秒を示す時計を使用すべきであり、選手には常にははっきりと見えるように設置しなければならない。

馬が排便あるいは排尿を始めた場合は時計を止め、馬が演技を再開できるようになった段階で時計を再スタートさせる。

2. 敬礼 選手は敬礼の際に片手で手綱を持たなければならない。トップハット／ボーラーハットを着用している選手は、脱帽するか頭を下げるだけにするか選択できる。

3. 経路違反 選手が「経路違反」（回転を間違えたり、あるいは運動項目を抜かすなど）をした場合、C地点審判員はベルを鳴らして当該選手に警告する。必要であればC地点審判員はどこから演技をやり直すか、次に行う運動は何かを示して演技を続行させる。しかし選手が「経路違反」をしても、ベルを鳴らして演技の流れを止める必要のない場合もある。例えばK地点で中間速歩から収縮常歩へ移行すべきところをV地点で移行した場合、あるいはA地点より中央線を駈歩で進んでL地点でピルーエットを行うところをD地点で行った場合などに、ベルを鳴らすか否かはC地点審判員が判断する。しかし経路違反でベルが鳴らされず、それと同じ運動項目が当該課目の中で繰り返し求められていて、当該選手がまた同じ誤りをした場合には、1回の誤りについてのみ減点する。

経路違反か否かの判断については、C地点審判員に唯一決定権がある。これに従って、その他の審判員のスコアを調整する。

4. 課目／実施の誤り 選手が「課目の実施の誤り」（速歩ではなく軽速歩をとるなど）を犯した場合は、「経路違反」と同じく減点しなければならない。C地点審判員が経路違反と判断（ベルを鳴らす）しない限り、原則として選手は運動項目をやり直すことはできない。しかし選手が既に運動を開始して同じ運動項目をやり直そうとしている場合には、審判員は最初の運動を採点対象とし、同時に経路違反として減点する。

5. 気付かれなかった誤り 競技場審判団が誤りに気付かなかった場合は、疑わしい場合でも選手は有利に扱われ、その誤りで減点されることはない。

6. ペナルティ

6.1 「経路違反」

上述の場合を除き、ベルが鳴らされたか否かにかかわらず、「経路違反」はすべてペナルティの対象となる。

1 回目 （各審判員の）得点率から 2%減じる

2 回目 失権

ヤングホース課目、またチルドレン、ポニーライダー、ジュニア課目での最初の経路違反は各審判員の得点率から0.5%が差し引かれ、2回目の違反は1%の減点、3回目の違反で失権となる。

6.2 その他のペナルティ

ペナルティを適用するかいなかの判断はC地点審判員の責務であり、一貫性を保つため、他の審判員の審査用紙もこれに従って記載する。

以下の場合にはすべて過失とみなされ、それぞれの過失につき各審判員で2点が減点されるが、違反回数は累計されず、失権になることはない（自由演技課目を含む）：

- － アリーナ周囲スペースに鞭をもって、あるいは馬の肢にブーツを装着したまま、もしくは規定外の服装（例：手袋をしていない）で入場すること、および／または馬場馬術アリーナに鞭をもって、あるいは馬の肢にブーツを装着したまま、もしくは規定外の服装（例：手袋をしていない）で入場すること。演技開始後に誤りが判明した場合、C 地点審判員は選手を止め、必要かつ可能であれば補助員をアリーナ内に入れて、これらを外させる。選手は始めから（この場合は馬場埒の内側から）あるいは止められた運動項目から再開する。止められる以前の得点は変更しない；
- － ベルの合図前にアリーナへ入場すること；
- － ベルが鳴ってから 45 秒以内にアリーナへ入場しなかったものの、90 秒以内には入場した場合；
- － 自由演技で、音楽開始から 30 秒を超えて入場した場合；
- － 自由演技課目が、審査用紙に規定された時間よりも長い場合、芸術性得点率から 0.5%が差し引かれる。
- － 繰り返し舌鼓や声を使用すること；
- － 選手が敬礼時に片手で手綱をとらなかった場合。

6.3 減点 減点は各審判員の審査用紙にて、当該選手の合計得点から差し引かれる。

7. 失権

7.1 跛行 著しい跛行が見られる場合、C地点審判員は選手に失権を通告する。この決定に対して上訴することはできない。

7.2 反抗 いかなる反抗も、20秒を超えて演技を中断させた場合は失権となる。しかしながら選手や馬、役員、審判員、観客に危険がおよぶと思われる反抗については、安全上の理由から20秒よりも早い時点で失権となる。これは馬場馬術アリーナへの入場前、あるいは退場する際の反抗についても適用する。

7.3 落馬 人馬転倒あるいは選手が落馬した場合、当該選手は失権となる。

7.4 馬場馬術課目の演技中にアリーナから出た場合 課目の開始から終わりまでの馬場馬術競技中に、馬の四肢すべてがアリーナから出てしまった場合は失権となる。

7.5 許可されていない援助 音声や合図など外部からのいかなる援助（イヤフォンおよび／または電子通信機器を含む）も、選手あるいは馬への不正もしくは許可されない援助と見なされる。許可されていない援助を受けた選手あるいは馬は、失権としなければならない。

7.6 出血：

7.6.1 課目演技中にC地点審判員が馬体のいずれかの部位に鮮血があると疑った場合、同審判員はその馬を止めて確認する。当該馬に鮮血が認められた場合は失権となる。失権は最終判断である。同審判員が点検して鮮血ではないことが明らかになれば、当該馬は演技を再開して課目を終了させることができる。

7.6.2.1 FEIスチュワードが演技終了後の点検時に馬の口あるいは拍車があたる部位に鮮血を認めた場合（第430条9）、同スチュワードはC地点審判員にこれを伝え、同審判員は当該人馬を失権とする。

7.6.2.2 FEIスチュワードが演技終了後の点検時に、馬体の他の部位（即ち、馬の口あるいは拍車があたる部位以外）に鮮血を認めた場合には、同人馬が自動的に失権となることはない。当該競技会における後続競技へのこの馬の競技継続適性については、FEIチーフスチュワードがその情報をC地点審判員に伝え、C地点審判員がFEI獣医師の意見に基づいて判断する。C地点審判員が競技継続の適性がないと判断した場合、当該馬は当該競技会にてそれ以降の競技あるいは課目に出場することは許可されないが、既に終了している競技あるいは課目にて当該選手／馬コンビネーションが獲得した成績は有効である。

7.6.3 上記に従って馬が失権となった場合、あるいは演技中に怪我をして演技終了後に出血し始めた場合には、FEI獣医師が次の競技前に検査して翌日以降にその馬が競技会で継続出場する適性があるかを判断する。FEI獣医師の判断は上訴の対象とならない。

7.7 失権となるその他の理由

- － 人馬コンビネーションが競技課目で求められているレベルの運動を行えない場合
- － 演技が馬のウェルフェアに反し、そして／または虐待となる騎乗を呈している場合
- － 人馬コンビネーションがベルの合図から90秒以内に競技用アリーナへ入場しない場合。ただし、正当な理由（落鉄など）がC地点審判員へ通知された場合を除く。
- － 第430条6.2に記載されていない許可されない装備で騎乗した場合

8. 所定地点での運動項目の実施 アリーナの所定地点で実施されるべき運動項目については、選手の体がその地点の上に来た時に行うものとするが、ただし馬が斜線あるいは直角に地点標記に近づいて行う移行の場合を除く。この場合は移行に際して馬体が真直ぐであるよう、馬の鼻先が地点標記の蹄跡上に達した時点で移行を行わなければならない。これには踏歩変換の実施も含まれる。

9. 課目の開始／終了 課目はA地点からの入場に始まり、演技終了の敬礼を終えて馬が前進し始めた時点で終わる。出血や装具の適否を確認する目的で選手／馬の点検が行われる場合には、馬装点検終了まで課目の終了とみなされない。課目の開始前、あるいは終了後のいかなる偶発的出来事も、点数に影響を及ぼさない。選手は競技課目に記載された方法でアリーナから退場する。

10. 自由演技課目に関する詳細 選手は音楽が始まってから30秒以内にアリーナへ入場しなければならない。

自由演技課目の始めと終わりでは、停止して敬礼することが義務づけられている。演技時間は選手が停止の後に前進を始めた時点で開始となり、最後の敬礼で終了となる。

詳細はFEIウェブサイトで公開されている馬場馬術審査ガイドラインを参照のこと。

11. ヤングホース競技の詳細

詳細についてはFEI馬場馬術ハンドブックを参照のこと。

第431条 時間

競技課目の所要時間 自由演技課目についてのみ実施時間の計測を行う（馬場馬術規程第421条）。その他の審査用紙に記載されている時間は参考に過ぎない。

第432条 採点

1. すべての運動項目と、一つの運動から別の運動への所定の移行が審判員によって採点され、審査用紙に記録される。

2. 各審判員は最低0点から最高10点までの点数で採点する。

3. 点数の尺度は次の通りである：

10 優秀	4 不十分
9 極めて良好	3 やや不良
8 良好	2 不良
7 おおむね良好	1 極めて不良
6 基本的な要求を満たしている演技	0 不実施
5 まず可とみる	

審判員の判断により、運動項目と総合観察点では0.5～9.5点の間で0.5も使用できる。

「不実施」とは、要求された運動項目を実質的に何も行わなかったということである。

自由演技課目では、すべての点で0.5をつけることができ、芸術点では0.1の小数も使用できる。

ヤングホース対象の課目では0.1の小数を使用できる。

4. 総合観察点：選手が演技を終了した後に、総合的印象について総合観察点が与えられる。
[この変更は明確な定義を付けて2021年1月1日付けで発効する]

総合観察点は0～10点で採点される。

5. 総合観察点と特定の難度の高い運動項目には、FEIが定める係数を設けることができる。

第 433 条 審査用紙

1. 概要

1.1 審査用紙には2つの欄がある：初めの欄は審判員が最初の採点を記入する欄で、2つ目の欄は修正点を記入する欄である。いかなる修正点も、修正した審判員がイニシャルで署名しなければならない。審判員のスコアは当該審判員による是認が必要である。

1.2 また審判員の観察所見欄もあり、審判員はできる限りその採点の理由を記載するべきである。所見は英語で記載しなければならない。少なくとも5点以下を与えた場合は、観察所見を記載することが強く推奨される。観察所見とはライダーへの情報提供の意図がある。

1.3 オリンピック大会で入賞した人馬コンビネーションの審査用紙原本は、組織委員会がFEIへ送付しなければならないが、これには各審判員が各選手に出した得点率を明記したリストを含む各競技成績を添付する。審査用紙のコピーは選手に渡せるよう準備する。

1.4 クラスの最終成績は競技場審判団長、あるいは外国人審判員／技術代表が必要に応じて署名しなければならない。

1.5 FEI馬場馬術課目審査用紙はすべてFEIウェブサイトからダウンロードできる。

1.6 JSPが配置されている場合は、JSPによる修正を入れて署名を受けた書式を通常の審査用紙に添付し、選手に渡せるよう準備する。点数の修正を受けた審判員には修正を入れた書式コピーを渡す。

2. 紙面での審査

2.1 CDIとCDIO競技会の審査用紙原本については、競技終了後に選手に渡せるよう準備する。コピーをFEIへ提出する必要はない。

3. ペーパーレス審査

3.1 ペーパーレス審査システムの使用にはFEI承認が必要であり、競技会実施要項に記載しなければならない。

3.2 FEIウェブサイト掲載のFEI要件の通り、FEIが承認したペーパーレス審査システムのみ使用できる。

3.3 いかなる場合でも馬場馬術課目の印刷版を準備して、これを競技中のバックアップとして審判員に提供しなければならない。

3.4 競技終了後、選手はFEIプラットフォームを介して電子フォーマットにて電子版審査用紙を受け取ることができる。選手の電子版審査用紙へのアクセスは選手本人に限定される。

第434条 順位

1. 各演技が終了し、各審判員が総合観察点を記入して署名した後に審査用紙が記録係へ渡される。係数が設けられているところでは得点に係数を掛け、合算する。

2. 各審査用紙における得点を合算し、JSPによる修正を入れ、これを得点率に換算したものを合計して順位を決定する。経路違反の減点%は（各審判員の）得点率から差し引く。成績とスコア（芸術性得点率と技術性得点率を含む）はすべて小数点以下第3位までの表示で発表しなければならない。

3. 個人順位（CDI）は次の要領で決定する：

3.1 すべての競技において優勝者は最終得点率が最も高い選手、第2位は次点の選手、以下同様とする。

同点 上位第3位までで同率となった場合は、審判員らが出したスコア（得点率）の中央値を比較し、これが最も高い順に順位を決定する。中央値とは中間の値である。一連のスコアで中央値を求めるには、スコアを低い方から並べる必要がある。例えば68.5% - 69% - 70% - 70.5% - 71%; この場合は70%が中央値である。

自由演技課目の上位第3位までで同率となった場合は、芸術点の高い選手を上位とする。

これ以外の順位で同じ得点率となった場合は同順位とする。

3.2 ヤングホース競技での同点

第1位から第3位で同点となった場合は、次のシステムで順位を決定する：「従順性」と「将

来性」を足して2で割る；平均得点が高い方の選手／馬コンビネーションを上位とする。それでも同点の場合は「従順性」の得点で決定する。それでも同点の場合は同順位とする。

CDIO、FEI選手権大会、オリンピック大会での個人順位については、馬場馬術規程第452条と第459条を参照のこと。

4. 団体順位（CDIO）は次の要領で決定する：すべての団体競技において、優勝チームはチーム内上位3選手の合計ポイントが最も高いチーム、第2位は次点のチーム、以下同様とする。

同点 同点となった場合は、チーム内上位3選手のうちで最下位の選手の成績が最も高いチームが上位となる。

5. 苦情／抗議 公式ミスに関する抗議／苦情については、正式認可を受けたビデオ（公式ビデオ録画の契約がある場合）のみ証拠として使うことができる。

第 435 条 成績の計算と発表

1. 各演技終了後、各審判員が与えた得点率が計算され、総合成績とともに個別に仮発表される。

1.1 計算に使用する参照用の最高総得点は各審査用紙に示す。

例：グランプリ：460点

自由演技グランプリ：技術点として200点＋芸術点として200点

ヤングホース7歳馬決勝：技術点として350点＋クオリティ点として50点

1.2 得点率：得点率計算は次の原則に則ってすべて小数点以下第3位へ四捨五入する。例えば0.0011 - 0.0014は切り捨てとし、0.0015 - 0.0019は切り上げる。

2. 計算：

2.1 技術点のみで評価される課目では、各審判員の得点率は運動項目ごとの得点を合計して最高総得点で除し（第435条1.1を参照）、100を掛けて求める。

2.2 技術点と芸術点、あるいは技術点とクオリティ点で評価される課目では、各審判員の得点率は技術性と芸術性の得点率、あるいは技術性とクオリティの得点率を合計し、2で除して求める。

2.3 最終得点率は、各審判員の得点率を合算して審判員の人数で割り、求める。

例： 1)各審判員の得点率：E = 69.990%、H=70.333%、C=70.205%、
M=71.120%、B=69.660%；

2)最終得点率：70.262%

3. パーセント表示の成績はすべて小数点以下第3位まで示さなければならない。

4. FEIシニア大陸選手権大会、地域大会、FEI世界選手権大会、FEIワールドカップ™馬場馬術ファイナル、オリンピック大会では、選手の各演技項目について各審判員が出したスコアを表計算シートにまとめ（各選手につき1枚）、審判員や選手、チーム監督、メディアが利用できるようにしなければならない。

5. 選手が競技前に出場を取り消したり、あるいは課目の演技前または演技中に出場を辞退する、失権となる、または「ノーショウ」であった場合は、成績表の選手名の後に「出場取り消し」「出場辞退」「失権」「ノーショウ」の用語かその短縮文字を表記しなければならない。

- 出場取り消しと出場辞退：自分の演技開始前に正当な理由で選手が出場をキャンセルし、これを競技場審判団長が認めた場合；
- 棄権：選手は演技を開始したものの途中でこれを断念すること；
- 失権：選手は演技を開始したが、馬場馬術規程違反で演技を止めなければならないこと；
- ノーショウ：情報のないまま選手が現れず、演技が行われないこと。

6. スコア表示

演技中は審判員にスコアが見えないようにするべきである。観客へのランニング・スコア（各審判員の得点率）とオープン・スコアリング（運動項目ごとの全審判員平均点）表示は推奨される。

第436条 表彰

1. 入賞した選手／馬は表彰式に参加しなければならない。これを怠った選手は入賞（リボン、厩舎プレート、賞品、賞金）が取り消される。特定競技については、競技場審判団長／外国人技術代表および／またはC地点審判員が認めた場合に限り、本規定の例外を適用することがある。服装や馬装は競技中と同様とするが、黒か白のバンデージ、馬への耳栓使用、鞭の携帯は認められる。安全上の理由から、選手は表彰式に際して旗やその他の物を携えることはできない。勝者だけは馬に馬着やブランケットを着せて表彰式に臨むことが認められる。

2. リボンは表彰式の前に馬の頭絡に付けておくこと。

3. 競技場審判団長あるいは当該競技におけるC地点審判員は表彰式に参加することがあり、必要に応じて上記手順の例外を承認する。

4. 表彰式についての奨励事項（FEIウェブサイト）も参照のこと。馬を興奮させたり驚かせるほどに音楽を大きくすることは認められず、表彰式やホースインスペクションなど馬が集まるような時はいつも、選手および／またはグルーム、さらにこれに関わる者は誰もが責任をもって行動しなければならない。

5. 注意を怠ったり、あるいは無責任な行動に対してはイエローカードが出されることがある。甚だしい不注意や無責任な行動により事故が発生した場合は、FEIへ報告して更なる措置を講じる。FEI一般規程を参照のこと。

6. 安全上の理由から、表彰式では鞭の携帯が認められる。

第3章 競技場審判団、JSP、獣医師代表団と獣医師代表、スチュワード、および馬に対する虐待行為

第437条 競技場審判団

1. すべての国際馬場馬術競技において、付則7に記載の通り競技場審判団は3名以上、7名以内の審判員で構成しなければならない。競技場審判団メンバーは、FEIリストから選考された国際審判員であること。審判員は4つのカテゴリーに分けられる：2*（新設）、3*（以前の国際審判員補）、4*（以前の国際審判員）、5*（以前の公認国際審判員）。

2. オリンピック大会とFEIシニア馬場馬術選手権大会のグランプリレベル、FEIワールドカップTM馬場馬術ファイナルでは、FEIがメンバー7名と予備審判員1名で構成する競技場審判団を選任する。

オリンピック大会、すべてのFEI選手権大会、FEIワールドカップTM馬場馬術ファイナルと地域大会では、審判員全員が互いに異なる国籍でなければならない。

3. 競技場審判団メンバーは全員が英語を話さなければならない。

4. 各審判員には、その審判員と同じ公用語（英語は必須で、できればフランス語を理解できること）を話せて記述できるセクレタリーを1名ずつ付けて補佐させなければならない。

5. C地点審判員は、希望すればセクレタリーの他にもう1名の特別アシスタントを依頼することができる。このアシスタントの任務としては、課目の進み具合を追い、C地点審判員に「経路違反」および／または「運動項目の誤り」を伝えることである。

6. 審判員の内規は、行動規範と馬場馬術審判員規範に記載されている。（一般規程を参照）

7. **予備審判員** あらゆるレベルのFEI選手権大会および大会（Games）において、7名か5名の競技場審判団メンバーが選任されている場合には、審判員のうち1名が出席できない事態に備えて予備審判員を1名選任しなければならない。グランプリレベルでの世界および大陸選手権大会、FEIワールドカップTM馬場馬術ファイナルでは、予備審判員を競技会場に臨場させることとし、またこれよりも低いレベルの選手権大会および大会（Games）でもできる限り配置する。

8. **FEI選任の外国人審判員** 外国人審判員はFEIにより選任を受け、FEIを代表して任務に当たる。FEIが外国人技術代表を選任している競技会では、外国人審判員を選任しない。

8.1 競技場審判団長、あるいはその他の競技場審判団メンバーは、その国際競技会の開催国とは異なる国籍を有している場合に、外国人審判員としての職務を果たすことができる。外国人審判員の役割は、競技がFEI規程に則り、FEI承認の実施要項に従って確実に開催されるようFEIを代表して尽力することである。

8.2 FEI地域選手権大会と地域大会、CDIO、すべてのCDIでは、競技場審判団長または競技場審判団メンバー1名が外国人審判員として職責を果たし、外国人審判員報告書を作成することが義務づけられる。外国人審判員は実施要項の中に明記しなければならず、またでき得る限り5*審判員とする。

9. 審判員と技術代表の選任

9.1 **FEI選手権大会と大会（Games）**の競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEI5*審判員リストからJSPの推薦を受け、FEI馬場馬術テクニカル委員会／FEI本部が選任する。同団長とメンバーは全員がすべての競技で審査を行う。審判員は全員が異なる国籍でなければならない。

9.2 ユース対象のFEI選手権大会

U25とヤングライダー、ジュニア、チルドレン、ポニーライダー対象の**FEI大陸選手権大会**における競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIが馬場馬術テクニカル委員会の協力を得て、FEI5*審判員および4*審判員リストより選任する。

ユース対象の選手権大会が複数併催される場合は、各FEI大陸選手権大会について、FEIが審判長1名を含む5名構成の競技場審判団を5*審判員と4*審判員リストより選任する。

9.3 **FEIワールドカップ™馬場馬術ファイナル**の競技場審判団長とその他6名の競技場審判団メンバーは、FEIが馬場馬術テクニカル委員会の協力を得て、FEI5*審判員および4*審判員リストより選任する。

9.4 **FEIワールドカップ™馬場馬術予選競技**の審判員は、5*審判員および4*審判員リストから選任しなければならない。FEIから事前の承認を受けている場合に限り、例外的に3*審判員を1名選任することができる。外国人審判員はFEIが選考する。FEIワールドカップ™馬場馬術競技会規程を参照のこと。

9.5 **国際オリンピック委員会が後援する地域大会**の競技場審判団長とその他4名の競技場審判団メンバーは、馬場馬術テクニカル委員会の協力を得て、FEIがFEI5*審判員および4*審判員リストより選任する。

9.6 ヨーロッパ大陸以外で開催される**FEI地域選手権大会とFEI大陸選手権大会**の競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIがFEI5*審判員と4*審判員リストより選任する。

9.7 **CDIO**の競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIの合意を得て、組織委員会がFEI5*審判員と4*審判員リストより選任する。

CDIOでは、5名の審判員のうち少なくとも3名が互いに国籍の異なる外国人でなければならない。

ユース対象のCDIOについては付則7を参照。

9.8 **CDI5***の競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIの合意を得て、組織委員会がFEI5*審判員と4*審判員リストより選任する。5*審判員を3名以上、互いに国籍の異なる外国人審判員を3名以上選任するものとする。4*審判員を1名以上選任しなければならない。

9.9 **CDI4***の競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIの合意を得て、組織委員会がFEI5*審判員と4*審判員リストより選任する。5*審判員を2名以上、互いに国籍の異なる外国人審判員を3名以上選任するものとする。4*審判員を2名以上選任しなければならない。

9.10 **CDI3***の競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIの合意を得て、組織委員会がFEI 5*、4*、3*審判員リストより選任する。西ヨーロッパで開催されるビッグツアーでは、3*審判員1名を少なくとも1競技にて審判団に加えることが義務づけられ、西ヨーロッパ域外ではこれが推奨される。だが5名構成の競技場審判団における3*審判員の選任は2名までとする。4*審判員を1名以上選任しなければならない。少なくとも3名の審判員は、互いに国籍の異なる外国人審判員とする。西ヨーロッパ域外では3名の外国人審判員のうち2名までは同国籍でもよい。

スモールツアー競技 西ヨーロッパ域外で開催されるCDIおよびCDI-Wで行う場合は、FEIから事前承認を受けてセントジョージ賞典とインターメディエイト I レベルの競技を例外的に3名構成の競技場審判団で審査することがある。西ヨーロッパにおいては病気などの特別な事情により、また事前にFEIの許可を受けている場合にのみこれが認められる。審判員3名の場合は次のような配置とする：2名は短蹄跡側（C地点と、H地点またはM地点）に、残り1名は反対側の長蹄跡側（B地点またはE地点）。少なくとも1名は外国人審判員でなければならない。競技場審判団に2*審判員を1名採用することができる。最低限の要件はミディアムツアー競技と同じである。

9.11 **CDI2*** 審判員は3名以上とする。競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、組織委員会がFEI5*、4*、3*審判員リストより選任する。5名構成の競技場審判団については、開催国NFから現役として活動している（当該NFが判断）国内グランプリ審判員も1名選任できる。5名構成の競技場審判団では、そのうち少なくとも2名が互いに国籍の異なる外国人でなければならない。3名構成の競技場審判団の場合は、1名が外国人でなければならない。

9.12 **CDI1*** 審判員は3名以上とする。競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、組織委員会がFEI5*、4*、3*、2*審判員リストより選任する。3名構成の競技場審判団では、開催国NFから現役として活動している（当該NFが判断）国内グランプリ審判員も1名選任でき、5名構成の競技場審判団の場合は2名選任できる。5名構成の競技場審判団では、そのうち少なくとも2名が互いに国籍の異なる外国人でなければならない。3名構成の競技場審判団の場合

は、1名が外国人でなければならない。

9.13 CDI-U25 審判員は3名以上とする。競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、組織委員会がFEI5*、4*、3*審判員リストより選任する。5名構成の競技場審判団では、開催国NFから現役として活動している（当該NFが判断）国内グランプリ審判員も1名選任できる。3名構成の競技場審判団の場合は少なくとも2名が互いに国籍の異なる外国人審判員でなければならない、また5名構成の競技場審判団でも、少なくとも2名が互いに国籍の異なる外国人審判員でなければならない。

9.14 CDIY/CDIJ/CDIP/CDICH 審判員は3名以上とする。競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、組織委員会がFEI5*、4*、3*、2*審判員リストより選任する。5名構成の競技場審判団では、開催国NFから現役として活動している（当該NFが判断）国内審判員も1名選任できる。

3名構成の競技場審判団の場合は少なくとも2名が互いに国籍の異なる外国人審判員でなければならない、また5名構成の競技場審判団の場合でも、少なくとも2名が互いに国籍の異なる外国人審判員でなければならない。ヨーロッパ域外では、3名構成の競技場審判団の場合、少なくとも1名の外国人審判員が必要である。

9.15 CDIYH 競技場審判団は、ヤングホース馬場馬術競技会の審判に認定されたFEI審判員リストより、3名以上の審判員を選任して構成しなければならない。「5歳馬、6歳馬、7歳を対象とする国際馬場馬術競技の指針」も参照のこと。

9.16 CDIAm 審判員は3名以上とする。競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、組織委員会がFEI5*、4*、3*審判員リストより選任する。5名構成の競技場審判団の場合は、少なくとも2名が互いに国籍の異なる外国人審判員でなければならない。3名構成の競技場審判団の場合は、少なくとも1名が外国人審判員でなければならない。3名構成の競技場審判団では、開催国NFから現役として活動している（当該NFが判断）国内グランプリ審判員も1名選任でき、5名構成の競技場審判団の場合は2名選任できる。

10. 5名構成の競技場審判団に選任できる3*審判員は2名までとする。FEIの特別許可により競技場審判団が3名で構成される場合は、1名に限り3*審判員とすることが認められる。

11. **1日に審査を行うことができる人馬数の上限** いかなる競技会においても、審判員1名に対して1日に約40名を超える選手の審査を依頼してはならない。

12. 競技場審判団長および／またはFEI選任の外国人審判員は、ホースインスペクションに間に合うよう、現地へ到着していなければならない。これができない場合には、FEIと組織委員会の同意を得て、競技場審判団の他のメンバーを代理とすることができる。

13. 競技場審判団メンバーが競技の前あるいは途中（競技課目の一部あるいはそれ以上）で審査ができなくなった場合、当該審判員のスコアは当該競技成績から削除する。

14. 審判員として必要な資格については、審判員に関する付則とFEI馬場馬術審判員教育システムを参照のこと。

15. **技術代表** 選手権大会と大会、シリーズファイナルについては、FEIが競技場審判団に加えて技術代表も選任する。ユースアスリート対象のFEI選手権大会が他のユースカテゴリー対象のFEI選手権大会と同時に開催される場合は、1名の技術代表がこれら両方のFEI選手権大会で職務を遂行できる。この場合はアシスタント技術代表の選任を推奨する。

第 438 条 JUDGES SUPERVISORY PANEL (JSP)

1. オリンピック大会、世界および大陸選手権大会のグランプリレベル、ワールドカップ・ファイナルでは、Judges Supervisory Panel (JSP)の配置が必須である。またすべての CDI、CDIO および上述以外の選手権大会／大会において、JSP の配置が可能である。

この JSP の配置目的は、公正な審査を確保することにある。

2. JSP は、理想的には審判員 2 名とトレーナー／選手 1 名の合わせて 3 名で構成するものとする。いずれの JSP メンバーも自立した個人であって経験豊かで（審判員：5*）、広く尊敬を集めていて外交手腕があり、審判員規範を遵守し、誠実かつ意思疎通にたけた人物でなければならない。現役の審判員、トレーナー、選手が JSP メンバーとして任務にあたる場合は、JSP 職務内容記述に明記されている通り、その任期中は馬術競技会での審判業務や（選手としての）騎乗、出場者のトレーニングを停止しなければならない。同じパネルには同一 NF 所属の JSP メンバーは 1 名のみとする。

3. JSP は明らかな技術的ミスおよび計数の誤りを修正することができる。JSP は、審判員が出し得る審査点の範囲を超えた点数を出すことはできない。修正は点数を下げることも上げることも可能である。点数の修正を行った場合、JSP は当該競技終了後直ちに、当該審判員への点数を修正したか通知しなければならない。修正を入れて署名された書式を規定の審査用紙に添付し、選手に渡せるよう準備するとともに、点数の修正を受けた審判員には修正を入れた書式のコピーを渡す。

4. ある人馬コンビネーションにおける審判員の最終スコアが、当該コンビネーションに与えた他の審判員のスコア平均から 5%あるいはそれ以上（上下に）離れていた場合、JSP は全員一致の判断で、その特定スコアを最も近接したスコアに変更することができる。

5. 競技会において JSP はアリーナ全体を十分に見渡せる場所におり、審判員の出す点数が刻々と表示されるコンピュータスクリーンとともに、すべての騎乗を各演技中に巻き戻して再確認できるビデオ映像の提供を受けるものとする。

6. JSP メンバーは 2 年間の選任期間である。期限を限定せずに再度選任されることがある。JSP メンバーに年齢制限はない。

第 440 条 馬に対する虐待行為

FEI一般規程に「馬に対する虐待行為」の記載があり、これら諸規定はすべてのFEI馬場馬術競技会に適用される。

第 441 条 獣医師代表団と FEI 獣医師代表

1. 地域大会およびオリンピック大会、FEIワールドカップ™ファイナル、すべてのFEI選手権大会、CDIOでは獣医師代表団を設置しなければならず、獣医規程に従って獣医師代表団長と同メンバーを選任しなければならない。

2. CDIでは、獣医規程に従い組織委員会がFEI獣医師代表に選任した獣医師1名の臨場が求められる。

第 442 条 スチュワード

1. FEI一般規程に「スチュワード」の記載があり、これら諸規定はすべてのFEI馬場馬術競技会に適用される。

1.1 チーフスチュワードは競技会を通してスチュワード業務を組織する責務がある。

1.2 チーフスチュワードは厩舎セキュリティが当該競技会レベルに適したものであるか、また十分な人数のスチュワードが配置されているかを確認しなければならない。

1.3 チーフスチュワード、組織委員会、競技場審判団、技術代表は開会式および閉会式など競技中のあらゆる式典、または競技において必要な機能がすべて支障なく遂行されるようにしなければならない。

1.4 選手権大会と大会（Games）については、FEIがレベル3の外国人チーフスチュワードを1名選任する。これに加えて組織委員会はレベル1以上のスチュワードを少なくとも2名選任しなければならない。

1.5 CDIとCDIOでは、組織委員会がレベル2スチュワード（チーフスチュワード）1名とレベル1以上のスチュワードを少なくとも1名選任しなければならない。

1.6 CDIO5*では、組織委員会がレベル3スチュワード（外国人チーフスチュワード）1名とレベル1以上のスチュワードを少なくとも2名選任しなければならない。

1.7 スチュワード

競技会の規模（当該競技会全体の参加選手数）と種類に応じて、組織委員会はチーフスチュワードと協議のうえ、競技会までに十分な人数のスチュワードを選任しなければならない。

国際競技会におけるスチュワードは全員が少なくともレベル1資格を有していることが望ましい。そうでない場合は、チーフスチュワードから個々の職責について正式に指導を受けていなければならない。

第4章 ホースインスペクション、獣医検査、薬物規制および馬のパスポート

第443条 ホースインスペクション、獣医検査および馬のパスポート

ホースインスペクションと獣医検査は獣医規程に従って行わなければならない。馬のパスポートについてはFEI一般規程を参照のこと。

第444条 馬の薬物規制

馬の薬物規制はFEI一般規程、獣医規程、馬ドーピング防止および治療規制規程、その他適用され得るFEI諸規程に従って行わなければならない。

第5章 CDIO、シニア世界選手権大会、大陸選手権大会、地域大会、個人・団体FEI馬場馬術選手権大会、および大会（Games）

第445条 CDIO

1. 参 加

1.1 CDIOはチームと個人選手を対象とする公式国際馬場馬術競技会である。

1.2 原則として、CDIOは参加国数に制限を設けず諸外国からの選手を対象とする。

1.3 しかしながら、CDIOのタイトルを掲げるには開催国を入れて6チーム以上（1NFにつき1チーム）が招待され、最低3チームが出場していなければならない。

1.4 CDIOでは、チーム参加に加えて同じNFから個人選手を参加させることはできない。招待を受けた選手は全員が同じ特典を受けるものとする。

CDIOのカテゴリー：

CDIO2*：賞金額が32.999スイスフランまでのCDIO

CDIO3*：賞金額が50.000スイスフランまでのCDIO

CDIO4*：賞金額が50.001～99.999スイスフランのCDIO

CDIO5*：賞金額が100.000スイスフランを超えるCDIO

2. **優先順位** すべてのCDIOはCDI競技会に優先する。CDI-WはCDI3*～CDI5*に優先する。

3. **チーム** 公式グランプリ団体競技を実施しなければならない。CDIO2*ではインターメディアイトAとB課目のみ実施できる。チーム構成は同一国籍の選手で3名以上、4名以内とする。リザーブの人馬コンビネーションは認められない。

4. 個人選手

チームを派遣できないNFは、1名ないし2名の個人選手を各々1頭あるいは2頭の馬とともに参加申込することができる。各選手ともグランプリでは1頭の馬にのみ騎乗できる。

5. 開催方式と課目

5.1 選手権大会方式：

競技方式：	課目：	参加：
1. 団体競技：	グランプリ課目	全員
2. 個人競技：	グランプリスペシャル	グランプリから上位30名 (チームの選手4名全員が出場資格を得た場合は全員が出場できる。)
3. 個人競技：	自由演技グランプリ	グランプリスペシャルから上位15名 (1ヶ国につき上位選手3名が出場できる。)

休養日を設ける場合は、第2競技と第3競技の間に設定することが望ましい。

5.2 ネーションズカップ方式：

FEI馬場馬術ネーションズカップ規程（CDIO3*/4*/5*）を参照のこと。

5.3 CDIO2*方式

競技方式：	課目：	参加：
1. 団体競技：	インターメディエイトA	全員
2. 個人競技：	インターメディエイトB	インターメディエイトAより上位30名まで

5.4 コンソレーション競技：組織委員会は、審判員3名の審査による（当該CDIOレベルの）コンソレーション競技を実施することができる。しかしながら、この競技により世界馬場馬術ランキングリストのポイントを与えられることはなく、授与される賞金は個人競技の賞金額よりも低くなければならない。馬場馬術規程第422条を参照のこと。

6. 抽 選

馬場馬術規程第425条を参照のこと。

7. 競技場審判団

7.1 競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIの合意を得て、NFと組織委員会がFEI 4 *審判員とFEI 5 *審判員リストより選任する。CDIO5*およびCDI5*における外国人審判員はFEIが選任し、FEI代表としての職責を果たす。

7.2 CDIOでは、競技場審判団メンバー5名のうち少なくとも3名は互いに国籍の異なる外国人でなければならない。7名構成の競技場審判団の場合は、4名が外国人でなければならないが、そのうち2名は同国籍でもかまわない。

9. 選手、グルーム、チーム監督、チーム獣医師の経費と特典

CDIO2*：組織委員会はFEIとの合意に従い、厩舎と飼料、食事、宿泊の費用総額をNFへ提供することができる。

CDIO3*：組織委員会はFEIとの合意に従い、厩舎と飼料、食事、宿泊の費用総額をNFへ提供することができる。

CDIO4*：経費と特典：宿泊、1日3食、厩舎、飼料

CDIO5*：経費と特典：宿泊、1日3食、厩舎、飼料

経費と特典は、当該競技会のホースインスペクション前日から最終競技の翌日まで提供しなければならない。

第 446 条 FEI 選手権大会 - 開催運営

1. FEI一般規程に記載された優先順位に従い、4年に一度、オリンピック大会と次のオリンピック大会との間の偶数年に、FEI世界個人および団体馬場馬術シニア選手権大会が割り振られる。
2. FEI一般規程に記載された優先順位に従い、2年に一度、オリンピック大会と次のオリンピック大会との間の奇数年に、FEI大陸個人および団体馬場馬術シニア選手権大会が割り振られる。
3. これらFEI選手権大会は、FEI一般規程と馬場馬術規程（以下で特に修正されている場合を除き前述の第2章）に準拠して開催しなければならない。ヨーロッパ域外では、少なくとも6ヶ国もしくは地域チームの参加がなければならない。
4. FEI選手権大会の競技はグランプリ（団体選手権競技）、グランプリスペシャル（個人競技）、および自由演技グランプリ（個人競技）で構成する。
- 4.1 メダルは3競技すべてについて授与される。

4.2 競技方式：	課目：	参加：
1. 団体競技：	グランプリ課目	全員
2. 個人選手権競技：	グランプリスペシャル	グランプリから上位30名 (チームの選手4名全員が出場資格を得た場合は全員が出場できる。)
3. 個人選手権競技：	自由演技グランプリ	グランプリスペシャルから上位15名 (1ヶ国につき上位選手3名が出場できる。)

休養日を設ける場合は、第2競技と第3競技の間に設定することが望ましい。

いずれの選手権大会（シニアレベルとそれ以下のレベルともに）についても、選手は最初の競技課目に出場して演技を終えていなければ次の競技に進めない。

選手権大会では団体選手権競技以外の団体競技は行えず、また選手が各競技で騎乗できるのは1頭のみとする（馬場馬術規程第420条、第422条と比較のこと）。

組織委員会は3名の審判員で審査を行うコンソレーション・グランプリ競技を実施することができる。しかしながら、この競技により世界馬場馬術ランキングリストのポイントを与えられることはなく、またオリンピック大会などへの出場資格ともならず、授与される賞金はその他の競技での賞金額よりも低くなければならない。馬場馬術規程第422条を参照のこと。

5. これらのFEI選手権大会は、他のあらゆる国際馬場馬術競技会に優先する。

6. （FEI選手権大会が開催される大陸でのFEI大陸選手権大会については）これらFEI選手権

大会開催前の2週間にCDIOを行うことは認可されない。該当する選手権大会の組織委員会の合意を得て、FEI理事会がこの規定の例外を設けることがある。

第 447 条 競技場審判団と技術代表

1. **競技場審判団**：すべてのFEI選手権大会（グランプリレベルのFEI選手権大会／大会、およびオリンピック大会を除く－第437条9.1を参照）と地域大会について、競技場審判団長とその他の競技場審判団メンバーは、FEIが5*審判員と4*審判員のFEIリストより選任しなければならない（馬場馬術規程第437条）。

セントジョージ賞典、インターメディエイトⅠ、あるいはインターメディエイトⅡを実施する場合は、競技場審判団をもう1組招聘しなければならない。

2. **外国人技術代表**：FEIが必要とみなした場合、地域大会とFEI地域選手権大会については、競技場審判団メンバーではない技術代表を選任しなければならない。

2.1 FEIシニア大陸選手権大会、FEI世界選手権大会、オリンピック大会、FEIワールドカップ™馬場馬術ファイナルについては、FEIが技術代表を選任する。この技術代表は競技場審判団長、あるいは競技場審判団メンバーであってはならず、馬場馬術技術代表のFEIリストから選考される。

2.2 FEIシニア大陸選手権大会、FEI世界選手権大会、オリンピック大会、FEIワールドカップ™馬場馬術ファイナル、FEIヤングライダーおよびジュニア選手権大会、FEI／スポーツホース世界ブリーディング協会（WBFSH）世界ブリーディング選手権大会で職務を遂行する資格のあるFEI技術代表のリストは、FEIが管理する。

2.3 技術代表は組織委員会およびチーフスチュワードと連携して、競技会の準備状況を事前に確認するとともに、これを承認しなければならない。技術代表は、獣医検査およびホースインスペクション、厩舎と選手の宿泊施設、競技会でのスチュワード業務といった、競技会開催に関わる技術面および運営面での準備を承認しなければならない。技術代表は打ち合わせ会を指導するとともに、テクニカルスタッフ全員の作業を監督する。競技場審判団が判断を求められて下した決定について、技術代表はそのすべてを調査し、競技場審判団へ報告し、また助言を行う。技術代表が準備全般について納得できたと競技場審判団へ報告するまでは、技術代表の権限が絶対である。それ以降、技術代表は引き続き競技会の技術面・運営面を監督し、競技場審判団、獣医師代表団、組織委員会へ進言するとともに、これらを補佐する。技術代表はできる限り外国人とする。

技術代表の資格認定条件は以下の通り：

－ 現役または過去にFEI4*/5*馬場馬術審判員であり、FEI技術代表セミナーに参加している

こと、または特定規定および馬場馬術の広範な知識を有することを根拠に馬場馬術テクニカル委員会により選任されており、FEI技術代表セミナーに参加していること。

第 449 条 競技参加

1. 世界馬場馬術選手権大会と大陸馬場馬術選手権大会については、FEIの承認を受けた後に、選手権大会の開催国NFまたは選手権大会組織委員会が実施要項と条件、招待状を該当するNFへ送付する。

1.1 参加申込

1.1.1 FEI世界および大陸選手権大会への参加申込は、一般規程第116条に従って行わなければならない。

1.2 選手／馬の交代：

（組織委員会が）デフィニットエントリーを受理した後に、ノミネートエントリーリストから馬と選手を交代させることは、組織委員会の同意をもって可能となる場合がある。組織委員会は実施要項に馬と選手の交代が認められる最終期日を明記しなければならないが、これはいかなる場合もホースインスペクションの2時間前までとする。

2. チーム

1NFから1チームを参加申込できる。各チームは選手3名と馬3頭、あるいは選手4名と馬4頭で構成する。リザーブの人馬コンビネーションは認められない。選手4名構成のチームでは、上位3選手の成績のみを団体成績にカウントする。

3. チームの代わりの個人選手

3.1 チームを派遣できないNFは、1名あるいは2名の個人選手を各々1頭あるいは2頭の馬で参加申込することができる。グランプリでは各選手とも1頭の馬にのみ騎乗できる。

3.2 選手権大会を主催するNFは、スモールツアー（セントジョージ賞典および／またはインターメディエイト I 競技）の実施予定があれば、これに追加選手を2名まで、各々1頭の馬で参加させる権利がある。

3.3 グランプリへの参加申込が約40頭を超える場合、主催者は当該競技を班分けして連続した日程で行わなければならない。この場合は同じ競技場審判団が審査を行う。

4. FEI選手権大会に関連して行われる競技の特別条件：

4.1 FEI選手権大会で1チームあるいは1～2名の個人選手を各選手1頭の馬で参加申込しているNFは、スモールツアー（セントジョージ賞典とインターメディエイト I）が実施される場合、これに追加選手1名ないし2名を追加の馬合計2頭とともに参加申込できる。

4.2 グランプリに出場する選手は、インターメディエイトⅡが実施される場合、この競技に同一馬でのみ出場することができる。

4.3 追加選手と追加馬の経費および特典は、各々のNFが負担する。組織委員会がこれらの経費と特典を援助することは自由である。

5. 抽選：スターティングオーダーの抽選

団体競技 馬場馬術規程第425条を参照のこと

個人競技 馬場馬術規程第425条を参照のこと

第 450 条 出場資格

シニア世界馬場馬術選手権大会とシニア大陸馬場馬術選手権大会については、FEI発表の出場資格基準を満たしたすべての選手に参加資格がある。

第 451 条 経費と特典－選手、グルーム、チーム監督、チーム獣医師

1. 選手、グルーム、チーム監督、チーム獣医師には宿泊、1日3回の食事、厩舎、飼料、交通費手当を提供すること。

2. 組織委員会は、競技会期間中の厩舎代と飼料代を負担する責任を負う。

3. 競技会場と宿泊施設／厩舎が離れている場合、組織委員会は審判員全員と技術代表、チーフスチュワード、およびチーム監督やチームメンバー、個人選手、グルーム、馬を含む公式チームの競技会期間中の移動手段についても提供する責任を負う。

4. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームおよび／または個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合はチーム監督とその所属NFが責任を負う。チーム監督には選手と同じ宿泊施設を提供することとする。

第 452 条 順位

1. **団体順位**は次の要領で決定する：すべての団体競技において、優勝チームはチーム内上位3選手の合計ポイントが最も高いチーム、第2位は次点のチーム、以下同様とする。

同点 同得点となった場合は、チーム内上位3選手のうちで最下位の選手の成績が最も高いチームを優勝とする。

2. **個人順位**は次の要領で決定する：

すべての競技において優勝者は最終得点率が最も高い選手、第2位は次点の選手、以下同様とする。

同点 上位第3位までで同率となった場合は、審判員らが出したスコア（得点率）の中央値を比較し、これが最も高い順に順位を決定する。中央値とは中間の値である。一連のスコアで中央値を求めるには、スコアを低い方から並べる必要がある。例えば68.5% - 69% - **70%**

- 70.5% - 71%; この場合は70%が中央値である。

その他の順位で同率となった場合は、当該選手に同順位を与える。

自由演技課目で同率となった場合は、芸術点の高い選手を上位とする。芸術点が同点の場合は、「調和」の項目で決定する。それでもなお同点の場合は「振り付け」の項目で決定する。

団体競技と個人競技で獲得した得点率を合算することはせず、競技はすべて0でスタートする。即ち選手は全員が持ち点0で各競技に臨む。

第 453 条 賞と賞金

1. 賞金 FEI一般規程に「賞と賞金」の記載があり、これら諸規定をFEI馬場馬術競技会に適用する。

FEI選手権競技での賞の配分は競技の開催条件に定め、当該選手権大会の招待状と実施要項とともに送付しなければならない。

2. **メダル** 団体FEI選手権の上位3チームで競技に出場した（演技を完了していなくてもかまわない）メンバー全員と、個人FEI選手権での上位3名の個人選手へFEIメダルが授与される。同点となった場合については馬場馬術規程第452条を参照のこと。

付則 1 ユースアスリート・カテゴリー

第1章 緒言

第1条 概要

ユースアスリートの参加は世界の馬術競技の発展に重要な要素である。以下に定める諸規程の目的は、特に彼らにあてはまる固有条件を斟酌しつつ、世界のユースアスリート対象の競技会と競技を規格統一することにある。

第2条 諸規程の優先性

本馬場馬術規程に網羅されていないあらゆる事柄については、定款や FEI 一般規程、FEI 獣医規程、その他該当する FEI 諸規程が適用される。

第2章 国際競技会への出場資格

第3条 概要

1. 選手の年齢については、FEI一般規程を参照のこと。
2. ユース選手権大会：すべてのユース選手権大会について、その出場資格認定基準はFEIウェブサイトにて公開される。
3. 可能な競技組み合わせ：第422条を参照

第4条 参加

該当年齢の選手は複数カテゴリーのFEI競技に出場できるが、各々の競技種目で1暦年中に出場できるのはFEI選手権大会カテゴリー1つのみである（一般規程参照）。

4.1 ヤングライダー

1. ヤングライダーは同一年にヤングライダー対象のFEI選手権大会と、シニア対象のFEI選手権大会あるいは大会（Games）に出場することはできない。
2. シニア対象のFEI選手権大会、地域大会またはオリンピック大会のグランプリに出場したヤングライダーは、ユース対象のいかなる国際馬場馬術競技会にも出場できなくなる。

4.2 ジュニア

1. ジュニアは同一年にジュニア対象のFEI選手権大会と、シニア対象のFEI選手権大会あるいは大会（Games）の両方に出場することはできない。
2. シニア対象のFEI選手権大会、あるいは地域大会またはオリンピック大会のグランプリに出場したジュニアは、ユース対象のいかなる国際馬場馬術競技会にも出場できなくなる。

4.3 ポニーライダー

1. ポニーの体高とその測定：獣医規程参照
2. いかなる国際競技会においても、ポニーは6歳以上でなければならない。

4.4 チルドレン

1. チャイルドはジュニア対象のFEI大陸馬場馬術選手権大会に出場できるが、同一年にチルドレン対象のFEI選手権大会とジュニア対象のFEI選手権大会の両方に出場することはできない。
2. ジュニア対象のFEI大陸馬場馬術選手権大会に出場したチャイルドは、チルドレン対象のFEI選手権大会には出場できなくなる。
3. 西ヨーロッパ域外では、チルドレンはポニーで競技に出場できる。
4. FEIチルドレン選手権大会には、前年および／または現行年にシニア対象のグランプリ競技に出場していない馬が出場できる。
5. 馬は、FEI選手権競技が行われる競技会期間中に、シニア対象のいかなる競技にも出場してはならない。

4.5 U25

1. U25ライダーは同一年にU25ライダー対象のFEI選手権大会と、シニア対象のFEI選手権大会あるいは大会（Games）の両方に出場することはできない。
2. シニア対象のFEI選手権大会、あるいは地域大会またはオリンピック大会のグランプリに出場したU25ライダーは、ユース対象のいかなる国際馬場馬術競技会にも出場できなくなる。

第3章 国際競技会

第5条 国際競技会

1. 競技会の種類

ユースカテゴリーを対象とする競技会としては以下のものがある：

- －国際競技会（CDIY, CDIJ, CDIP, CDICH-A, CDICH-B（貸与馬）, CDIU25）
- －公式国際競技会（CDIOY, CDIOJ, CDIOP, CDIOCh, CDI OU25）
- －大陸選手権大会（CH-D-Y, CH-EU-J, CH-EU-P, CH-EU-Ch, CH-EU-U25）

2. 国際競技会

2.1 CDIY, CDIJ, CDIP, CDICH, CDIU25 は開催国の個人選手、および参加国数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。

ユースカテゴリー対象 CDI 期間中に団体競技を行うことはできない。

3. 可能な競技組み合わせ：

3.1 第 422 条参照

4. 貸与馬による国際ユース競技会

4.1 FEI の承認を受ければ、組織委員会が提供する貸与馬にて馬場馬術の CDICH と CDICH を開催できる。

4.3 FEI の承認を受ければ、貸与馬を提供する競技会で組織委員会は以下の方式を採用できる：

4.4 開催国の選手が各々馬を 2 頭提供する。抽選を行って外国人選手と開催国選手とを組み合わせる。もう 1 回抽選を行って、開催国選手の馬のどちらかを相手の外国人選手に割り当てる。開催国選手は外国人選手に割り当てられなかった馬に騎乗する；あるいは、

4.5 開催国の選手が各々馬を 2 頭提供する。各外国人選手は開催国選手が各々騎乗する馬を抽選する。

残った馬を集めてもう 1 回抽選を行い、外国人選手に割り当てる；あるいは、

4.6 組織委員会が提供する馬全頭を抽選で出場選手に割り当てる；あるいは、

4.7 開催国選手が各々馬を 1 頭提供する。抽選を行って外国人選手と開催国選手とを組み合わせる。各馬には開催国選手と外国人選手が騎乗する。第 1 競技では開催国選手が先に自分の馬に騎乗する。

貸与馬競技についてはすべて以下の規定を適用する：

4.8 外国人選手には十分な頭数のリザーブ馬を提供しなければならない。明らかに外国人選手には不適切と思われる馬は、リザーブ馬に変更しなければならない。このような馬の代替は競技場審判団の承認があった場合にのみ可能である。

4.9 各選手とも抽選で決定した馬を、1 時間のライディング・セッションで少なくとも 1 回は調教する機会を与えられる。

4.10 組織委員会はスクーリング・セッションの管理規定を定める。

4.11 遅くとも第 1 競技の 2 日前までには馬を割り当てなければならない。

4.12 馬には毎日 1 回、最大限 1 時間騎乗できる。

4.13 馬には日常使われている銜であり、抽選に際して臨場した時の銜を使用して騎乗しなければならない。ホースオーナーの同意があった場合にのみ銜の交換ができる。

4.14 以下に別段の記載がある場合を除き、上記の 2.2.7 に則って行われる貸与馬競技には、上述および下記に示す規定を適用する。

5. 公式国際競技会

5.1 CDIOY, CDIOJ, CDIOP, CDIOCh, CDIOU25 はチームを派遣する 3 ヶ国以上を対象とする国際競技会である。西ヨーロッパ域外の国々については、FEI が例外を認める場合がある。

5.2 各 NF が開催できるユース対象の CDIO 数：一般規程第 103 条を参照

5.3 馬場馬術規程に定める通り、この競技会には該当カテゴリーの規程に明記されたチームと個人選手対象の公式競技を含めなければならない。

5.4 チームは 3 組か 4 組の人馬コンビネーションで構成し、上位 3 選手の成績をカウントする。組織委員会は団体競技のチーム構成を 2 人馬または 3 人馬コンビネーションとするかを選択できる。リザーブのコンビネーションは認められない。

5.5 チームを派遣できない NF は、2 人馬または 3 人馬構成のチーム招待の場合は 1 名の個人選手、3 人馬または 4 人馬構成のチーム招待の場合は 2 名までの個人選手を参加申込できる。

5.6 チームを参加申込した NF は、組織委員会の判断で個人選手の追加招待を受け、参加申込できることがある。これについては FEI 承認の実施要項への記載が必要である。

5.7 同一大陸で同一日程にて複数の CDIO を開催することは可能である。CDI または CDIO を、特定ユースカテゴリー対象の選手権大会と同一大陸で同一日程にて開催することはできない。

第 6 条 選手権大会

1. 選手権大会は FEI 一般規程、馬場馬術規程、本付則、およびここに記載の条項を厳格に遵守して開催しなければならない。

2. 原則として 4 ヶ国以上の参加がなければ選手権大会は開催できないが、ヨーロッパ域外で

は、（開催国を含めて）2ヶ国以上から不特定数の地域チームの参加をもって開催できる。参加申込締め切り日から FEI 選手権大会開始前までに出場を取り消しを行った NF は、参加とみなされる。

3. FEI 選手権大会は学校の長期休暇中に開催しなければならない。

4. FEI 選手権大会は天候により屋内での開催を余儀なくされる場合を除き、屋外での開催とする。

5. 賞金が授与される場合を除き、参加申込料や出場料を徴収してはならない。このような FEI 選手権大会について、FEI は世界共通の参加申込料上限を毎年定めることがある。

6. FEI 大陸選手権大会と他の FEI 選手権大会では、FEI の承認通りチームと個人選手にメダルが授与される。

第4章 その他の明細事項

第 7 条 経費と特典

1. 競技会

ユースアスリート対象の競技会組織委員会は、ホテルかユースホステル、あるいは個人家庭への宿泊や資金助成について招待選手の所属NFと交渉し、これを提供することは自由である。

2. FEI 選手権大会と CDIO

2.1 NF は自国のチーム監督、選手、グルーム、馬について、FEI 選手権大会と CDIO 開催地への往復旅費を負担する。

2.2 組織委員会については第 7 条 1 に示す規定を適用するが、以下に示す最低限の項目は世界共通参加申込料に含まれる：

- － 馬の厩舎と飼料
- － グルームができるだけ厩舎近くに滞在できるようにすること

宿泊を無料で提供できない場合は適切な宿泊施設を手配するか推薦し、実施要項に料金を記載しなければならない。

- － FEI 一般規程第 132 条 1（ホースオーナー）を適用する。
- － 開催国の国境および／または競技会場への出入りに関わる通関と獣医検査は組織委員会が手配し、その費用を負担する。
- － 組織委員会は選手と監督に（競技会場またはその他の場所で）無料で主たる食事を 1 回、望ましくは夕食を提供しなければならない。

2.3 役員：馬場馬術規程と一般規程を参照

3. 特典はすべて、ホースインスペクション前日から競技会終了の翌日まで提供する。

4. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームおよび／または個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合はチーム監督とその所属 NF が責任を負う。選手が個人家庭に宿泊しない場合、チーム監督はそのチームおよび／または個人選手と同泊しなければならない。

第8条 褒 賞

1. すべてのユースカテゴリー競技会において、賞金および／または賞品を授与しなければならない。

1.1 チルドレン：チルドレン対象の CDI では賞品が望ましい。FEI 選手権大会では FEI メダルと賞品のみ授与することができる；賞金は認められない。

2. FEI 選手権大会を除くすべての競技会において、賞金が授与されない場合は出場選手の 1/4、少なくとも第 5 位までの選手にリボンと賞品、あるいは記念品を授与しなければならない。少なくとも上位 4 名の個人選手には厩舎プレートを授与することが推奨される。

3. FEI 選手権大会では少なくとも以下に示す数の賞を授与しなければならない：

3.1 プレリミナリー競技とコンソレーション競技では、その出場選手の 1/4、少なくとも第 5 位までの選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボン。

3.2 団体 FEI 選手権競技では FEI メダル（FEI 一般規程を参照）。更にホースオーナーには賞金、および／または上位 4 チームの各メンバーに賞品と厩舎プレート、リボン。

3.3 個人 FEI 選手権競技（セントジョージ賞典と自由演技ヤングライダー）では FEI メダル（FEI 一般規程を参照）。更に出場選手の 1/4、少なくとも第 5 位までの選手に賞金および／または賞品、厩舎プレート、リボン。

3.4 FEI 選手権大会では表彰およびメダル授与式に特別な重要性をもたせ、アリーナで行うべきである。

3.5 組織委員会はチーム監督と選手全員に、記念品か厩舎プレートを進呈するものとする。

第9条 馬のスクーリング

馬のスクーリング：第 422 条 3.6 と第 428 条を参照

第5章 大陸および地域選手権大会

第 10 条 参加申込

1. 馬場馬術規程第 449 条と FEI 一般規程を参照のこと。開催国 NF は FEI の承認を受けた後に、招待状とともに実施要項を当該大陸あるいは地域の該当 NF へ送付する。

2. チーム

各 NF は 1 チームを参加申込できる。各チームは選手 3 名と馬 3 頭、あるいは選手 4 名と馬 4 頭で構成する。リザーブの人馬コンビネーションは認められない。

選手 4 名構成のチームの場合は、上位 3 選手のスコアだけをチーム成績にカウントする。FEI 選手権大会では各選手とも 1 頭の馬にのみ騎乗できる。組織委員会はチーム監督へ招待状を送付しなければならない、チーム監督へは選手と同等の特典が付与される。しかしヨーロッパ域外では、関連する諸々の NF がチーム数とチーム派遣の地域基準を定める場合がある。

3. チームに加えて派遣する個人選手

チームに加えて個人選手を派遣することは認められない。

4. チームに代る個人選手

チームを派遣できない NF は、1 名か 2 名の個人選手を各々 1 頭の馬とともに参加申込できる。

5. グループ NF は各馬につきグループ 1 名を派遣する権利がある。

6. NF は馬場馬術規程第 449 条に従い、2 段階の参加申込手続きを行わなければならない。

第 11 条 出場資格

1. 馬

1.1 出場資格については FEI ウェブサイトで公表された出場資格認定基準を厳守しなければならない。

1.2 FEI 選手権大会が FEI シニア選手権大会、CDIO あるいは CDI と同時に、あるいはほぼ同一時期に同一の場所で開催される場合は、これらの競技会期間中にユースアスリート年齢カテゴリーの選手とシニアが同一馬で出場したり、騎乗することはできない。

2. 選手

出場資格については FEI ウェブサイトで公表された出場資格認定基準を厳守しなければならない。

第 12 条 競技と課目

1. ヤングライダー、ジュニア、ポニーライダーおよび U25

1.1 競技は以下の構成とする：

プレリミナリー馬場馬術競技

参加は任意。チーム監督の判断で出場の申告。プレリナリー馬場馬術課目を実施しない場合は、団体課目が行われる前にメインアリーナで馴致できるよう、選手に時間を割り振らなければならない。

A. 団体馬場馬術 FEI 選手権

A1 これは団体馬場馬術競技である。

採用課目：団体馬場馬術課目。選手全員に出場が義務づけられる。

B. 個人馬場馬術 FEI 選手権

個人馬場馬術競技課目と自由演技課目は、個人 FEI 選手権競技である。

B1 個人課目決勝

個人課目は、団体馬場馬術競技に参加して演技を終了した選手全員を対象とする最初の個人 FEI 選手権競技である。チームが 4 名構成の場合は全員が参加できる。選手は最初の競技課目に出場して演技を終えていなければ次の競技に進めない。

B2 自由演技課目決勝

自由演技課目は個人自由演技 FEI 選手権競技であり、競技 B1 で同率第 18 位の人馬を含む上位 18 位までの予選通過人馬に出場が限定され、またその出場が義務づけられる。1 ヶ国につき上位 3 選手のみ出場できる。自由演技課目で同率となった場合は、芸術点の高い方を上位とする。

団体競技と個人競技の得点率を合算することはせず、競技はすべて 0 点からスタートする。

選手および／または馬の病気が確認された場合は、該当順位づけで次点の人馬コンビネーションが繰り上げ参加となり、出場枠を満たす。馬場馬術規程第 424 条を参照のこと。

CDIO／FEI 選手権競技では 1NF につき 4 名の選手が出場資格を得ても、上位 18 位以内で出場できるのは 3 名のみであるが、その予選通過した選手／馬が病気と診断された場合には、チーム内 4 番目の選手がこれに代る。馬場馬術規程第 424 条も参照のこと。

団体馬場馬術競技と個人馬場馬術競技は、本章に別段の記載がない限り、シニア馬場馬術規程第 2 章に記載の規定に従って開催する。

FEI 選手権大会開催方式

1 日目と 2 日目	団体課目	選手全員
3 日目と 4 日目	個人課目	選手全員
5 日目	自由演技課目	個人課目から上位 18 名（第 18 位または最上位で同率の選手を含む）

競技会全期間に加えてもう 1 日余分に設定されていない場合は、コンソレーションクラスを設けるべきである。参加は任意。

2. チルドレン

2.1 競技は以下の構成とする：

プレリミナリー競技：選手全員の出場が義務づけられる－チルドレン対象の FEI プレリミナリーB 課目

A. 団体馬場馬術 FEI 選手権

A1 これは団体馬場馬術競技である。

使用課目：団体馬場馬術課目。選手全員の出場が義務づけられる。選手は最初の競技課目に出場して演技を終えていなければ次の競技に進めない。

B. 個人馬場馬術 FEI 選手権

個人課目は個人 FEI 選手権競技である。

B1 個人課目決勝

この競技への出場は、チルドレン団体競技における上位 18 組の選手／馬を対象とするとともに、その出場が義務づけられる。同率第 18 位の人馬を含め、1 ヶ国につき上位 3 選手が出場できる。

コンソレーション競技

個人 FEI 選手権に出場しない選手を対象とする－任意－チルドレン対象の FEI プレリミナリー課目

第 13 条 団体順位と個人順位

馬場馬術規程第 434 条を参照のこと。

第 14 条 褒賞と賞金

賞金 FEI 一般規程に褒賞と賞金について言及がある。FEI 選手権大会の賞金配分については、競技条件に定め、該当する FEI 選手権大会への招待状と実施要項とともに送付しなければならない。

メダル 団体 FEI 選手権大会においては上位 3 チームに、そして個人 FEI 選手権大会と個人自由演技 FEI 選手権大会においては上位 3 名の個人選手に FEI メダルが授与される。

付則 2 国際馬場馬術審判員

1. カテゴリー

審判員は4つのカテゴリーに分類される：2*、3*、4*、5*

2. 言語

少なくとも英語を話すこと。

3. NFのサポート

いかなるFEI審判員も、FEIリストに留まると昇格にはNFのサポートが必要である。FEI一般規程を参照のこと。

4. 審判員の数

各々の地域で必要なFEI審判員の数は、その地域で開催される国際競技会数とそのレベルによって異なり、FEIがこれを決定する。

5. 競技会における審判員の選任

審判員の選任規定は、馬場馬術規程第437条および第446条に定める。

6. 資格と最低要件

2*、3*、4*、5*審判員の資格と最低要件はFEIが各々発表し、FEI馬場馬術審判員教育システムにより管理される。

競技会すべてのレベルで担当する資格のある技術代表リストはFEIが保持する。

技術代表の資格認定条件は以下の通り：

- － 現役または過去にFEI4*／5*馬場馬術審判員であり、FEI技術代表セミナーに参加していること、または
- － 特定規定および馬場馬術の広範な知識を有することを根拠に馬場馬術テクニカル委員会により選任され、FEI技術代表セミナーに参加していること。

一般条件：

7. 審判員の立替清算

国際馬場馬術競技会で業務を担う審判員は、以下の通りの支払いを受ける：

1. 渡航費用全額の清算。審判員には、渡航に要する時間や乗り継ぎなどを最小限に減らして便宜を図った旅程を提示するものとする。渡航プランについては、先ず当該審判員へ提示して了解を得たうえで予約をとらなければならない。6時間以上のノンストップフライトの場合はビジネスクラスを提供しなければならない。いかなる場合でも組織委員会と審判員との間で個別に渡航取り決めを行うことができる；例：エコノミークラスのフライト利用であれば日当を高くする。

2. 交通機関－空港とホテル間の移動手段については審判員と事前に連絡をとり、適切な手配を行う。自宅から自国空港までの交通機関費用あるいは自国空港の駐車料金は、組織委員会が立替清算をしなければならない。

3. （朝食に加えて）1日2回の適切な食事。組織委員会がその提供を怠った場合、審判員は一食につき25ユーロの日当追加を求めることができる。

4. 宿泊－朝食付きで3*以上のホテル宿泊（西ヨーロッパ基準）あるいは西ヨーロッパ域外ではこれに準ずる内容の提供。他の役員との同室は不可。

5. 120ユーロの日当（諸経費に対する報酬。この金額は、該当する税金を組織委員会が支払った後の手取り額である。）日当はすべての職務遂行日（競技の間に設けられた休養日を含む）に1日を加算して支払われるものとする。追加1日の日当については、職務遂行日に不都合なく移動できる場合に、当該役員の判断で放棄することもできる。

6. 役員に対しては大会期間中、職務を担当していない期間に競技を観戦できる適切な席を提供しなければならない。

8. 利益相反

いかなる審判員も、その任務を受けることにより利益相反が生じると思われる場合には、競技会にて審判員を務めることができない。馬場馬術審判員のFEI規範（付則14）、FEI役員の行動規範、およびFEI一般規程を参照のこと。

規範／諸規程の違反についてはFEIと馬場馬術テクニカル委員会へ報告を行い、FEI法務部門に付託して対応を求める。

9. 競技に出場しているおよび／またはトレーニングを行う審判員

FEI審判員は、同一暦年に同一大陸にてFEIシニア競技の審判員を務めつつ、国際競技へ出場することはできない。毎年1月1日までに、その年は審判員を務めることを希望するのか、あるいは競技への出場を希望するのか、所属NFを通してFEIへ申告しなければならない。

付則14に記載の通り、FEI審判員は自身が定期的にトレーニングを行っている選手を審査することはできない。

10. 無活動

3年を超える期間、審判業務から離れており、資格を再認定されていないFEI役員は、FEIによりFEI馬場馬術役員リストから除名される。活動を行っていない／資格を再認定されていないとい

う理由でリストから除名された役員で、資格を復活させたい者は、改めて資格認定手順を踏まなければ復権できない。該当するFEI教育システムを参照のこと。

11. 競技の評価

同一課目の審査で総合成績に審判員間で5%を超える差が生じた場合、競技場審判団長および／または主任審判員／外国人審判員は、審判員とミーティングをもって評定を行わなければならない。ミーティングはその競技終了後24時間以内に行わなければならない。高レベル競技会の場合は問題となった人馬コンビネーションのビデオを用いて行う。低レベル競技会の場合はビデオの使用が推奨される。

3*／4*／5*審判員は、国際馬場馬術競技会にて競技場審判団長やその他の競技場審判団メンバーのセクレタリーやアシスタントを務めることはできないが、2*、3*、4*審判員はSit-in（同席）することが認められる。2*審判員は、インターメディエイトII以上の競技でセクレタリーあるいはアシスタントを務めることができる。

FEI馬場馬術審判員教育システムや諸条件の詳細については、FEIウェブサイト－馬場馬術を参照のこと。

12. 競技会における競技場審判団メンバーのローテーション

3名構成の競技場審判団の場合：毎年新たなメンバーを少なくとも1名は入れること。

5名あるいは7名構成の競技場審判団の場合：毎年新たなメンバーを少なくとも2名は入れること。

審判員は2年間を空ければ同じ競技会の競技場審判団へ戻るすることができる。

競技場審判団メンバーは、2年続けてFEI外国人審判員を務めることはできない。

付則 3 貸与馬で行う CDI/CDIO の指針

FEIの承認を受けて、開催国NFが借り上げた馬匹を使用して国際競技会あるいは競技を開催することができる。その場合は以下の条件を適用する：

1. 実施要項には馬の借り上げと競技運営の追加条件を記載しなければならない。

ホースインスペクションと抽選の前に打ち合わせ会を行い、貸与馬と競技会運営に関する特定条件について、チーム監督や選手、ホースオーナー、役員に説明しなければならない。

2. 組織委員会が必要な頭数の馬（選手1名につき2頭が上限）を準備する。すべての選手が同じ頭数の馬に騎乗できるようにするべきである。

2.1 いずれの馬も、使用する競技レベルに相当する競技能力をもつものでなければならない。世界馬場馬術ランキングリストに掲載されている馬を貸与馬競技に用いることはできない。

2.2 各選手に2頭ずつ割り当てただけの馬がいらない場合は、人数分に加えて少なくとも3～4頭のリザーブ馬を準備しなければならない。

2.3 馬の抽選は実行可能な範囲でできるだけ早く、遅くとも第1競技開始の24時間前までに行わなければならない。

3. ホースインスペクションは競技場審判団長／外国人審判員、獣医師代表団長あるいは獣医師代表、チーム監督あるいはチーム代表、および選手が臨席する場で行わなければならない。

適正に馬の個体識別を行わなければならない。

3.1 ホースオーナーは馬場馬術規程第428条に準拠した勒を持参して当該馬に使用する。競技場審判団長は各馬の勒と銜の記録をとる。競技場審判団長の特別許可がある場合を除き、この勒と銜は競技会期間を通して変更することはできない。

3.2 リザーブ馬はすべてインスペクションを受けなければならない。FEI獣医師代表と競技場審判団長、および外国人審判員／技術代表が認めた場合にのみ代替可能である。チーム馬はチーム内であれば交換できる。

4. 抽選：第1競技開始の当日か前日に、馬場馬術規程第425条に準拠したスターティングオーダーの抽選を行う。

5. 最終個人競技を行う場合は次の要領で行わなければならない：

a) 出場資格：団体競技の成績で、同率第15位の人馬を含む上位15位までの人馬コンビネー

ションに出場資格がある。

b) スターティングオーダー – 個人最終競技：予選競技で上位15位までに入った選手の騎乗馬の中で抽選を行う。選手が団体競技、あるいはその他の予選競技で騎乗した馬と同じ馬にあたった場合は、もう一度抽選を行わなければならない。選手は1頭の馬でのみ出場できる。

c) 最終個人順位：（予選と最終個人競技）両競技の成績が最終個人順位にカウントされる。各競技の得点率を合計する。

d) 同点：第1位で同点となった場合は、最終個人競技でスコアの高い選手を上位とする。

6. 抽選を行った後に獣医師代表／獣医師代表団が馬の競技出場は不適性であると診断した場合に備えて、組織委員会は妥当な頭数のリザーブ馬を提供するべきである。リザーブ馬名は抽選時に発表しなければならない。

6.1 上記の場合はリザーブ馬の抽選を行わなければならない。これらの馬はホースインスペクションに合格していなければならない。選手数や馬の頭数がいかようであっても、抽選の際には選手数を上回る頭数の馬を準備する努力をしなければならない。

7. 競技会全体で、選手が各々2頭または3頭を抽選で引くような場合は、最低1時間の練習時間を設けなければならない、それは競技会開始の前日が望ましい。選手は全員、各競技における各自の出番前に30分間のウォームアップと調教を行うことができる（第5項に記載の競技を除く）。これについてはFEI技術代表とFEIスチュワードが監視しなければならない。

8. 国内馬だけが出場し、その個体識別がNF認定書類で可能な場合は、FEIパスポートを必要としない。

付則 4 パ・ド・ドウ

パ・ド・ドウは国際競技馬場馬術における 1 競技であり、2 組の人馬コンビネーションが同時にアリーナに入る。パ・ド・ドウのチームは馬 2 頭と選手 2 名で構成し、各々の人馬コンビネーションが個人として、またチームとして演技を行う。採点は実施した運動項目のクオリティに重きが置かれる。パ・ド・ドウのチームは、指定の自由演技レベルで自らの振り付けにて演技を行う。

審査：3 名の審判員が C 地点に着席する。審判員 1 組の人馬コンビネーションを審査し、もう 1 名の審判員は他方の人馬コンビネーションを審査する。両審判員とも技術点のみ出す。3 人目の審判員が演技の芸術面を審査する。

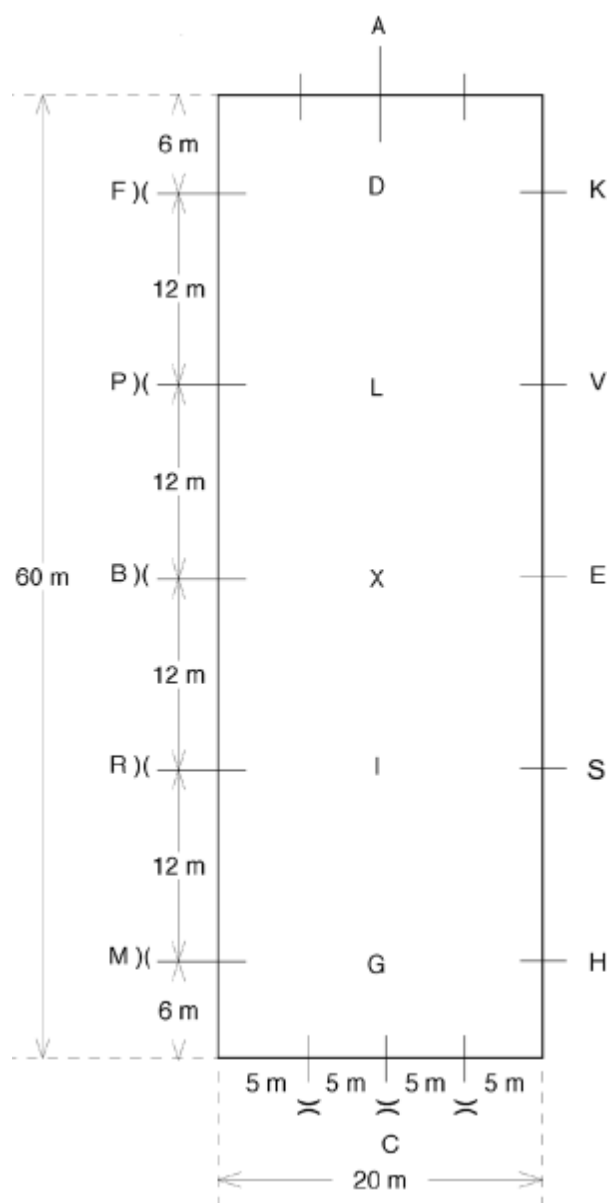
審査用紙：自由演技課目の審査用紙

付則 5 厩舎セキュリティ

1. 必要最小限度の FEI 厩舎セキュリティ

CDI、CDIO、FEI 選手権大会、および大会（Games）における要件については、FEI 獣医規程を参照のこと。

付則 6 馬場馬術アリーナ



付則 7 国際馬場馬術競技会のカテゴリー

注記：下記の一覧は参考までの提示である。この一覧の記載情報と FEI 諸規程とで食い違いが生じた場合には、後者が優先する。

	CDI- W	CDI5*	CDI4*	CDI3*
参加	<p>FEI 馬場馬術ワールドカップ™ 規程を参照。</p> <p>選手と馬はすべて FEI 登録が必要である。</p> <p>選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。</p>	<p>開催国NFを含む6NF以上を各々2名以上の選手で招待、<u>あるいは</u>12NFを各々選手1名以上で招待（招待選手15名までの場合は開催国NFを含めて4NF以上）。組織委員会は外国人選手数を上回って自国選手を招待することはできない。ワイルドカードについてはFEI馬場馬術規程第423条を参照。</p> <p>選手と馬はすべてFEI登録が必要である。</p> <p>出場資格として、人馬コンビネーションは前年の1月1日以降に、CDI3*/CDI4*/CDI-WまたはCDIO3*/CDIO4*（コンソレーション競技はカウントしない）の異なる2大会のグランプリで64%以上を獲得していること。</p> <p>選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。</p>	<p>開催国NFを含む6NF以上を各々2名以上の選手で招待、<u>あるいは</u>12NFを各々選手1名以上で招待（招待選手15名までの場合は開催国NFを含めて4NF以上）。組織委員会は外国人選手数を上回って自国選手を招待することはできない。ワイルドカードについてはFEI馬場馬術規程第423条を参照。</p> <p>選手と馬はすべてFEI登録が必要である。</p> <p>選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。</p>	<p>開催国NFを含む6NF以上を各々2名以上の選手で招待、<u>あるいは</u>12NFを各々選手1名以上で招待（招待選手15名までの場合は開催国NFを含めて4NF以上）。組織委員会は外国人選手数を上回って自国選手を招待することはできない。ワイルドカードについてはFEI馬場馬術規程第423条を参照。</p> <p>選手と馬はすべてFEI登録が必要である。</p> <p>選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。</p>

年齢	16歳以上の選手	16歳以上の選手	16歳以上の選手	16歳以上の選手
馬	8歳以上（グランプリ、 グランプリスペシャル、 自由演技グランプリ） スモールツアー：7歳以上	8歳以上（グランプリ、 グランプリスペシャル、 自由演技グランプリ） スモールツアー：7歳以上	8歳以上（グランプリ、 グランプリスペシャル、 自由演技グランプリ） スモールツアー：7歳以上	8歳以上（グランプリ、 グランプリスペシャル、 自由演技グランプリ） スモールツアー：7歳以上
選手	選手はパスポート発給国の管 轄下でのみ出場できる。	選手はパスポート発給国の管 轄下でのみ出場できる。	選手はパスポート発給国の管轄 下でのみ出場できる。	選手はパスポート発給国の管 轄下でのみ出場できる。
競技	FEI グランプリと FEI 自由演 技グランプリが必須。 ミディアムツアーとスモール ツアーも開催できる。	FEI グランプリスペシャルおよ び／またはFEI自由演技グラン プリを含むFEIグランプリ。 ミディアムツアーとスモール ツアーも開催できる。	FEI グランプリスペシャルおよ び／またはFEI自由演技グラン プリを含むFEIグランプリ。 ミディアムツアーとスモール ツアーも開催できる。	FEI グランプリスペシャルおよ び／またはFEI自由演技グラン プリを含むFEIグランプリ。 ミディアムツアーとスモール ツアーも開催できる。
馬の パスポート	FEIパスポート (FEI一般規程第137条も参照)	FEIパスポート (FEI一般規程第137条も参照)	FEIパスポート (FEI一般規程第137条も参照)	FEIパスポート (FEI一般規程第137条も参照)
参加 申込料	WELについては500スイス フランを上限とする。他の CDI-Wでは規制なし	600スイスフランが上限	525スイスフランが上限	制限はないが、賞金額と ホスピタリティーとの 兼ね合いを考慮
敷料－ ワラ	WELでは最初の敷料は組織委 員会の費用負担。他のCDI-W については組織委員会か選手 負担のいずれかを選択	敷料は組織委員会の費用負担	最初の敷料は組織委員会の 費用負担	組織委員会か選手負担の いずれかを選択
糞尿処理	馬1頭につき上限40ユーロ	馬1頭につき上限40ユーロ	馬1頭につき上限40ユーロ	馬1頭につき上限40ユーロ
同一競技会場で週末に連続して行われる競技会（“ツアー”）については、ツアー最初の競技会で各馬に上限40ユーロを課し、その後の各競技会で上限20ユーロを課することができる。				

食事 選手/ グループ	WELでは組織委員会の費用負担。他のCDI-Wについては組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会の費用負担 朝食 + 食事1回分	組織委員会の費用負担 朝食 + 食事1回分	組織委員会か選手いずれの負担かを選択
宿泊	WELでは組織委員会の費用負担。他のCDI-Wについては組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会の費用負担	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択
フットイング	AIDEO最低基準に従う(1)	AIDEO最低基準に従う(1)	AIDEO最低基準に従う(1)	規制なし
賞金	WEL グランプリ : 15,000ユーロ以上 自由演技グランプリ : 50,000ユーロ以上 他のCDI-Wでは必要条件なし	90,000スイスフラン以上 上限なし	24,000スイスフラン以上 89,999スイスフラン以下	下限なし 23,999スイスフラン以下

<p>競技場審判団</p>	<p>審判員：FEIリストより5名；少なくとも3名は互いに国籍の異なる外国人審判員。 5*審判員を3名以上（WEL）と外国人審判員はFEIが選任</p> <p>FEI審判員7名制を採用でき、そのうち少なくとも4名は外国人審判員とし、2名までは同一NFの審判員でもよい。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEIリストより5名；少なくとも3名は互いに国籍の異なる外国人審判員。 5*審判員を3名以上 4*審判員を1名以上</p> <p>FEI審判員7名制を採用でき、そのうち少なくとも4名は外国人審判員とし、2名までは同一NFの審判員でもよい。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEIリストより5名；少なくとも3名は互いに国籍の異なる外国人審判員。 5*審判員を2名以上 4*審判員を2名以上</p> <p>FEI審判員7名制を採用でき、そのうち少なくとも4名は外国人審判員とし、2名までは同一NFの審判員でもよい。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEIリストより5名；少なくとも3名は互いに国籍の異なる外国人審判員。西ヨーロッパでは3*審判員1名の採用が必須、また西ヨーロッパ域外ではこれを推奨。</p> <p>3*審判員は2名まで許可され、ビッグツアーを担当する。スモールツアーを実施する場合は、2*審判員あるいは3*審判員を2名選任できる。4*審判員を1名以上。</p> <p>西ヨーロッパ域外では、外国人審判員3名のうち2名は同国籍でもよい。</p> <p>FEI審判員7名制を採用でき、そのうち少なくとも4名は外国人審判員とし、2名までは同一NFの審判員でもよい。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>
---------------	--	--	--	--

	CDI2*	CDI1*	CDIY/J/U25	CDIP/Ch	CDIAm (アマチュア)
参加	NF数に制限なし。 選手と馬はすべてFEI登録が必要である。 選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。	NF数に制限なし。 選手と馬はすべてFEI登録が必要である。 選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。	NF数に制限なし。 選手と馬／ポニーはすべてFEI登録が必要である。 選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。	NF数に制限なし。 選手と馬／ポニーはすべてFEI登録が必要である。 選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。	NF数に制限なし。 選手と馬はすべてFEI登録が必要である。 選手が騎乗できる頭数は、組織委員会の判断に任される。
年齢	16歳以上の選手	16歳以上の選手	FEI一般規程を参照	FEI一般規程を参照	26歳以上の選手
馬	馬：7歳以上 ミディアムツアーとビッグツアーは8歳以上	馬：7歳以上	馬：6歳以上 セントジョージ賞典レベルは7歳以上 ミディアムツアーとビッグツアーは8歳以上	馬：6歳以上 ポニー：6歳以上	馬：7歳以上 ミディアムツアーは8歳以上
選手	外国に居住する選手はホスト国NFから許可を得て、同国の競技会に出場できる。	外国に居住する選手はホスト国NFから許可を得て、同国の競技会に出場できる。	外国に居住する選手が18歳未満である場合は、ホスト国の管轄下に出場できる。	外国に居住する選手が18歳未満である場合は、ホスト国の管轄下に出場できる。	外国に居住する選手はホスト国NFから許可を得て、同国の競技会に出場できる。選手はデフィニットエントリー時点でFEI馬場馬術世界ランキングリストにランクされていないこと

競技	FEIグランプリスペシャルとFEI自由演技グランプリを除く、FEIグランプリまで	自由演技インターメディエイトⅠを含むFEIインターメディエイトⅠまで	FEIジュニア課目 FEIヤングライダー課目 U25：インターメディエイトA、インターメディエイトB、インターメディエイトⅡ、グランプリ16~25、自由演技グランプリ	FEIポニーライダー課目 FEIチルドレン課目	FEIグランプリスペシャルとFEI自由演技グランプリを除く、FEIグランプリまで
馬のパスポート	自国で競技に参加する場合はFEIパスポートを携帯する必要はないが、当該馬は所属NFに登録されており、図によって個体識別ができ、有効な予防接種証明書がなければならない。	自国で競技に参加する場合はFEIパスポートを携帯する必要はないが、当該馬は所属NFに登録されており、図によって個体識別ができ、有効な予防接種証明書がなければならない。	自国で競技に参加する場合はFEIパスポートを携帯する必要はないが、当該馬／ポニーは所属NFに登録されており、図によって個体識別ができ、有効な予防接種証明書がなければならない。	自国で競技に参加する場合はFEIパスポートを携帯する必要はないが、当該馬／ポニーは所属NFに登録されており、図によって個体識別ができ、有効な予防接種証明書がなければならない。	自国で競技に参加する場合はFEIパスポートを携帯する必要はないが、当該馬は所属NFに登録されており、図によって個体識別ができ、有効な予防接種証明書がなければならない。
参加申込料	規制なし	規制なし	規制なし	規制なし	800スイスフランが上限（VAT含む）
敷料－フラ	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択
糞尿処理	馬1頭につき上限40ユーロ	馬1頭につき上限40ユーロ	馬1頭につき上限40ユーロ	馬1頭につき上限40ユーロ	馬1頭につき上限40ユーロ
	同一競技会場で週末に連続して行われる競技会（“ツアー”）については、ツアー最初の競技会で各馬に上限40ユーロを課し、その後の各競技会で上限20ユーロを課することができる。				

食事 選手／ グループ	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択
宿泊	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択
フットイング	規制なし	規制なし	規制なし	規制なし	規制なし
賞金	規制なし	規制なし	規制なし	規制なし	規制なし
競技場審判団	<p>審判員：FEI審判員リストより3名以上。5名構成の競技場審判団では、少なくとも2名は互いに国籍の異なる外国人審判員であること。</p> <p>3名構成の競技場審判団では、少なくとも1名は外国人審判員。5名構成の競技場審判団の場合は、開催国NFからグランプリレベルの国内審判員を1名選任できる。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEI審判員リストより3名以上。5名構成の競技場審判団では、少なくとも2名は互いに国籍の異なる外国人審判員であること。</p> <p>3名構成の競技場審判団では、少なくとも1名は外国人審判員。3名構成の競技場審判団の場合は、開催国NFからグランプリレベルの国内審判員を1名、5名構成の場合は2名選任できる。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>	<p>審判員：3名以上のFEI審判員。5名構成の競技場審判団では、開催国NFより国内審判員を1名選任することもできる。</p> <p>3名構成の競技場審判団では、2名以上を互いに国籍の異なる外国人審判員とし、5名構成の場合も互いに国籍の異なる外国人審判員を2名以上選任しなければならない（ヨーロッパ域外では3名構成の場合、少なくとも外国人審判員を1名選任しなければならない）。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>	<p>審判員：3名以上のFEI審判員。5名構成の競技場審判団では、開催国NFより国内審判員を1名選任することもできる。</p> <p>3名構成の競技場審判団では、2名以上を互いに国籍の異なる外国人審判員とし、5名構成の場合も互いに国籍の異なる外国人審判員を2名以上選任しなければならない（ヨーロッパ域外では3名構成の場合、少なくとも外国人審判員を1名選任しなければならない）。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEI審判員リストより3名以上。5名構成の競技場審判団では、少なくとも2名は互いに国籍の異なる外国人審判員であること。3名構成の競技場審判団では、少なくとも1名は外国人審判員。3名構成の競技場審判団の場合は、開催国NFからグランプリレベルの国内審判員を1名、5名構成の場合は2名選任できる。</p> <p>審判員の日当：120ユーロ*</p>

公式国際馬場馬術競技会のカテゴリー*

*CDIOのみ－FEI選手権大会と大会（Games）の特別規程

	CDIO5*	CDIO4*	CDIO3*	CDIO2*	CDIOU25/YR/J/P/Ch
参加	開催国NFを含む6NF以上を招待。 選手と馬はすべてFEI登録が必要である。 出場資格として、人馬コンビネーションは前年の1月1日以降にCDI3*／CDI4*、CDI-W／CDI5*またはCDIO3*／CDIO4*（コンソレーション競技はカウントしない）の異なる2大会のグランプリで64%以上を獲得していること。 各選手につき騎乗馬は1頭	開催国NFを含む6NF以上を招待。 選手と馬はすべてFEI登録が必要である。 各選手につき騎乗馬は1頭	開催国NFを含む6NF以上を招待。 選手と馬はすべてFEI登録が必要である。 各選手につき騎乗馬は1頭	開催国NFを含む2NF以上を招待。 選手と馬はすべてFEI登録が必要である。 各選手につき騎乗馬は1頭	開催国NFを含む3NF以上を招待。 選手と馬／ポニーはすべてFEI登録が必要である。 各選手につき騎乗馬／ポニーは1頭
年齢	選手：16歳以上 馬：8歳以上	選手：16歳以上 馬：8歳以上	選手：16歳以上 馬：8歳以上	選手：16歳以上 馬：8歳以上	選手：FEI一般規程を参照 馬：6歳以上（J／Ch） 7歳以上（YR） 8歳以上（U25） ポニー：6歳以上

選手	選手はパスポート発給国の管轄下でのみ出場できる。	選手はパスポート発給国の管轄下でのみ出場できる。	選手はパスポート発給国の管轄下でのみ出場できる。	選手はパスポート発給国の管轄下でのみ出場できる。	18歳以上：選手はパスポート発給国の管轄下でのみ出場できる。
競技	FEIグランプリ、FEIグランプリスペシャル および／またはFEI自由演技グランプリ	FEIグランプリ、FEIグランプリスペシャル および／またはFEI自由演技グランプリ	FEIグランプリ、FEIグランプリスペシャル および／またはFEI自由演技グランプリ	インターメディエイトA インターメディエイトB	CDIOY/CDIOJ/CDIOP: 団体競技 個人競技 個人自由演技 CDIOU25: インターメディエイトII グランプリ16-25 自由演技グランプリ CDIOCh: プレリナリー課目B 団体競技 個人競技
馬のパスポート	FEIパスポートが必須	FEIパスポートが必須	FEIパスポートが必須	FEIパスポートが必須	FEIパスポートが必須
参加申込料	規制なし	規制なし	規制なし	規制なし	規制なし
敷料－ワラ	厩舎と飼料は無料	厩舎と飼料は無料	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択
糞尿処理	馬1頭につき 上限40ユーロ	馬1頭につき 上限40ユーロ	馬1頭につき 上限40ユーロ	馬1頭につき 上限40ユーロ	馬1頭につき 上限40ユーロ
	同一競技会場で週末に連続して行われる競技会（“ツアー”）については、ツアー最初の競技会で各馬に上限40ユーロを課し、その後の各競技会で上限20ユーロを課することができる。				

食事 選手／ グループ	1日3食	1日2食	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	選手と監督に無料で食事を1回提供しなければならない。
宿泊	宿泊無料	宿泊無料	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択	組織委員会か選手いずれの負担かを選択
フットイング	AIDEO最低基準に従う (1)	AIDEO最低基準に従う (1)	規制なし	規制なし	規制なし
賞金	100,000スイスフラン 以上 上限なし ネーションズカップ方式：グランプリ団体競技を最高額賞金とする	50,000スイスフラン 以上 99,999スイスフラン 以下 ネーションズカップ方式：グランプリ団体競技を最高額賞金とする	下限なし 49,999スイスフラン 以下 ネーションズカップ方式：グランプリ団体競技を最高額賞金とする	下限なし 32,999スイスフラン 以下	規制なし CDIOChでは賞品の授与のみ認められる。 ネーションズカップ方式：グランプリ団体競技を最高額賞金とする

競技場審判団	<p>審判員：FEI5*審判員 および4*審判員リスト より5名。少なくとも3 名は互いに国籍の異なる 外国人審判員。 5*審判員を3名以上。</p> <p>FEI審判員7名制を採用 でき、そのうち少なく とも4名は外国籍とし 、また2名までは同一 NFから選任できる。</p> <p>審判員の日当： 120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEI5*審判員 および4*審判員リスト より5名。少なくとも3 名は互いに国籍の異なる 外国人審判員。 5*審判員を2名以上。</p> <p>FEI審判員7名制を採用 でき、そのうち少なく とも4名は外国籍とし 、また2名までは同一 NFから選任できる。</p> <p>審判員の日当： 120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEI5*審判員 および4*審判員リスト より5名。少なくとも3 名は互いに国籍の異なる 外国人審判員。 FEI審判員7名制を採用 でき、そのうち少なく とも4名は外国籍とし 、また2名までは同一 NFから選任できる。</p> <p>審判員の日当： 120ユーロ*</p>	<p>審判員：FEI3*、4*、 5*審判員リストより5 名。少なくとも3名は 互いに国籍の異なる外 国人審判員。 少なくとも4*か5*審 判員を2名。</p> <p>審判員の日当： 120ユーロ*</p>	<p>審判員：3名以上のFEI審 判員。5名構成の競技場審 判団の場合は、開催国NF から、国内審判員を1名選 任することもできる。 3名構成の競技場審判団で は、2名以上を互いに国籍 の異なる外国人審判員とし 、5名構成の場合も互いに 国籍の異なる外国人審判員 を2名以上選任しなければ ならない。</p> <p>審判員の日当： 120ユーロ*</p>
---------------	--	--	---	---	---

* 諸経費への報酬。金額は発生し得る税金を支払った後に審判員へ支払われる手取り額。

定義：AIDEO最低基準のフットイング

馬場素材は弾性があってグリップが良く、砂に沈み込むような余裕を蹄に与えるものでなければならない。素材の粒子は大き過ぎず、砂や石材の粒子は4mm以下とし、フリースの場合は約30mm、繊維の長さは50mm未満とする。フリースや繊維を混ぜ込む割合は高すぎてはならない。木材サプリメントは害はないが、オガの大きさは40×10mm以内とする（注意：木材は有機質である）。使用する素材表面は粗過ぎることなく、また鋭利な面があってはならない。排水状態にもよるが、特定の条件下ではゴム製マットは有用であろう。馬場の維持管理に際しては馬場を点圧し過ぎないようにし、保湿レベルを適性に保つよう留意するべきである。蹄に粘着するような素材であってはならない。

付則 8—名誉バッジ

2005年1月1日以降

1. 名誉バッジは（FEI一般規程第132条に概説の特典とともに）次の基準で選手に授与される：
2. **CDIO**のグランプリで上位第15位までに入った回数が：

14回のCDIOにて	－ ゴールドバッジ
10回のCDIOにて	－ シルバーバッジ
6回のCDIOにて	－ ブロンズバッジ
3. CDIOのグランプリスペシャルへの出場（FEI選手権大会方式）は、2回のCDIOに相当する。
4. CDIOでのグランプリスペシャルか自由演技グランプリへの出場（ネーションズカップ方式）は、2回のCDIOに相当する。
5. FEI大陸選手権大会、FEI世界選手権大会、オリンピック大会のグランプリスペシャルへの出場は、3回のCDIOに相当する。
6. CDIOの自由演技グランプリへの出場（FEI選手権大会方式）は、3回のCDIOに相当する。
7. FEI大陸選手権大会、FEI世界選手権大会、FEIワールドカップTM馬場馬術ファイナル、オリンピック大会の自由演技グランプリへの出場は、4回のCDIOに相当する。
8. 名誉章バッジの申請にはそれを裏付けるものが必要である。

付則9－FEI馬場馬術審判員規範

FEIは今後、国際馬術スポーツにて職務を務めるすべての者に対し、FEI役員の行動規範（一般規程参照）およびFEI馬場馬術審判員規範の遵守を求める：

1. FEI馬場馬術審判員は馬場馬術と馬のエキスパートであり、馬場馬術の原理およびFEI諸規程を熟知し、その技術的力量に基づいてFEI国際馬場馬術競技を審査する資格を得た者である。当該人物は常にFEIを代表するものである。

2. 審判員は実際の利益相反または利益相反になると思われる行為を避けなければならない。審判員は選手、馬のオーナー、組織委員会、その他役員に対して中立で、他に依存せずフェアな立場を維持し、チームに融合しなければならない。金銭的および／または個人的関心が審査方法に影響を及ぼすことがあってはならず、または及ぼしていると思われる状況も認められない。

競技会期間中を通して任務遂行に適した健康状態を維持することは審判員の責務である。

これに限定するものではないが、CDIにて任務を遂行するうえで「利益相反」に至る、または至るとと思われる行為は以下の通りである：

- 競技会の前12ヶ月間に3日を超えて、これに出場する馬／選手をトレーニングすること、またはオリンピック大会、世界馬術選手権大会（WEG）、グランプリレベルの大陸選手権大会、またはワールドカップ・ファイナルの前9ヶ月間およびその他FEI競技会の前3か月間に馬／選手をトレーニングすること。
- 愛国主義的な審査を行うこと。

審判員には上記のいずれか、またはその他の利益相反もしくは利益相反とみなされ得る状況についてFEIへ書面にて通知する責任がある。

3. 審判員は担当する競技課目について十分に準備し、組織委員会および他の審判員らと緊密に協力しなければならない。

4. 審判員はしかるべき服装を着用し、常にFEIを代表している自覚がなければならない。ジャッジ・シグナリング・システムを除き、審査中はジャッジボックス内で携帯電話を含む電子通信機器を使用することは禁止である。その日の審査が終了するまで、審判員は飲酒をするべきではない。審判員は審査に際して、前に行われた課目のスコアを使用してはならない。

4.1 ジャッジボックスへは、（昇格要件を満たすための役員を含む）審判業務に関わる者のみ入ることができる。いかなる例外も競技場審判団長の事前承認が必要であり、FEIへの外国人審判員報告書に記載しなければならない。メディアあるいは記録機器をジャッジボックスへ入れることは認められない。

5. FEIとFEI馬場馬術委員会は、本規範とFEI諸規程に従わない審判員に対して懲戒処分をとる権利がある。

そのような懲戒処分には以下が含まれる（一般規程も参照－FEI役員の行動規範）：

- 警告文書
- 一時的な資格停止
- 降格
- FEI馬場馬術審判員リストからの除名

付則10 日当

審判員、技術代表およびスチュワードの日当：

1. 120ユーロの日当（諸経費に対する報酬。この金額は、該当する税金を組織委員会が支払った後の手取り額である。）。日当はすべての職務遂行日に1日を加算して支払われるものとする。追加1日の日当については、職務遂行日に不都合なく移動できる場合に、当該役員の判断で放棄することもある。

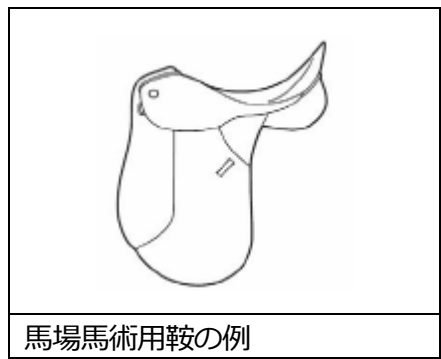
2. 審判員：詳細は付則7を参照

3. 獣医師代表：獣医規程を参照

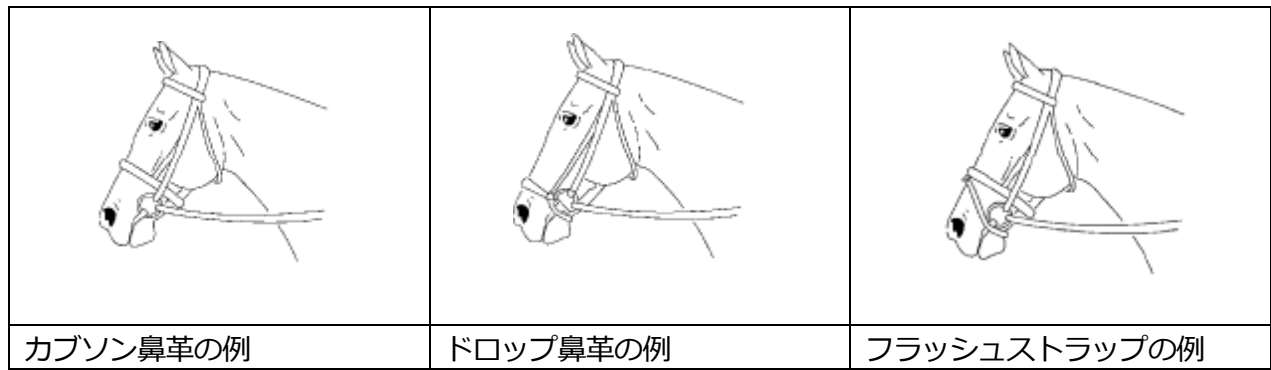
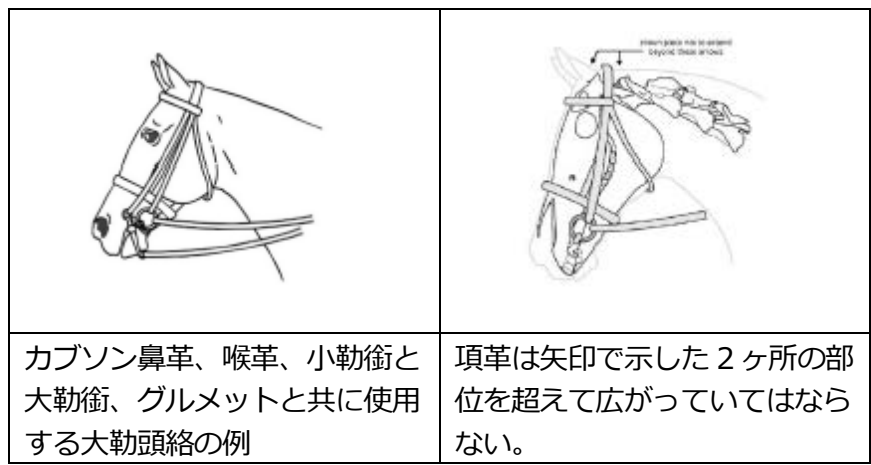
付則11 装具／馬具参照例




本付則は第428条の参照用であり、記述規定と併せて参照しなければならず、記述規定が本付則に優先する。下記の図は参照例であり、馬に同様の影響を及ぼす類似装具も記載規定に準拠していれば認められる。

鞍










頭絡



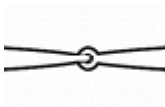


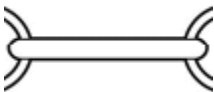


		
交叉／メキシコ／グラクル鼻革の例	コンビ鼻革の例－喉革は不要	ミクレム式頭絡の例－喉革は不要



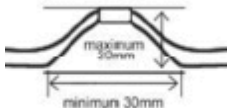
銜

チークピース：

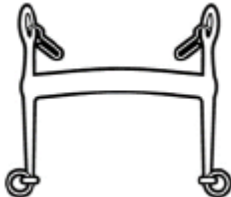
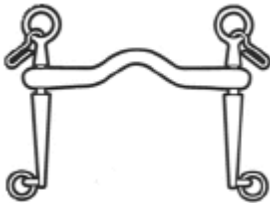
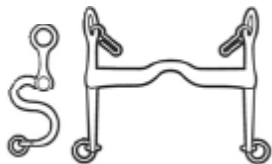
		
ルースリングチークの例	エッグバットチークの例	D-リングチークの例
		
アッパーチークの例	フルチークの例	ハンギングチークの例
		
フルマーチークの例		

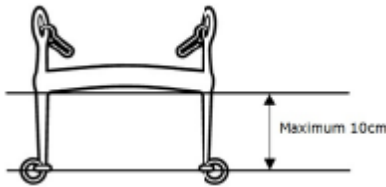
銜身：

		
シングルジョイント銜身の例	ダブルジョイント銜身の例	ダブルジョイント銜身の例
		

棒銜身の例	バレルジョイントの例	ボールジョイントの例
		
ダブルボールジョイントの例	ローラー付きセンターピースの例	舌ゆるめの寸法

大勒銜：

		
真直ぐなチーク付き大勒銜の例	舌ゆるめと遊動式銜身の付いた大勒銜の例（回転式アームも許可される）	S字形チークの付いた大勒銜の例


レバーアーム（銜枝）の長さ上限

	
グルメットの例	革製グルメットカバーの例
	
グルメット留め革の例	グルメットカバーの例